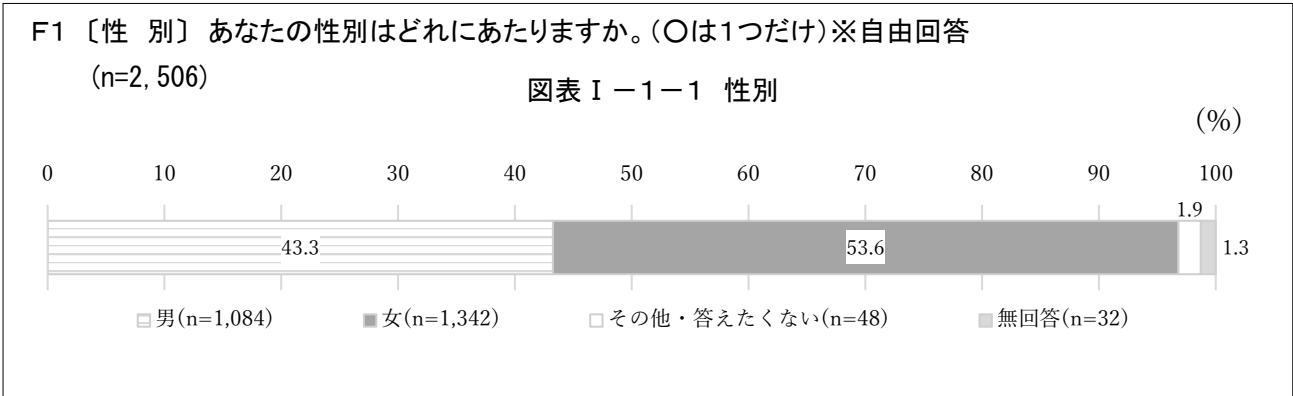


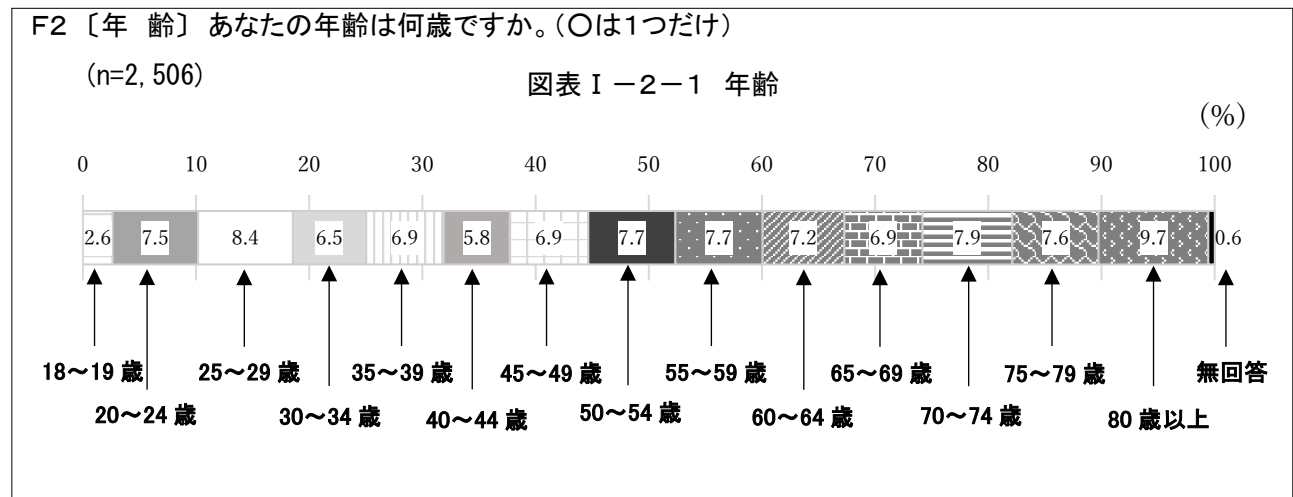
第 3 調查結果

I 調査対象者の属性

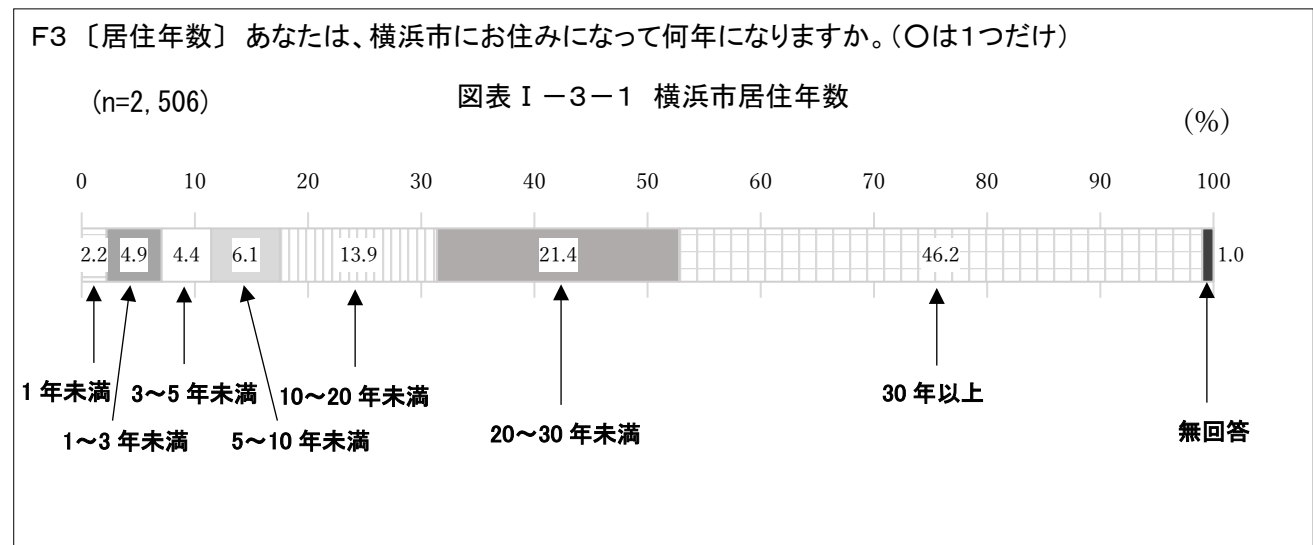
1 性別



2 年齢



3 横浜市居住年数



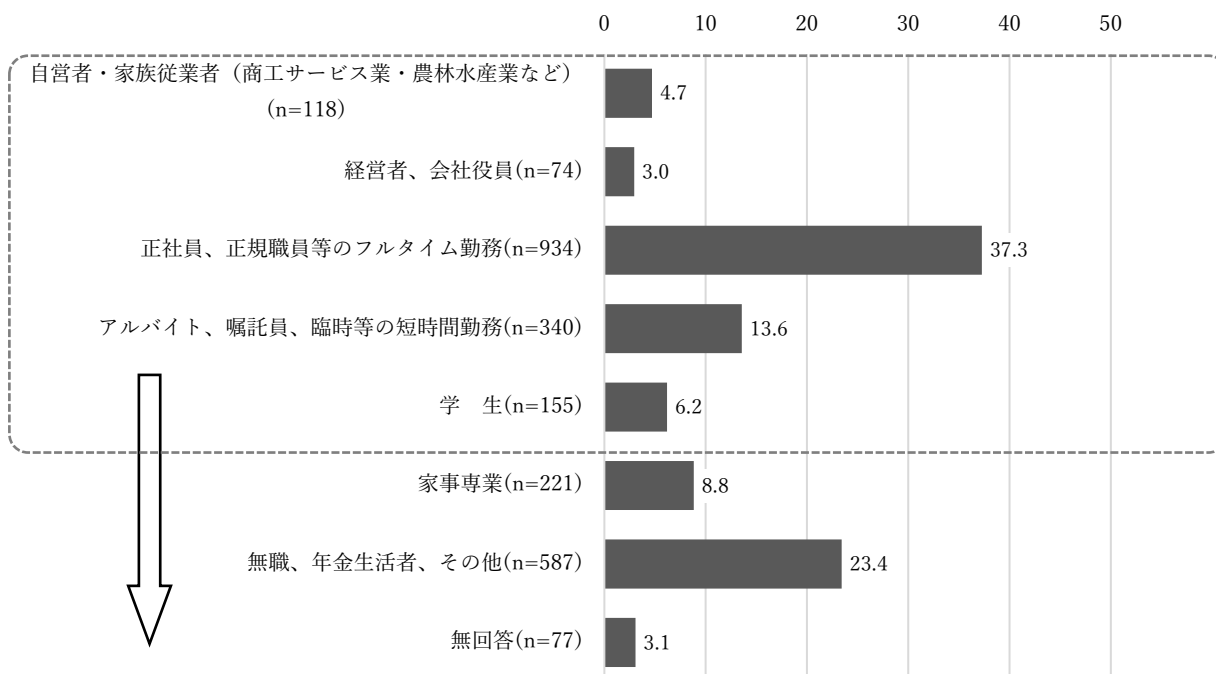
4 職業及び職場・学校の所在地

F4〔職業〕あなたの御職業は何ですか。(〇は1つだけ)

(n=2,506)

図表 I-4-1 職業

(%)



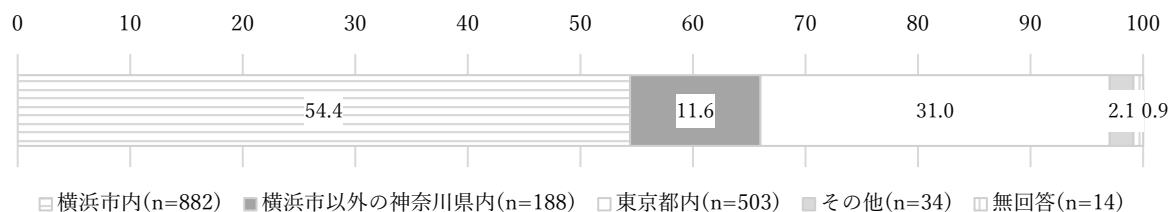
(F4で「1」～「5」とお答えの方に)

F4-1 あなたの職場・学校などはどちらですか。(〇は1つだけ)

(n=1,621)

図表 I-4-2 職場・学校の所在地

(%)

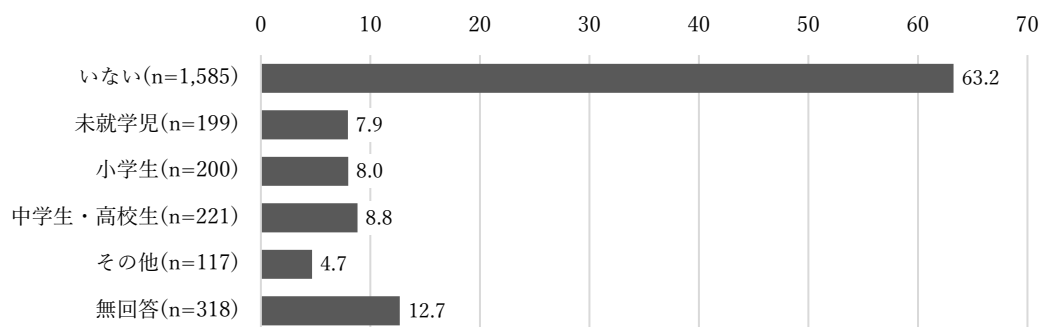


5 子育て

F5 [子育て]同居しているお子さん(18歳未満)の就学状況は、次のうちどれに当てはまりますか。
 お子さんが2人以上の場合は、当てはまるものをすべて選択してください。

(n=2,506)

図表 I-5-1 子育て (%)

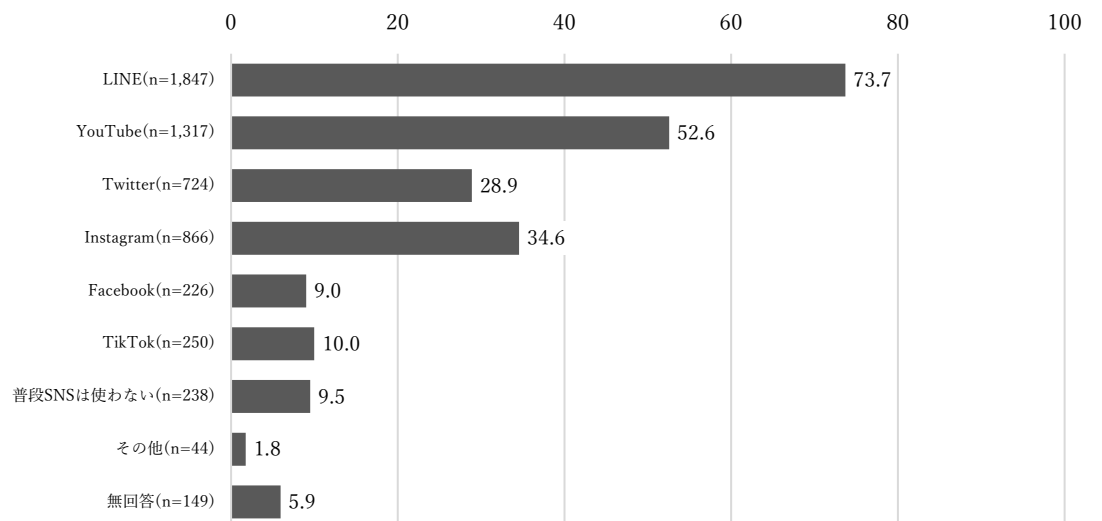


6 SNS

F6 [SNS]あなたが普段よく使う SNS は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

(n=2,506)

図表 I-6-1 SNS (%)



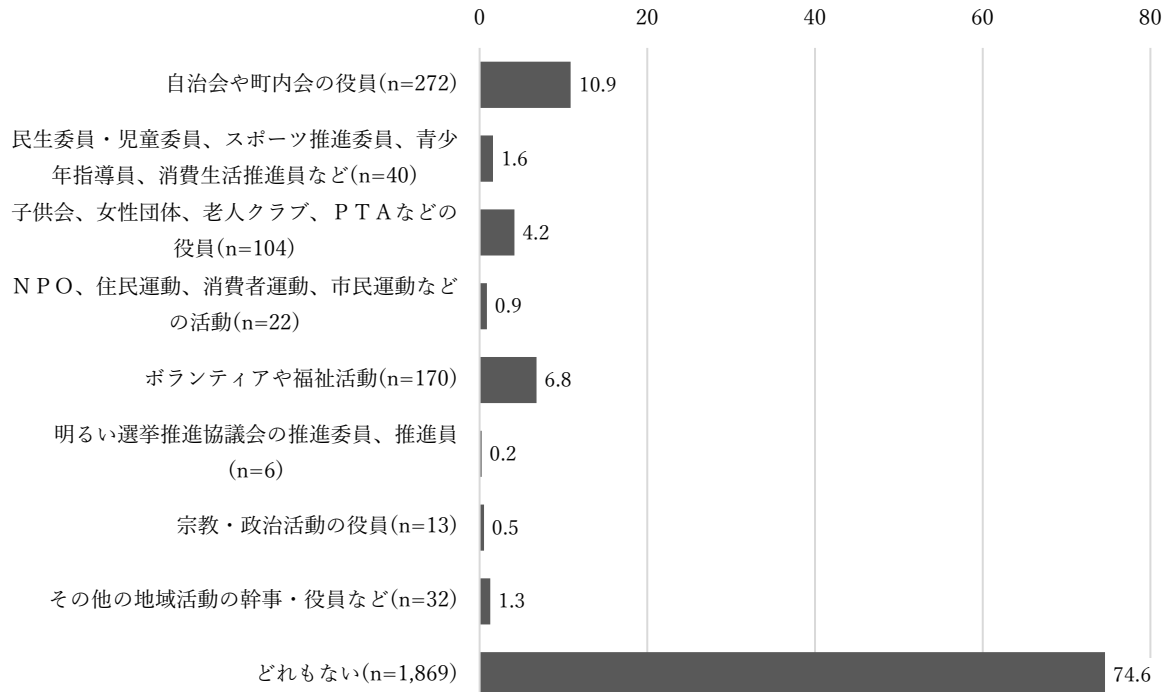
7 地域活動

F7 [地域活動] あなたは、ふだん、次にあげるようなことを行っていますか。(〇はいくつでも)

(n=2,506)

図表 I-7-1 地域活動

(%)



8 投票所までの時間

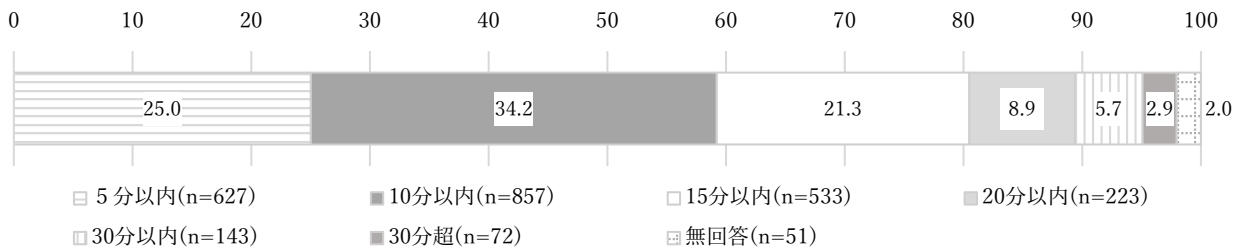
F8 [投票所までの時間] あなたの家から当日投票所までは歩いてどのくらいかかりますか。

(〇は1つだけ)

(n=2,506)

図表 I-8-1 投票所までの時間

(%)



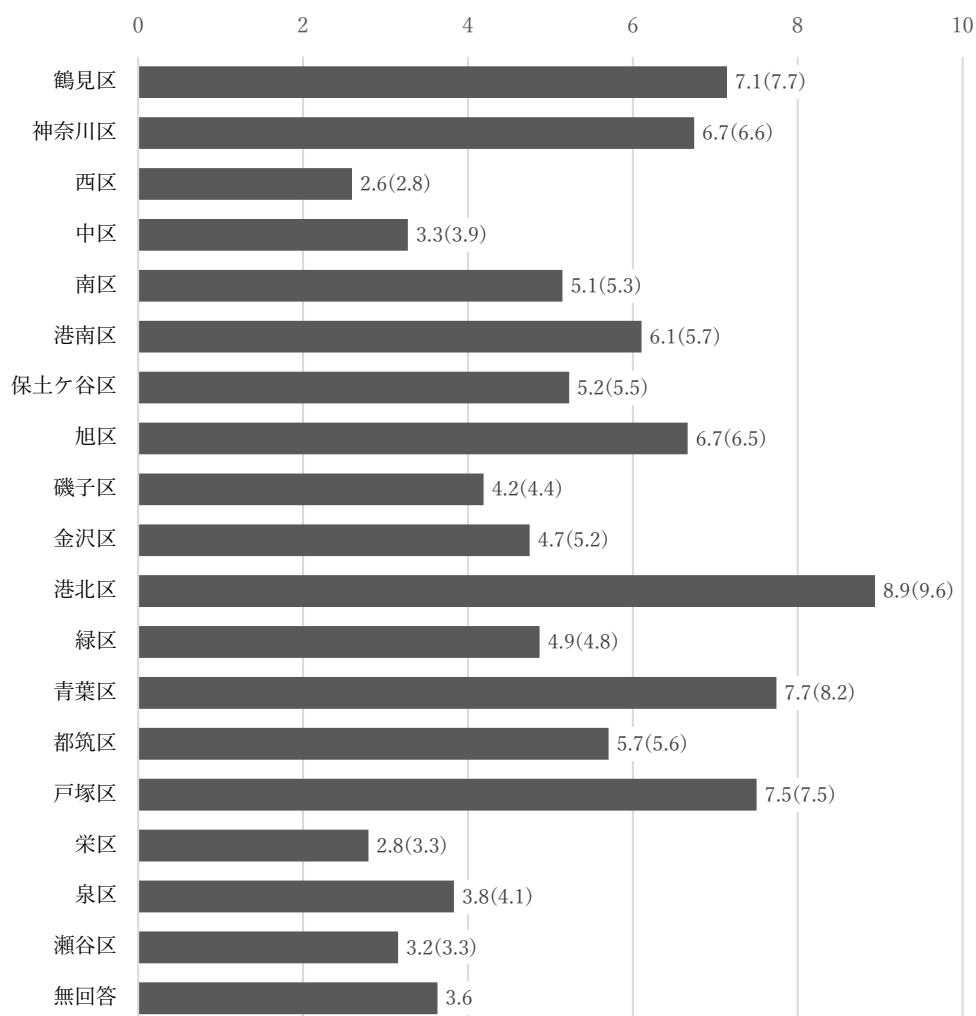
9 居住区

問1 あなたがお住まいの地域は何区ですか。(○は1つだけ)

(n=2, 506)

図表 I - 9 - 1 居住区

(%)



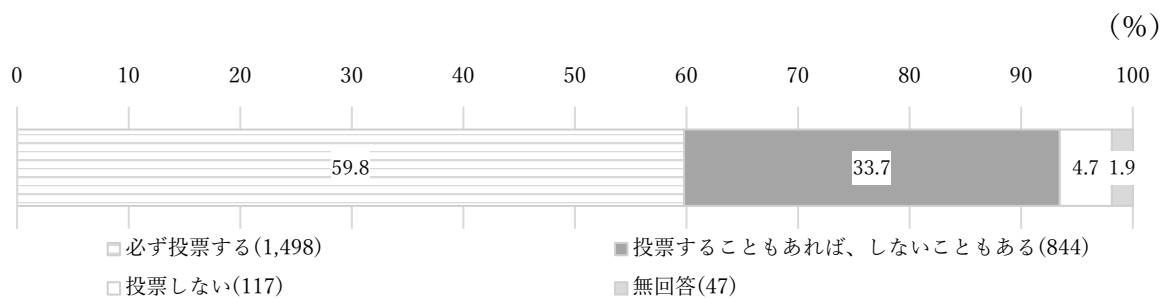
※ ()内は、横浜市全体の有権者から算出した区ごとの有権者の比率

Ⅱ 投票行動

1 普段の選挙での投票行動

問2 あなたの普段の選挙での投票行動について、最もあてはまるのは次のどれですか。(○は1つだけ)

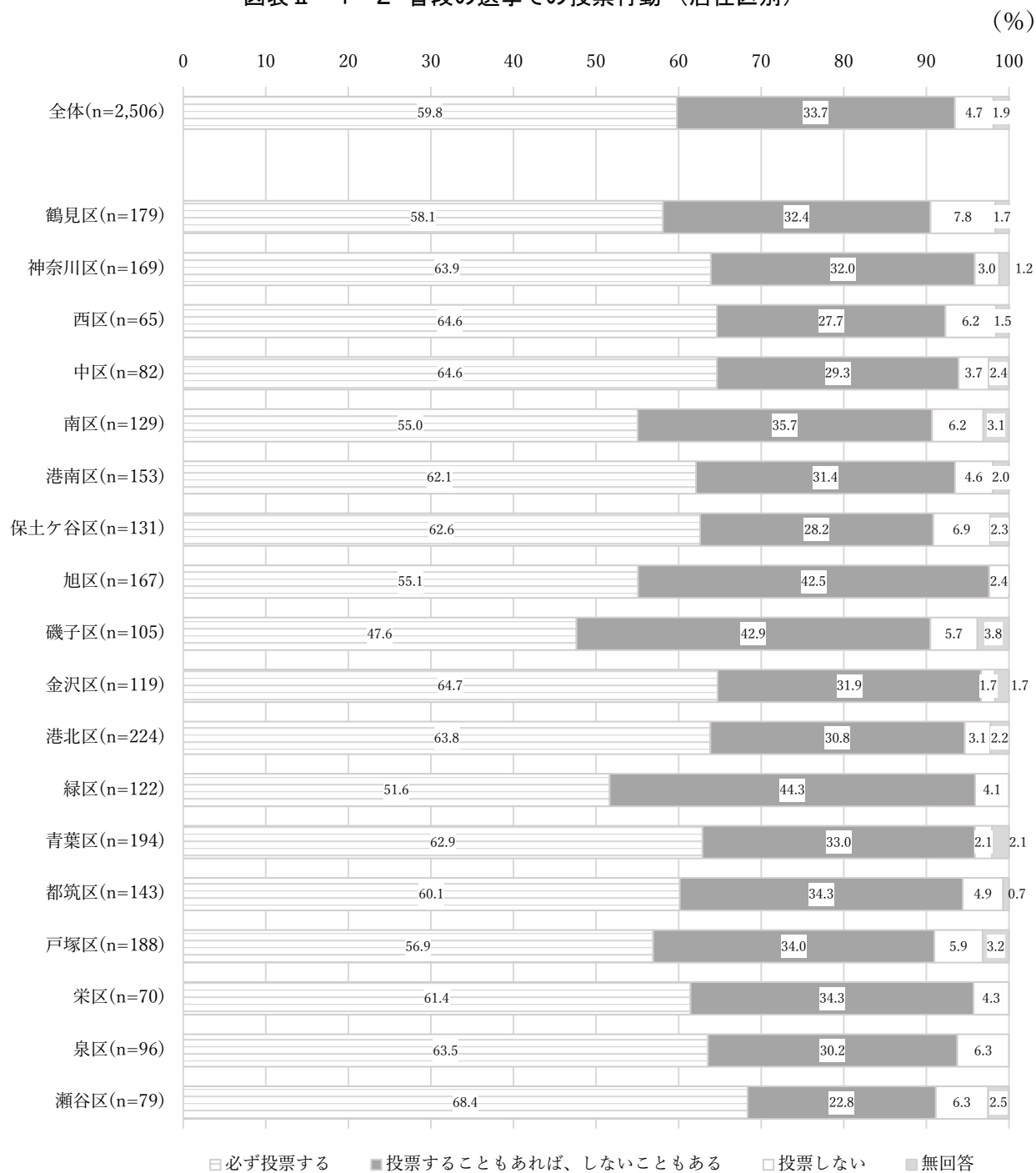
図表Ⅱ-1-1 普段の選挙での投票行動



普段の選挙での投票行動について聞いたところ、「必ず投票する」が59.8%で最も多く、次いで「投票することもあれば、しないこともある」(33.7%)、「投票しない」(4.7%)の順となっている。

居住区別にみると、「必ず投票する」は、「瀬谷区」(68.4%)が最も高く、続いて「金沢区」(64.7%)、「中区」(64.6%)、「西区」(64.6%)の順になっている。(図表Ⅱ-1-2)

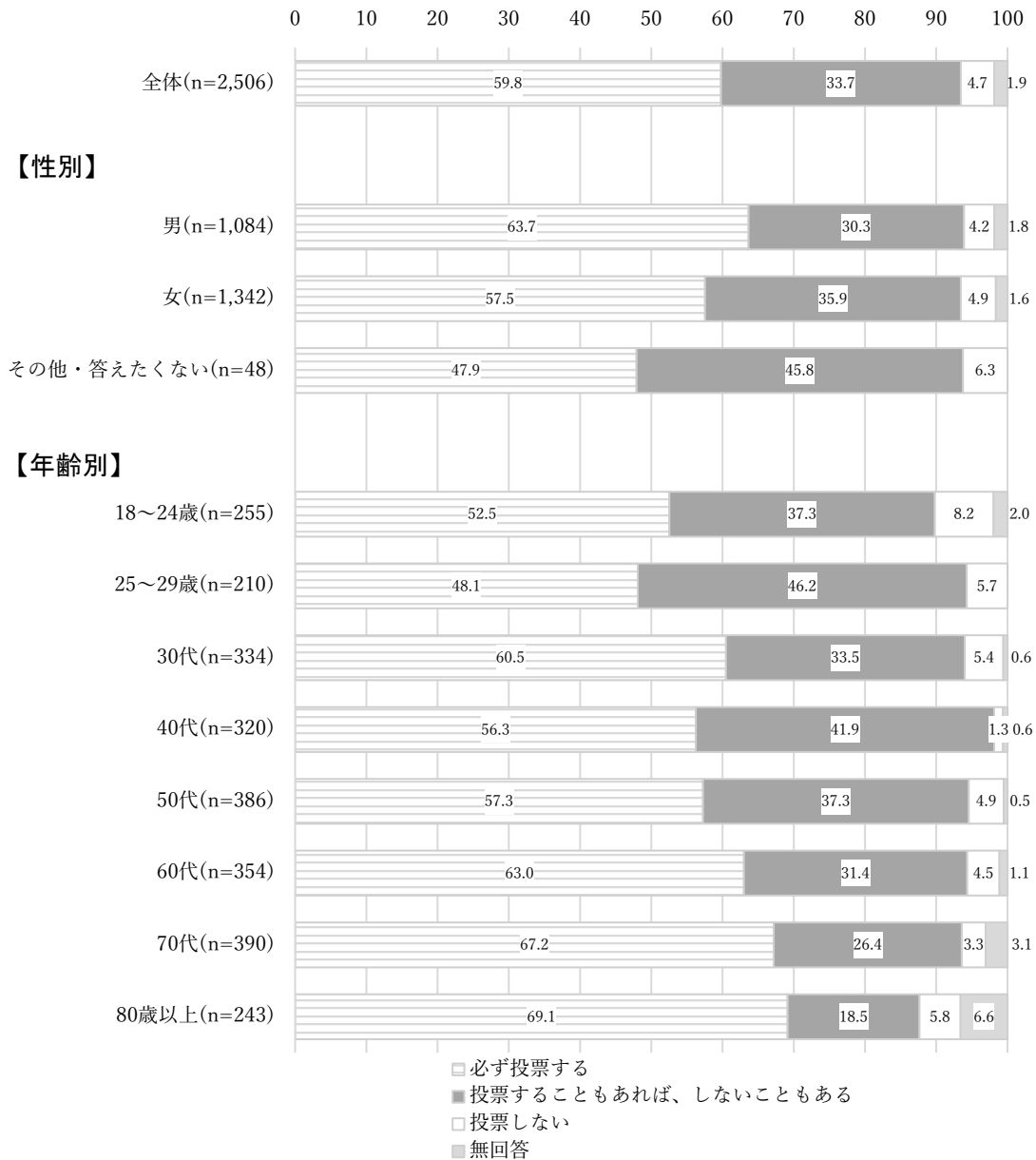
図表Ⅱ-1-2 普段の選挙での投票行動 (居住区別)



性別にみると、「必ず投票する」は、「男性」(63.7%)が「女性」(57.5%)よりも6.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると「必ず投票する」は、「80歳以上」で最も高く(69.1%)、「25歳～29歳」(48.1%)で最も低くなる。「投票することもあれば、しないこともある」は、「25歳～29歳」(46.2%)で最も高く、「80歳以上」(18.5%)で最も低くなる。「投票しない」は、「18歳～24歳」(8.2%)で最も高く、「40歳～49歳」(1.3%)で最も低くなる。(図表Ⅱ-1-3)

図表Ⅱ-1-3 普段の選挙での投票行動(性別・年齢別) (%)

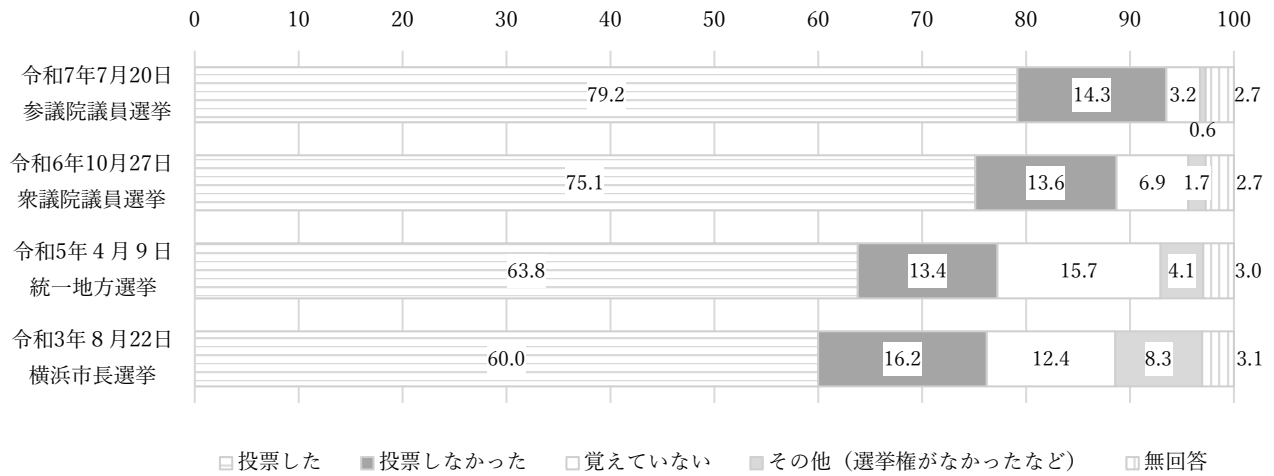


2 過去の選挙での投票状況

F11 次の選挙に関して投票をしましたか。

図表Ⅱ-2-1 過去の選挙の投票状況

(%)

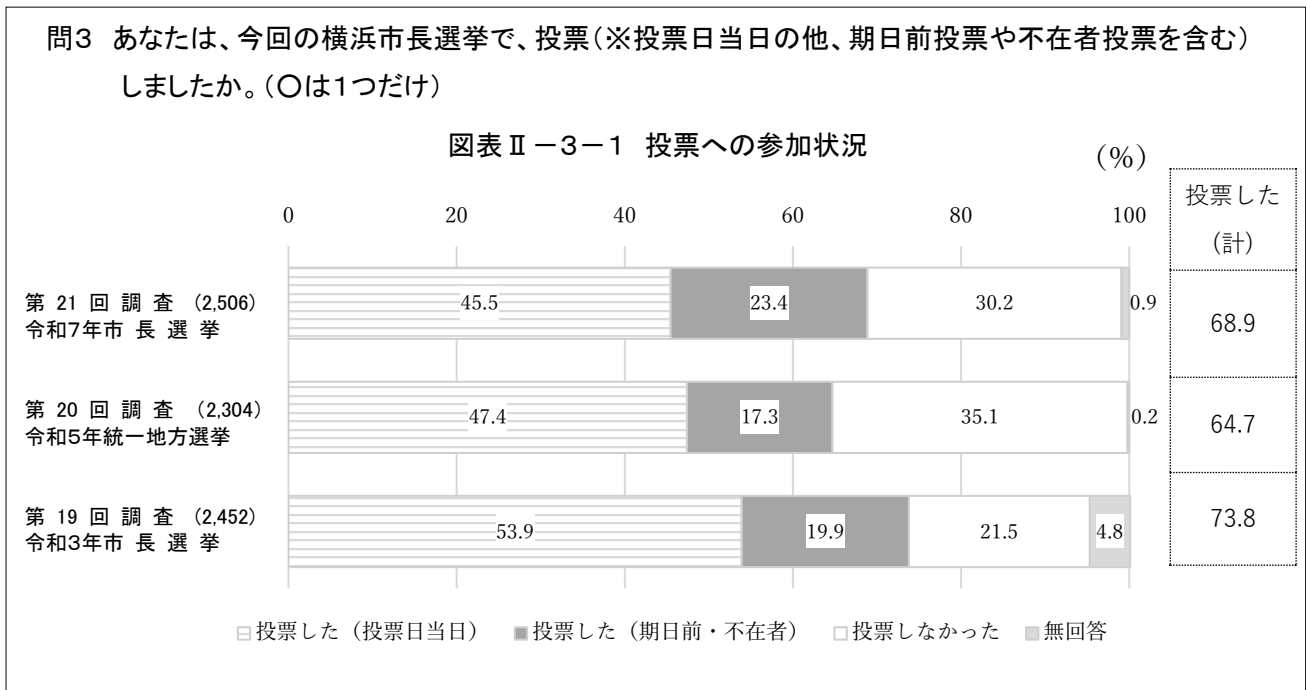


過去の選挙について投票したか聞いたところ、令和7年の参議院議員選挙では、「投票した」が79.2%、令和6年の衆議院議員選挙では75.1%、令和5年の統一地方選挙では63.8%、令和3年の横浜市長選挙では60.0%となった。

「投票しなかった」は、令和7年の参議院議員選挙では、14.3%、令和6年の衆議院議員選挙では、13.6%、令和5年の統一地方選挙では13.4%、令和3年の横浜市長選挙では16.2%となった。

3 横浜市長選挙での投票行動

(1) 今回の市長選挙での投票行動

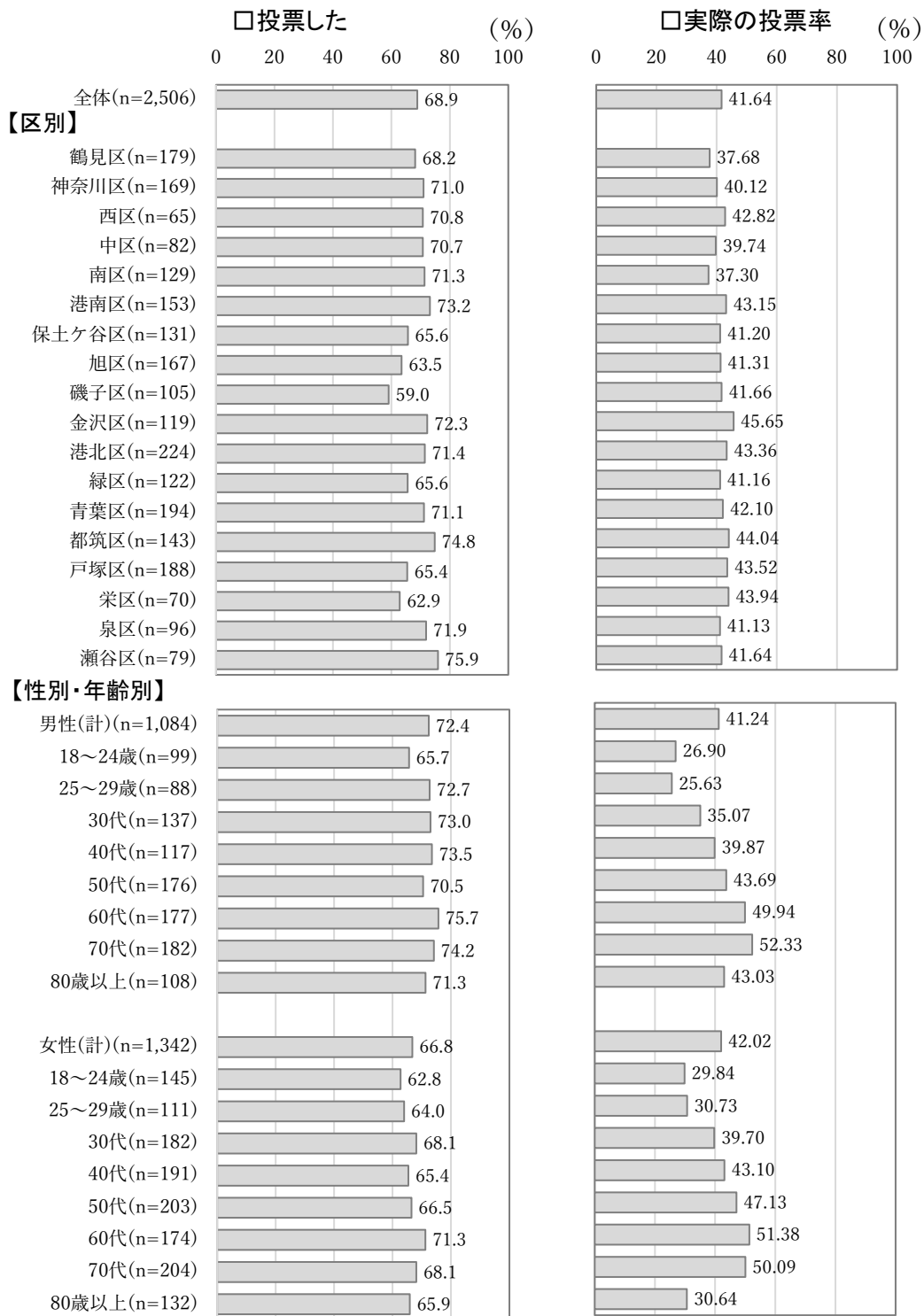


今回の市長選挙で投票したかを聞いたところ、「投票した（投票日当日）」が45.5%で最も多く、次いで「投票しなかった」が30.2%、「投票した（期日前・不在者）」が23.4%の順になっており、投票したと答えた人の合計は68.9%となった。

第19回調査（令和3年市長選挙）と比較すると、投票したと答えた人の合計（68.9%）は第19回調査（73.8%）から4.9ポイント減少している。選択肢別にみると、「投票した（投票日当日）」は8.4ポイント減少している一方で、「投票した（期日前・不在者）」は3.5ポイント増加している。（図表Ⅱ-3-1）

（参考）令和3年市長選挙は統一地方選挙から分離した昭和53年以降、単独選挙としては最も高い投票率であった。（49.05%）

図表Ⅱ-3-2 今回の市長選挙での投票行動(区別、性別・年齢別)

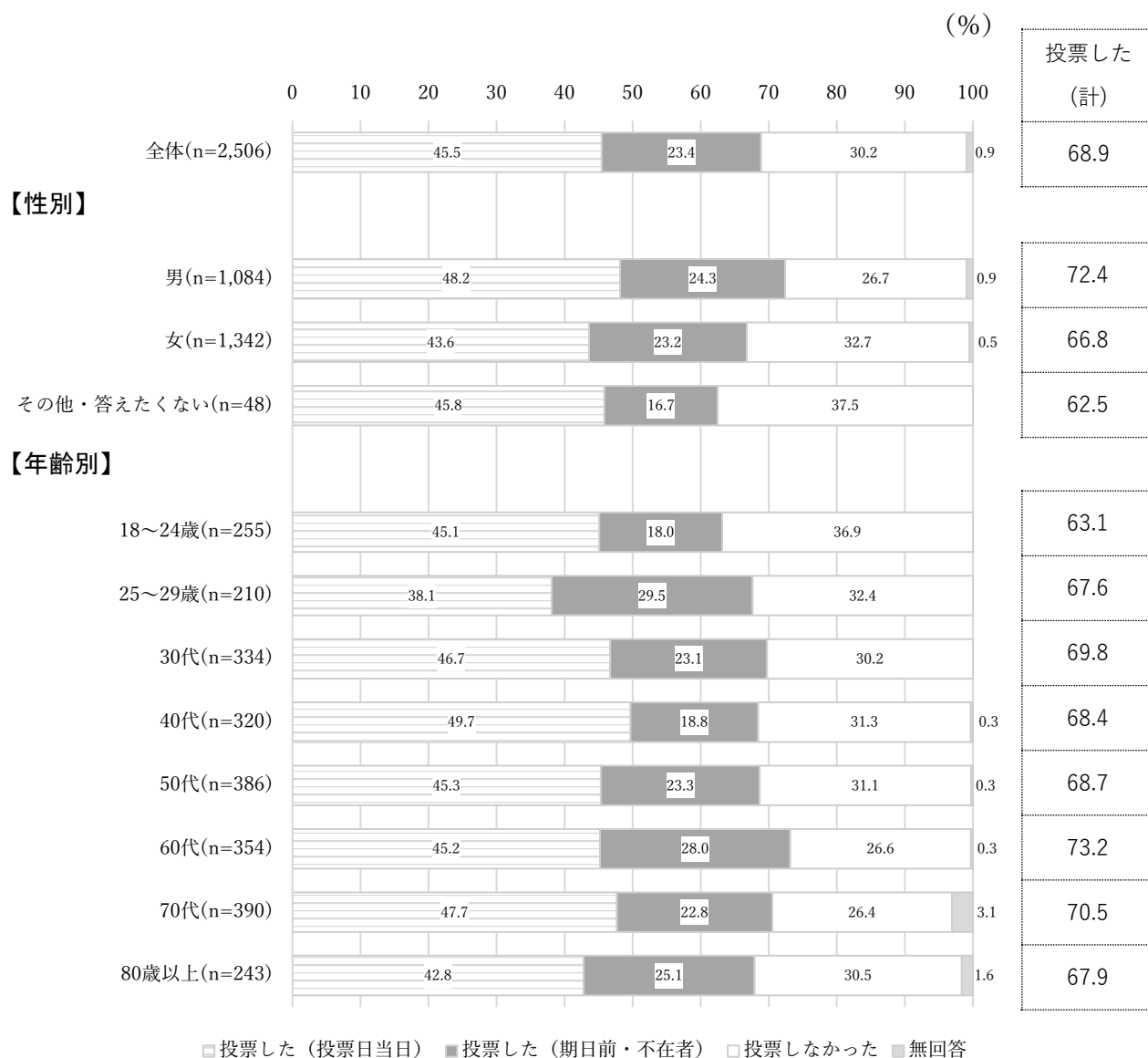


性別にみると、『投票した（計）』は、「男性」（72.4%）が「女性」（66.8%）よりも5.6ポイント高くなっている。

『投票した（投票日当日）』は40代（49.7%）で最も高く、『投票した（期日前・不在者）』は25～29歳（29.5%）で最も高くなっている。

（図表Ⅱ－3－3）

図表Ⅱ－3－3 今回の市長選挙での投票行動（性別・年齢別）

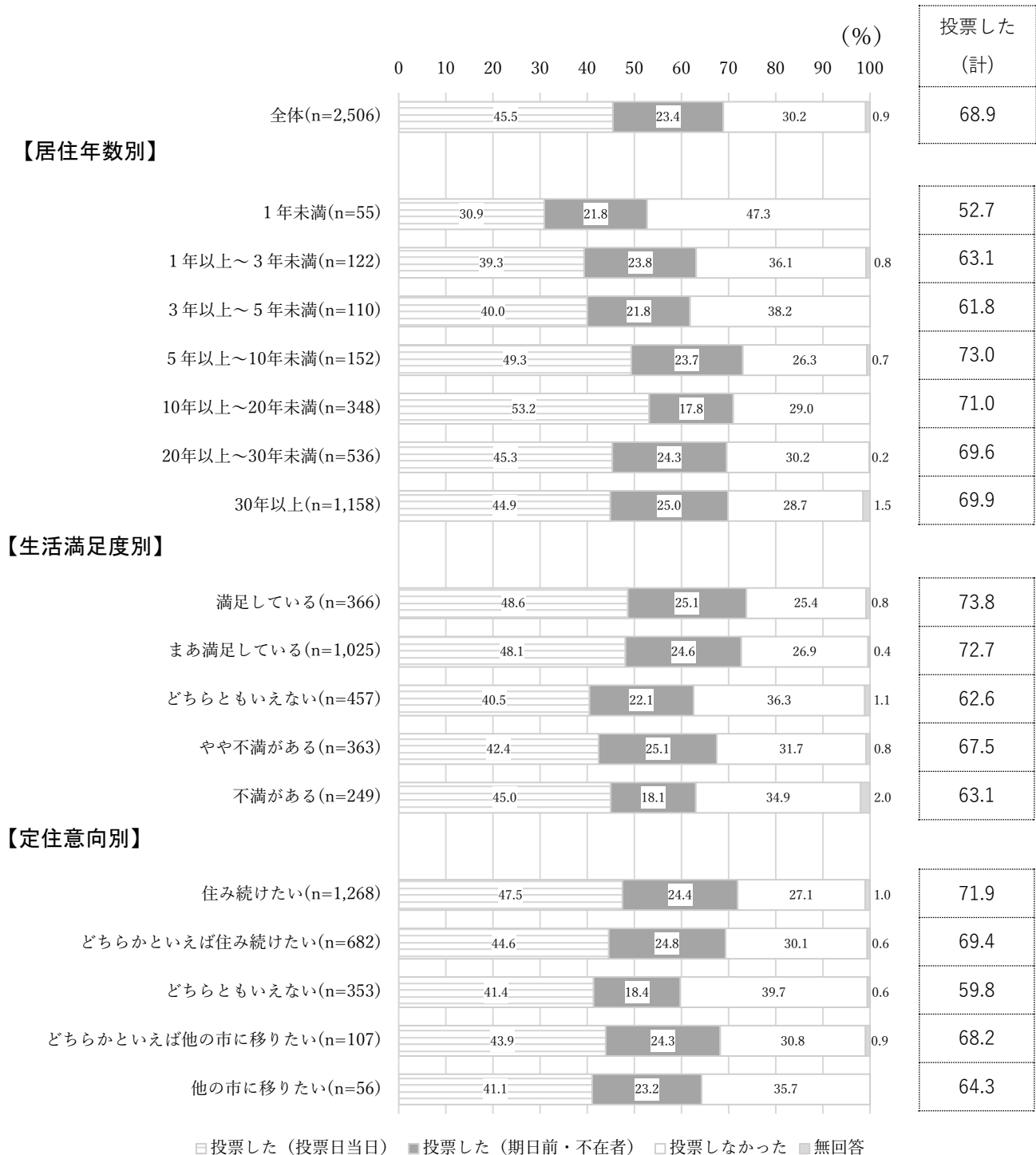


居住年数別にみると、『投票した（計）』は、「5年以上～10年未満」で最も高く（73.0%）、「1年未満」で最も低く（52.7%）になっている。

生活満足度別にみると、『投票した（計）』は、「満足している」で最も高く（73.8%）、「どちらともいえない」で最も低く（62.6%）になっている。

定住意向別にみると、『投票した（計）』は、「住み続けたい」で最も高く（71.9%）、「どちらともいえない」で最も低く（59.8%）になっている。（図表Ⅱ－3－4）

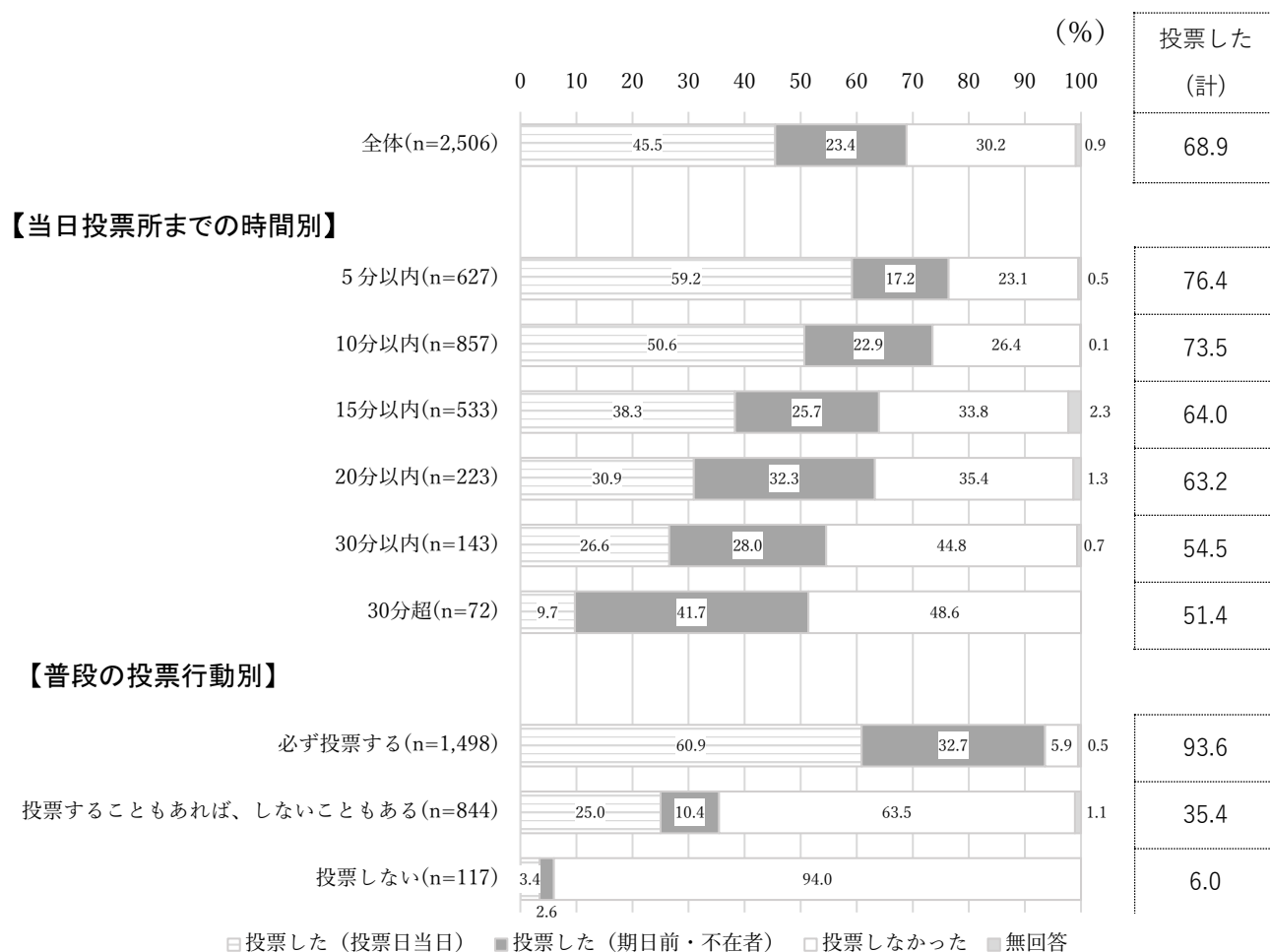
図表Ⅱ－3－4 今回の市長選挙での投票行動(居住年数別、生活満足度別、定住意向別)



当日投票所までの時間別にみると、『投票した（計）』は、時間が短いほど高くなり、「5分以内」で最も高く（76.4%）、「30分超」では、最も低く（51.4%）になっている。

普段の投票行動別にみると、『投票した（計）』は、「必ず投票する」で最も高く（93.6%）、「投票しない」で最も低く（6.0%）となっている。（図表Ⅱ－3－5）

図表Ⅱ－3－5 投票への参加状況(当日投票所までの時間別、普段の投票行動別)



(2) 投票の動機

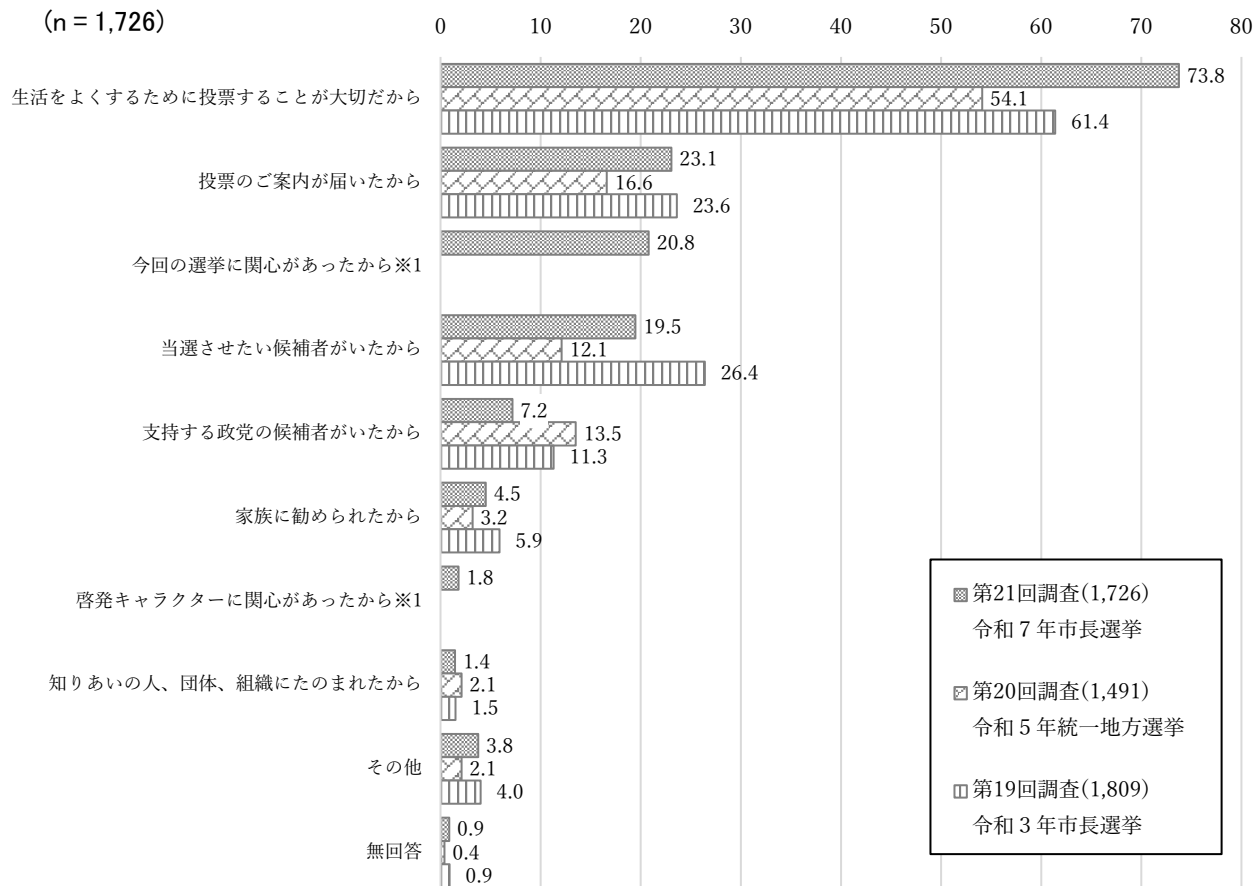
(問3で「1 投票した(投票日当日)」「2 投票した(期日前・不在者)」とお答えの方に)

問3-1 あなたが投票したのは、どのような考えからですか。(〇はいくつでも)

図表Ⅱ-3-6 投票の動機

(%)

(n = 1,726)



※1 今回調査で回答選択肢として追加

今回の市長選挙で「投票した」と答えた方(1,726人)に、投票の動機について聞いたところ、「生活をよくするために投票することが大切だから」が73.8%と最も多く、次いで「投票のご案内が届いたから」(23.1%)、「今回の選挙に関心があったから」(20.8%)の順となっている。

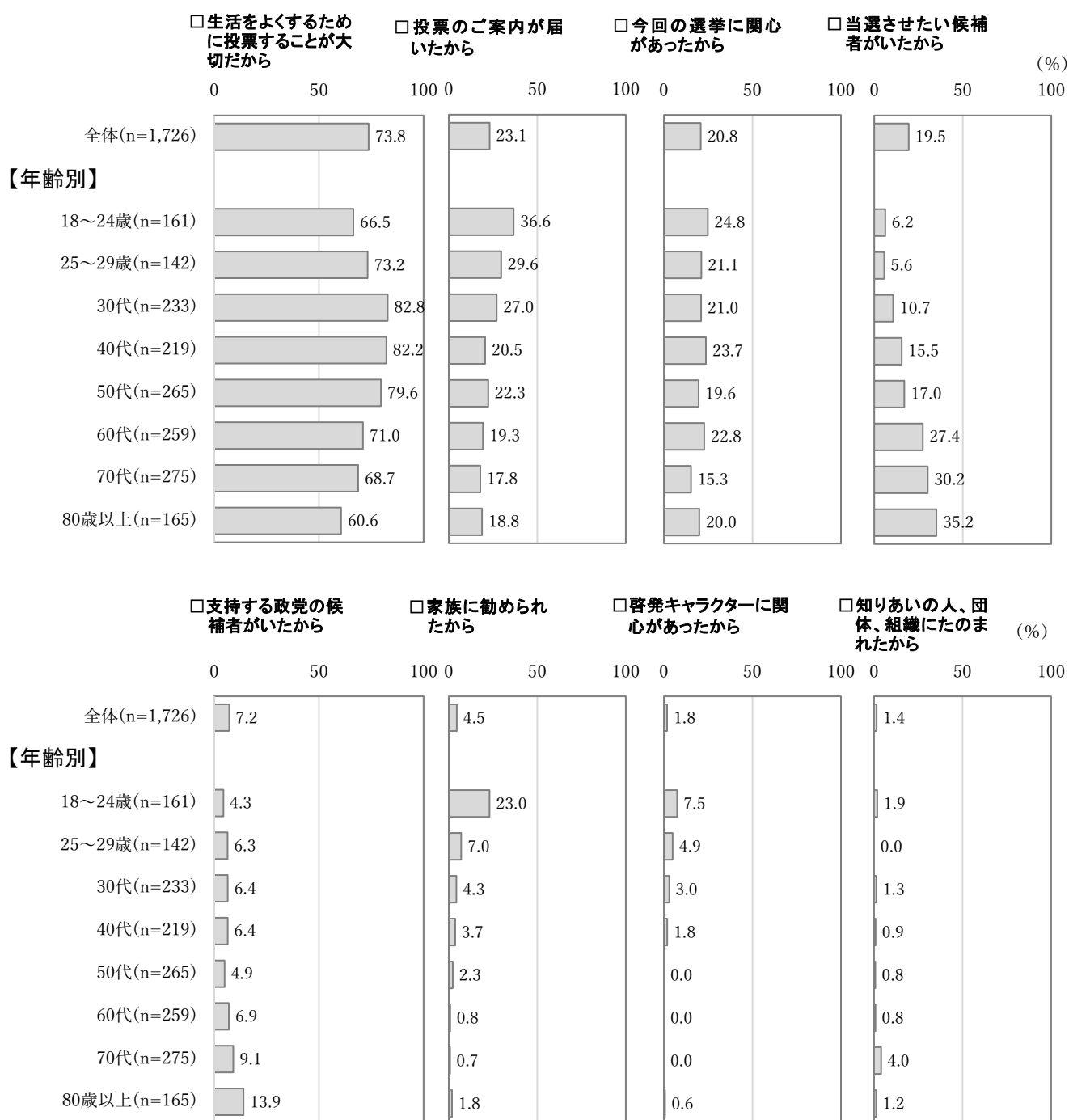
第19回調査(令和3年市長選挙)と比較すると、「生活をよくするために投票することが大切だから」(73.8%)は第19回調査(61.4%)より12.4ポイント増加しているが、「当選させたい候補者がいたから」(19.5%)は第19回調査(26.4%)より6.9ポイント減少している。(図表Ⅱ-3-6)

年齢別にみると、「生活をよくするために投票することが大切だから」と回答したのは、30代(82.8%)が最も多く、次いで40代(82.2%)となっている。

「当選させたい候補者がいたから」、「支持する政党の候補者がいたから」は、80歳以上が最も多い。

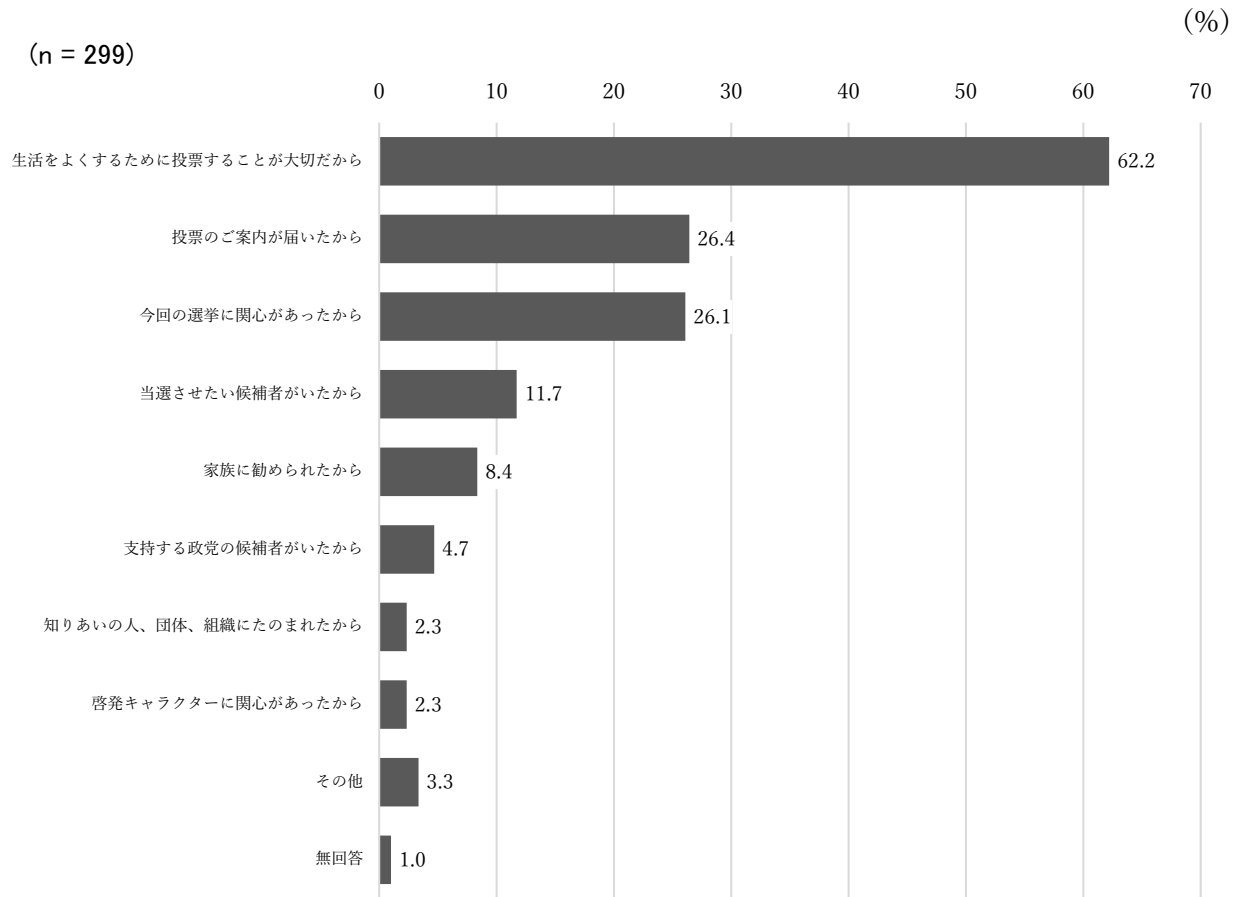
「投票のご案内が届いたから」、「今回の選挙に関心があったから」「家族に勧められたから」、「啓発キャラクターに関心があったから」、は18～24歳が最も多くなっている。

図表Ⅱ-3-7 投票の動機（年齢別）



「普段の選挙で投票することもあれば投票しない事もある人」で投票の動機をみると、「生活をよくするために投票することが大切だから」と回答した割合が62.2%で最も多い。(図表Ⅱ-3-8)

図表Ⅱ-3-8 投票の動機(普段の選挙で投票することもあれば投票しない事もある人)

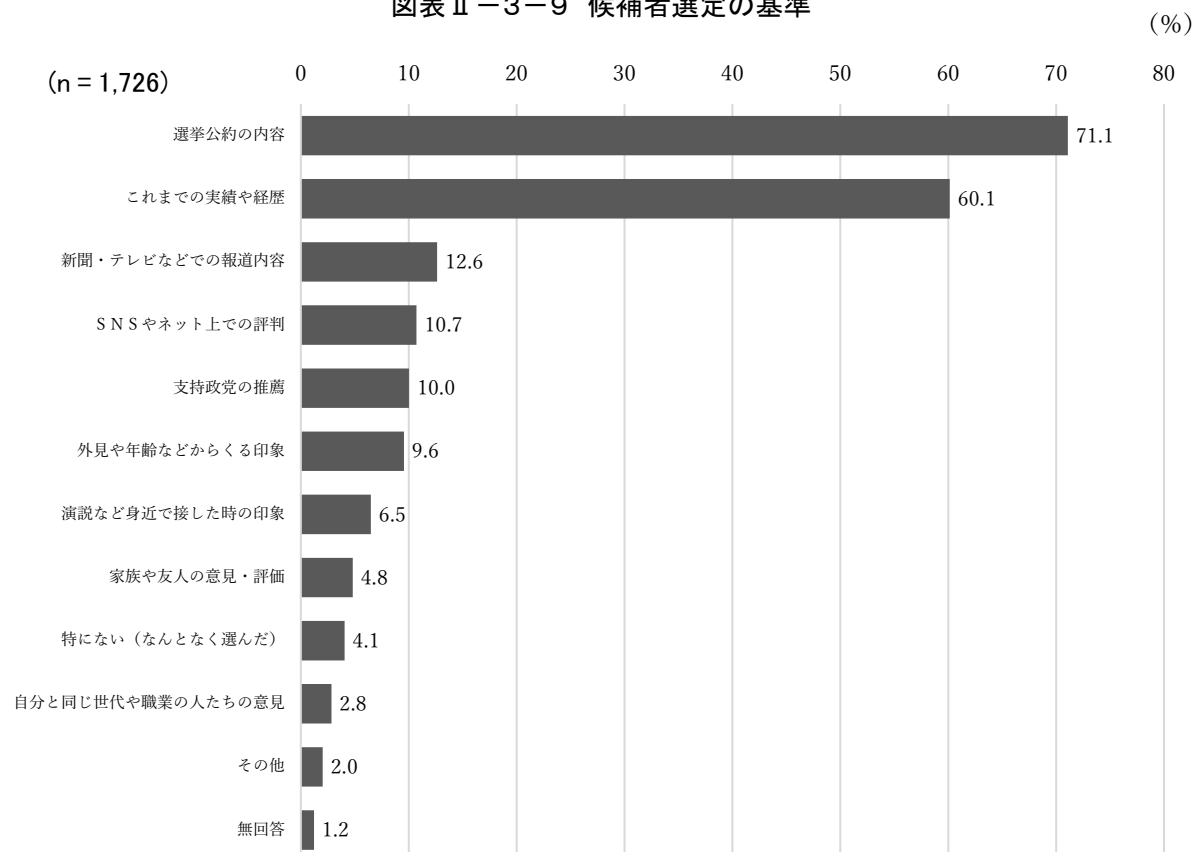


(3) 候補者選定の基準

(問3で「1 投票した(投票日当日)」「2 投票した(期日前・不在者)」とお答えの方に)

問3-2 候補者に投票する際、どんな点を一番重視しましたか。(〇は3つまで)

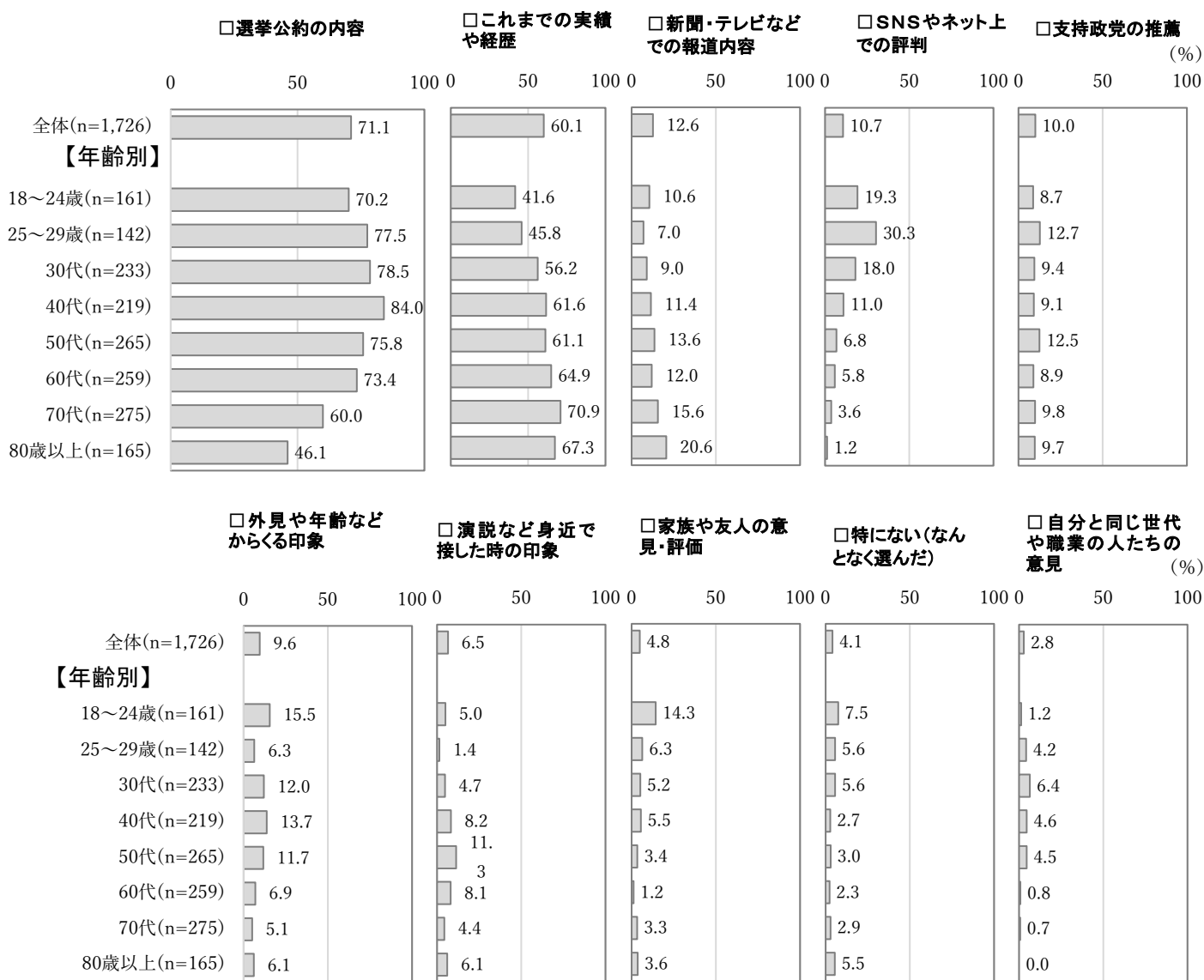
図表Ⅱ-3-9 候補者選定の基準



今回の市長選挙で「投票した」と答えた方(1,726人)に、候補者に投票する際、どんな点を一番重視したか聞いたところ、「選挙公約の内容」が71.1%と最も多く、次いで「これまでの実績や経歴」(60.1%)、「新聞・テレビなどでの報道内容」(12.6%)、「SNSやネット上での評判」(10.7%)の順になっている。(図表Ⅱ-3-9)

年齢別にみると、最も回答の多い「選挙公約の内容」については「40～49歳」（84.0%）で最も多くなっている。「これまでの実績や経歴」では「70代」（70.9%）が最も多く、「新聞・テレビなどでの報道内容」では、「80歳以上」（20.6%）が最も多い。一方、「家族や友人の意見・評価」では「18～24歳」（15.5%）が最も多く、「SNSやネット上での評判」では、「25～29歳」（30.3%）が最も多い。（図表Ⅱ－3－10）

図表Ⅱ－3－10 候補者選定の基準（年齢別）



(4) 期日前・不在者投票制度を利用した理由

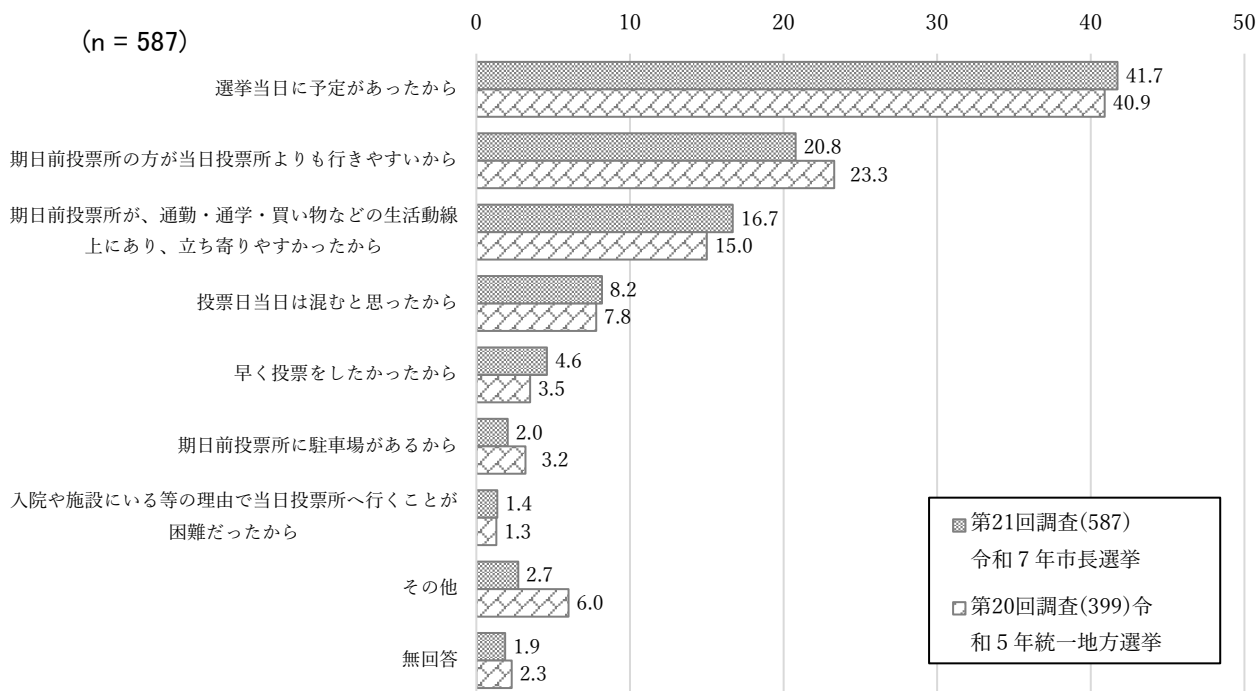
(問3で「2 投票した(期日前・不在者)」とお答えの方に)

問3-3 期日前・不在者投票制度を利用した主な理由は何ですか。(○は1つだけ)

図表Ⅱ-3-11 期日前・不在者投票制度を利用した理由

(%)

(n = 587)



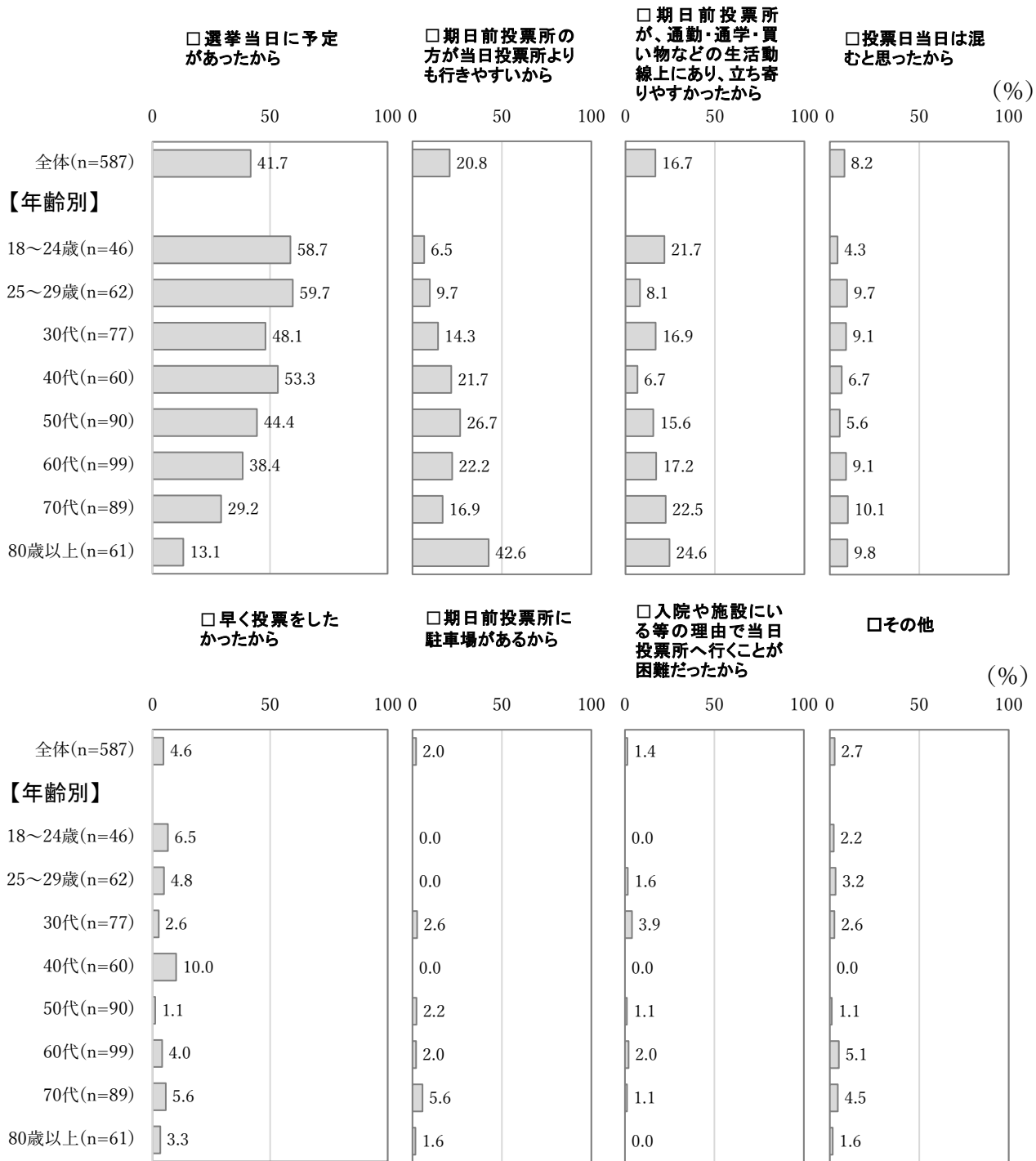
今回の市長選挙で「投票した(期日前・不在者)」と答えた方(587人)に、期日前・不在者投票制度を利用した理由を聞いたところ、「選挙当日に予定があったから」が41.7%と最も多く、次いで「期日前投票所の方が行きやすいから」(20.8%)、「期日前投票所が、通勤や買い物などの生活動線上にあり、寄りやすかったから」(16.7%)、「当日は混むと思ったから」(8.2%)の順になっている。

第20回(令和5年統一地方選)と比較する(本項目は第20回調査から新設)と、上位3項目の順位に変動は見られないが、「選挙当日に予定があったから」(41.7%)は前回(40.9%)から0.8ポイント増加し、「期日前投票所の方が行きやすいから」(20.8%)は前回(23.3%)から2.5ポイント減少している。(図表Ⅱ-3-11)

年齢別にみると、「選挙当日に予定があったから」は「25～29歳」（59.7%）で最も多く、次いで「18～24歳」（58.7%）が多い。

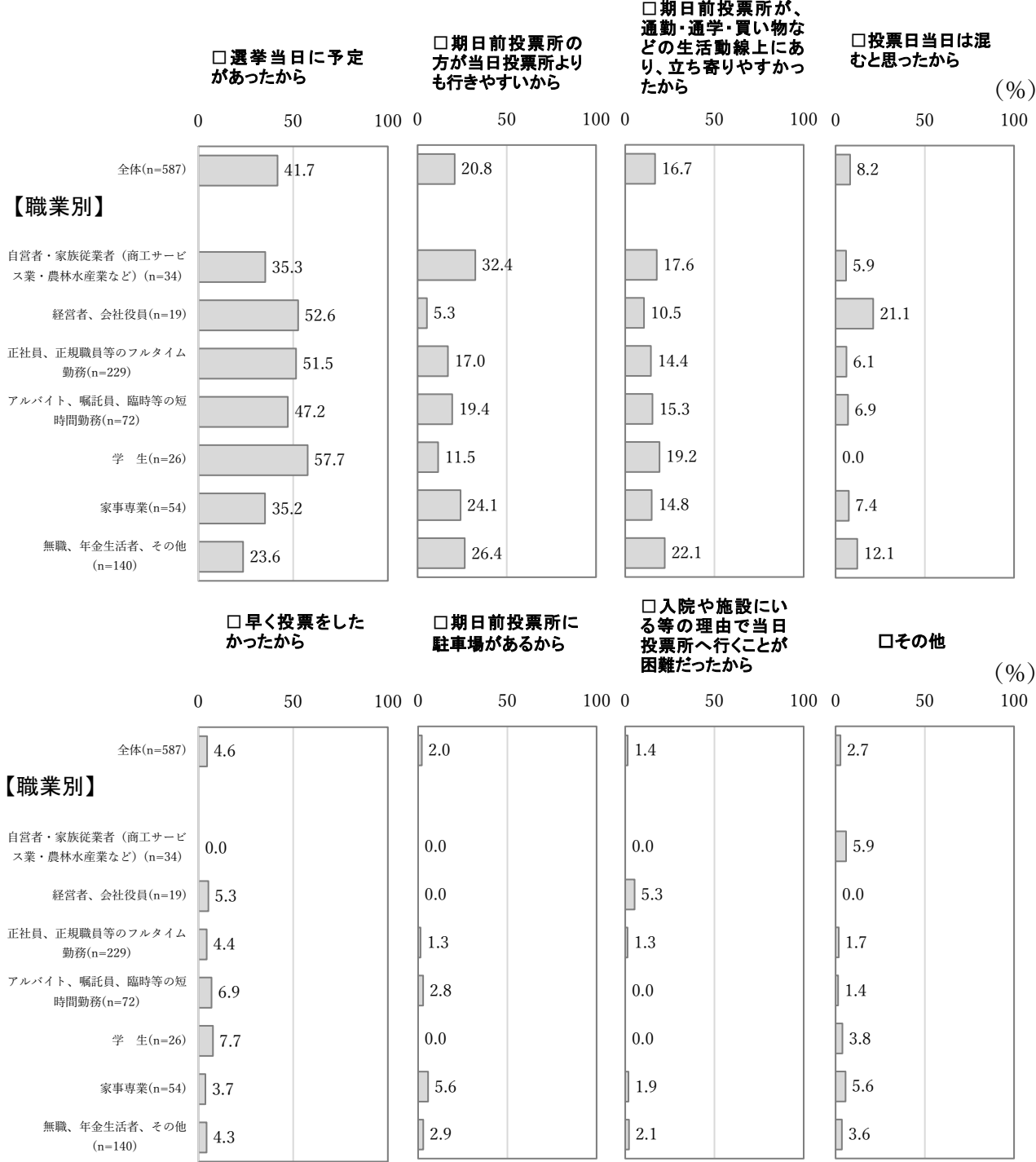
「期日前投票所の方が当日投票所よりも行きやすいから」、「期日前投票所が、通勤・通学・買い物などの生活動線上にあり、立ち寄りやすかったから」は、「80歳以上」で最も多くなっている。（図表Ⅱ－3－12）

図表Ⅱ－3－12 期日前・不在者投票制度を利用した理由（年齢別）



職業別にみると、「選挙当日に予定があったから」では「学生」(57.7%)が最も多く、「期日前投票所の方が当日投票所よりも行きやすいから」では、「自営者・家族従業者(商工サービス業・農林水産業など)」(32.4%)が最も多い。また、「期日前投票所が、通勤・通学・買い物などの生活動線上にあり、立ち寄りやすかったから」では「無職、年金生活者、その他」(22.1%)が最も多くなっている。(図表Ⅱ-3-13)

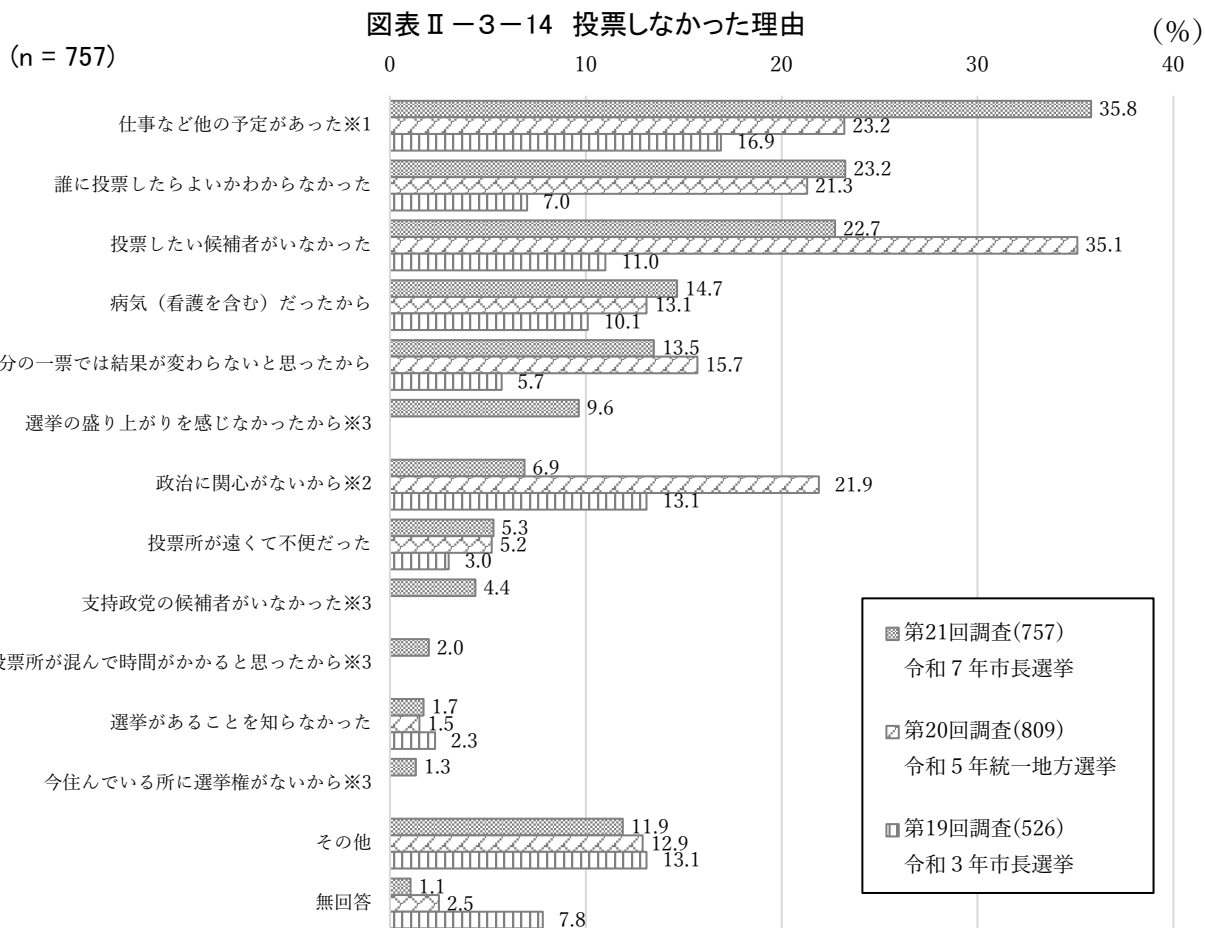
図表Ⅱ-3-13 期日前・不在者投票制度を利用した理由(職業別)



(5) 投票しなかった理由

(問3で「3 投票しなかった」とお答えの方に)

問3-4 あなたが投票しなかった理由は何ですか。(〇は3つまで) (令和3年度は〇は1つ、令和5年度では〇はいくつでも)



※1 令和5年調査、令和3年調査では、「仕事など選挙より重要な予定があったから」

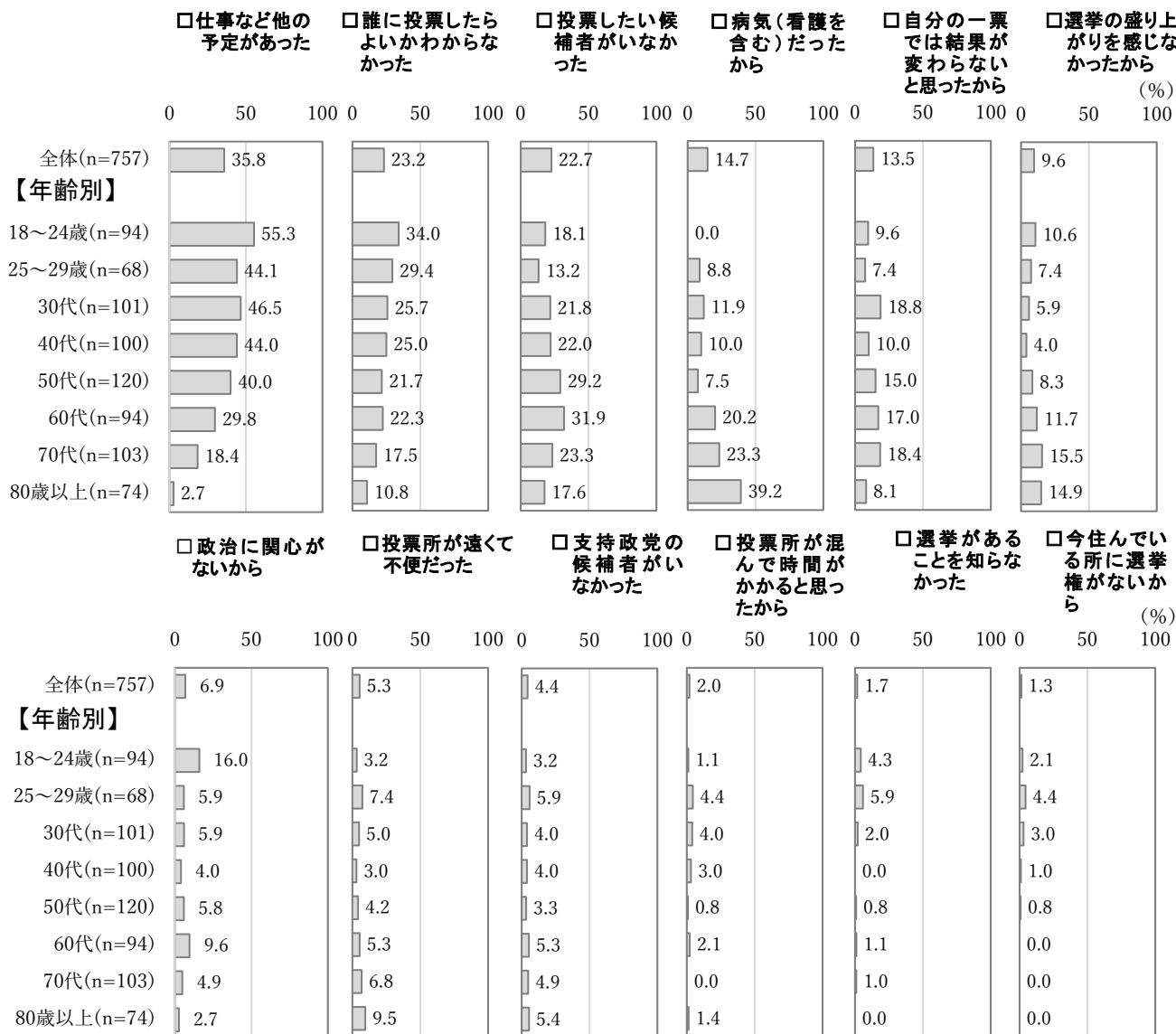
※2 令和5年調査、令和3年調査では、「あまり関心がなかったから」

※3 今回追加の回答選択肢 令和5年調査、令和3年調査では項目なし

今回の市長選挙で「投票しなかった」と答えた方(757人)に、投票しなかった理由を聞いたところ、「仕事など他の予定があったから」が35.8%で最も多く、次いで「誰に投票すればよいかわからなかったから」(23.2%)、「投票したい候補者がいなかったから」(22.7%)、「病気(看護を含む)だったから」(14.7%)、「自分の一票では結果が変わらないと思ったから」(13.5%)の順となっている。(図表Ⅱ-3-14)

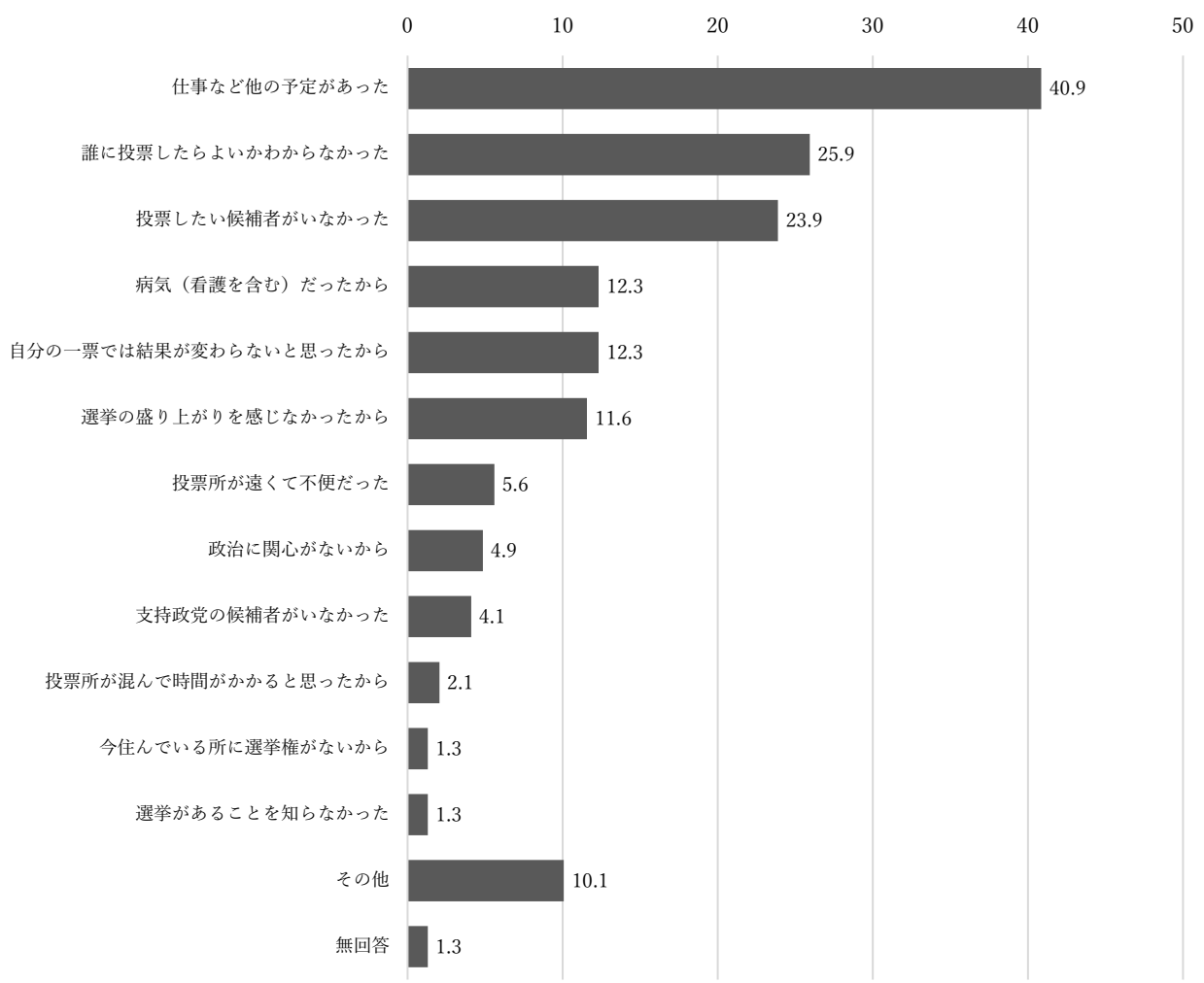
年齢別にみると、「病気（看護を含む）だったから」、「投票所が遠くて不便だったから」は、80歳以上が最も多い。一方、「仕事など他の予定があった」、「誰に投票したらよいかわからなかった」、「政治に関心がないから」は、18～24歳が最も多い。（図表Ⅱ－3－15）

図表Ⅱ－3－15 投票しなかった理由（年齢別）



普段の選挙で「投票することもあればしないこともある」と回答した人（536人）で、投票しなかった理由をみると、「仕事など他の予定があった」が最も多く40.9%、次いで「誰に投票したらよいかわからなかった」（25.9%）、「投票したい候補者がいなかった」（23.9%）となっている。（図表Ⅱ－3－16）

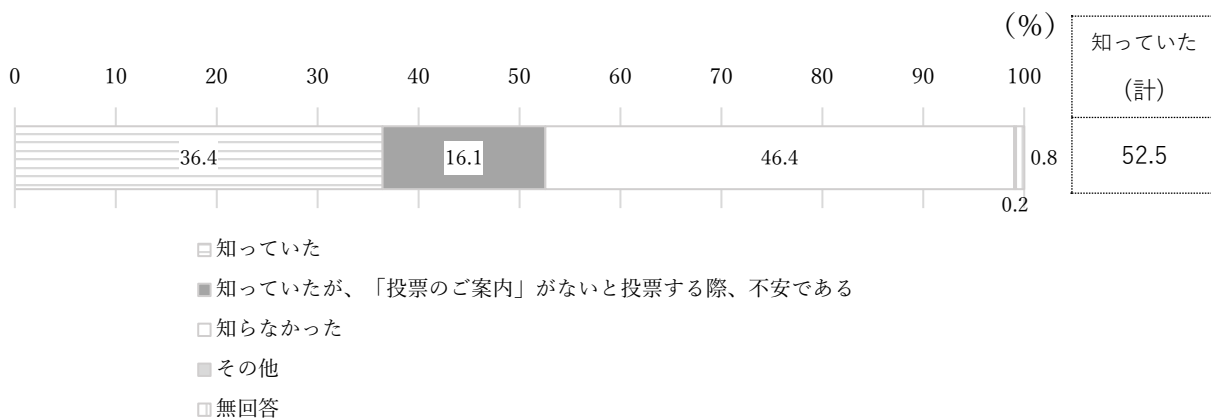
図表Ⅱ－3－16 投票しなかった理由（普段の選挙で「投票することもあればしないこともある」人）
（n = 536）



4 投票のご案内について

問4 「投票のご案内」がなくても本人確認ができれば投票できることをご存じでしたか。(○は1つだけ)

図表Ⅱ-4-1 本人確認ができれば投票可能であることの認知度



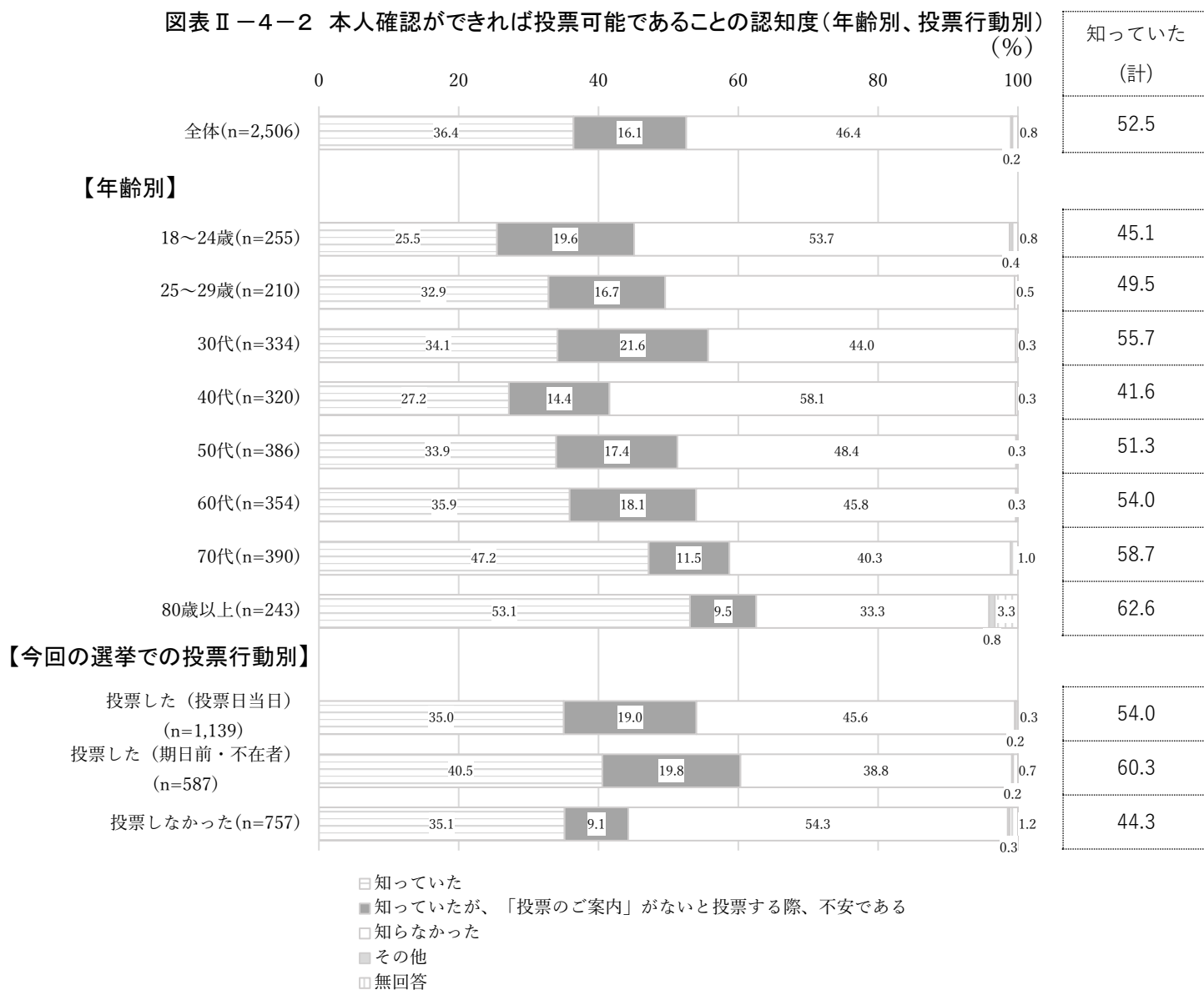
「投票のご案内」がなくても本人確認ができれば投票できることを知っていたか聞いたところ、「知っていた」が36.4%、「知っていたが、「投票のご案内」がないと投票する際、不安である」の16.1%を合計すると、『知っていた (計)』で、52.5%と半数を超える。一方、「知らなかった」が46.4%となっている。(図表Ⅱ-4-1)

年齢別にみると、「知っていた」は、「80歳以上」で最も多く53.1%、「18歳～24歳」で最も少なく25.5%となっている。「知っていたが、「投票のご案内」がないと投票する際、不安である」は、「30歳～39歳」で最も多く21.6%、「80歳以上」で最も少なく9.5%となっている。一方、「知らなかった」は、「40歳～49歳」で最も多く58.1%、「80歳以上」で最も少なく33.3%となっている。

「知っていた」と「知っていたが、「投票のご案内」がないと投票する際、不安である」の合計の『知っていた(計)』は、「80歳以上」で最も多く62.6%、「40歳～49歳」で最も少なく41.6%となっている。

(図表Ⅱ-4-2)

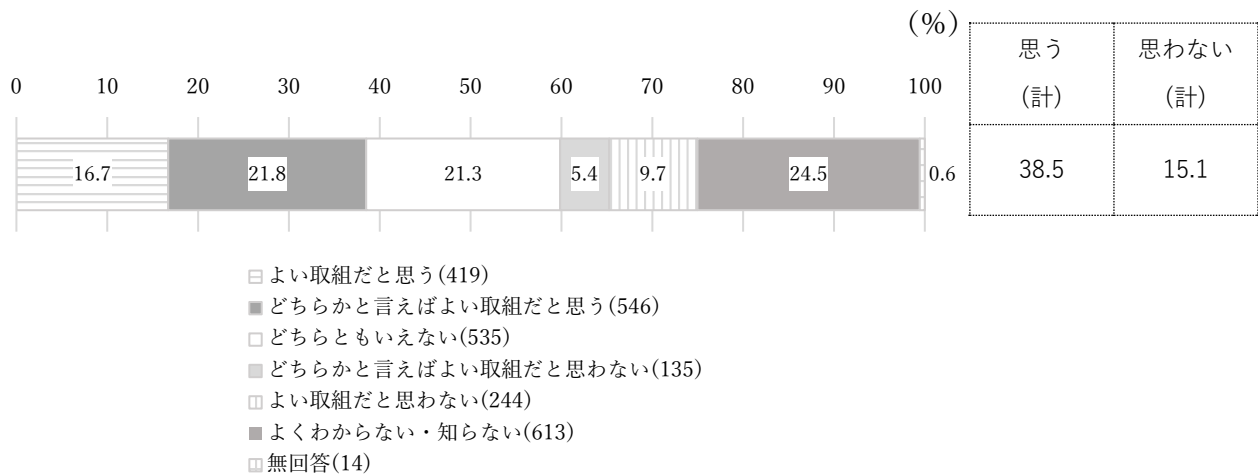
図表Ⅱ-4-2 本人確認ができれば投票可能であることの認知度(年齢別、投票行動別) (%)



5 今回の市長選挙で起用したPRキャラクターについて

問5 今回の横浜市長選挙では、PRキャラクターとして、特に若年層に人気のあるバーチャルライバーの社築(やしろきずく)さん、魁星(かいせい)さんを起用しました。このことについて、あなたの考えに近いものを1つ選んでください

図表Ⅱ-5-1 今回の横浜市長選挙で起用したPRキャラクターについて

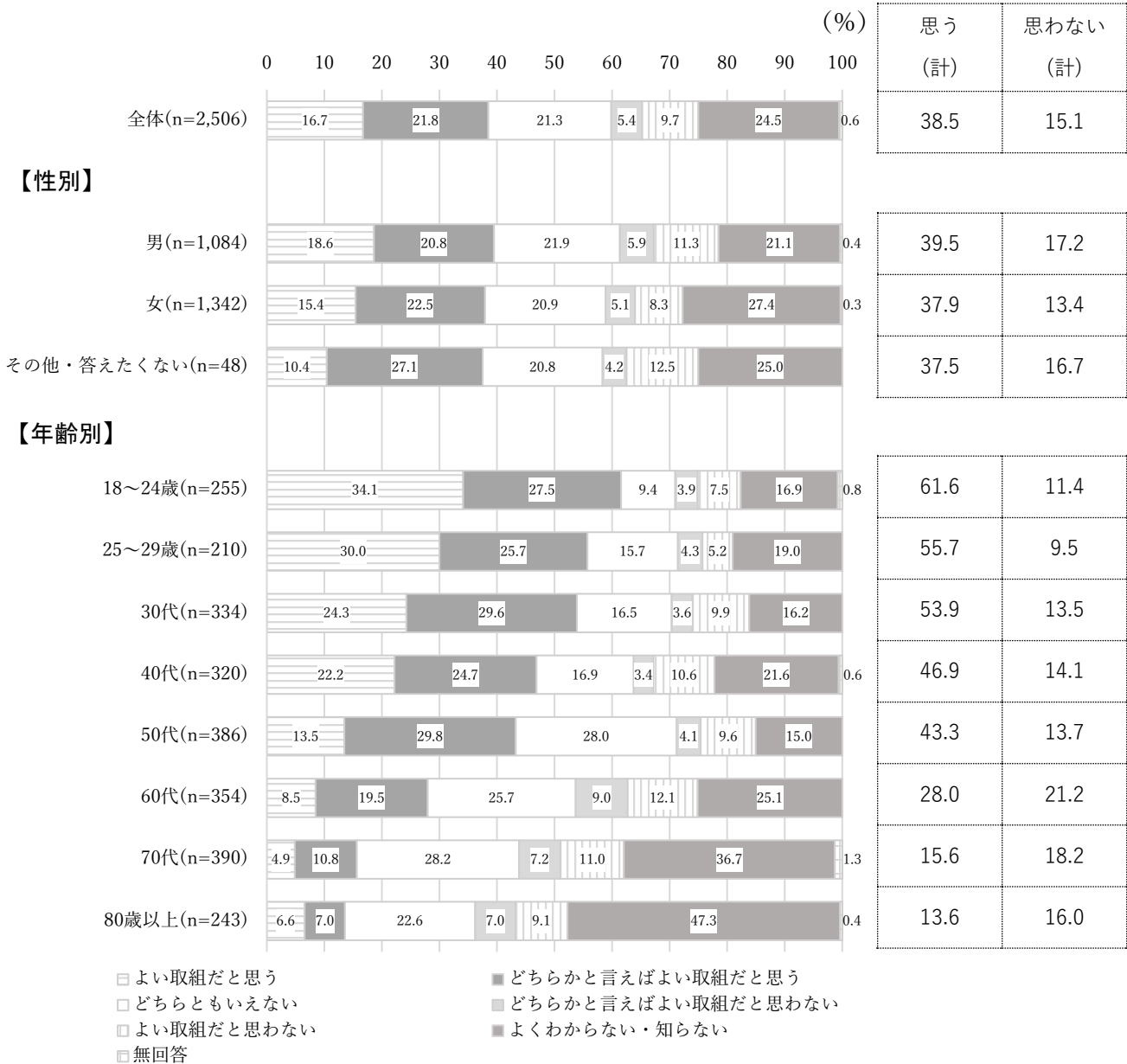


今回の市長選挙で起用したPRキャラクターについて聞いたところ、「よい取組だと思う」と「どちらかと言えばよい取組だと思う」の合計は38.5%、「よい取組だと思わない」と「どちらかと言えばよい取組だと思わない」の合計は15.1%となった。(図表Ⅱ-5-1)

性別にみると、「よい取組だと思う」と「どちらかと言えばよい取組だと思う」の合計『思う（計）』は男性が39.5%、女性が37.9%で、男性のほうが1.6ポイント高い。

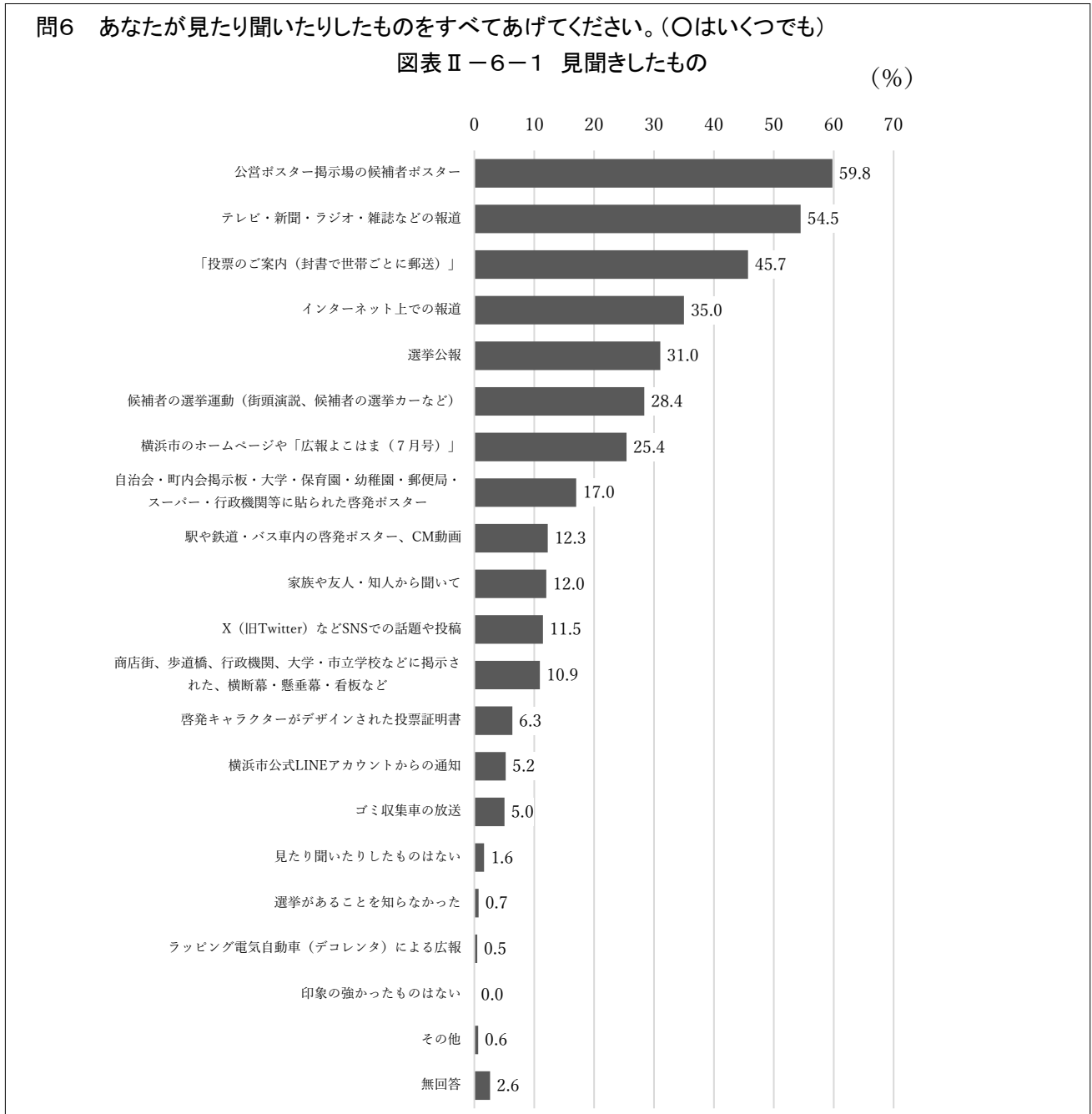
年齢別にみると、「よい取組だと思う」と「どちらかと言えばよい取組だと思う」の合計『思う（計）』は、年代が低くなるにつれて割合が高くなり、「18～24歳」（61.6%）で最も高い。一方、「よい取組だと思わない」と「どちらかと言えばよい取組だと思わない」の合計『思わない（計）』は、「60代」（21.2%）で最も高い。また、「よく分からない・知らない」は80代以上（47.3%）で最も高く、50代（15.0%）で最も低くなる。（図表Ⅱ－5－2）

図表Ⅱ－5－2 今回の横浜市長選挙で起用したPRキャラクターについて（性別、年齢別）



6 選挙を知った方法

(1) 今回の選挙に関して見聞きしたものの



今回の市長選挙に関して、見たり聞いたりしたものについて聞いたところ、「公営ポスター掲示場の候補者ポスター」が59.8%で最も多く、次いで、「テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道」(54.5%)、「投票のご案内(封書で世帯ごとに郵送)」(45.7%)、「インターネット上での報道」(35.0%)、「選挙公報」(31.0%)、などの順となっている。(図表Ⅱ-6-1)

年齢別に見聞きしたもの（上位5位）をみると、「18～24歳」、「80歳以上」では、「テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道」の割合が最も高い。また「25～29歳」、40～79歳の各世代では、「公営ポスター掲示場の候補者ポスター」の割合が最も高く、「30～39歳」では、「インターネット上での報道」の割合が最も高い。（図表Ⅱ－6－2）

図表Ⅱ－6－2 見聞きしたもの（年齢別 上位5位）

(%)

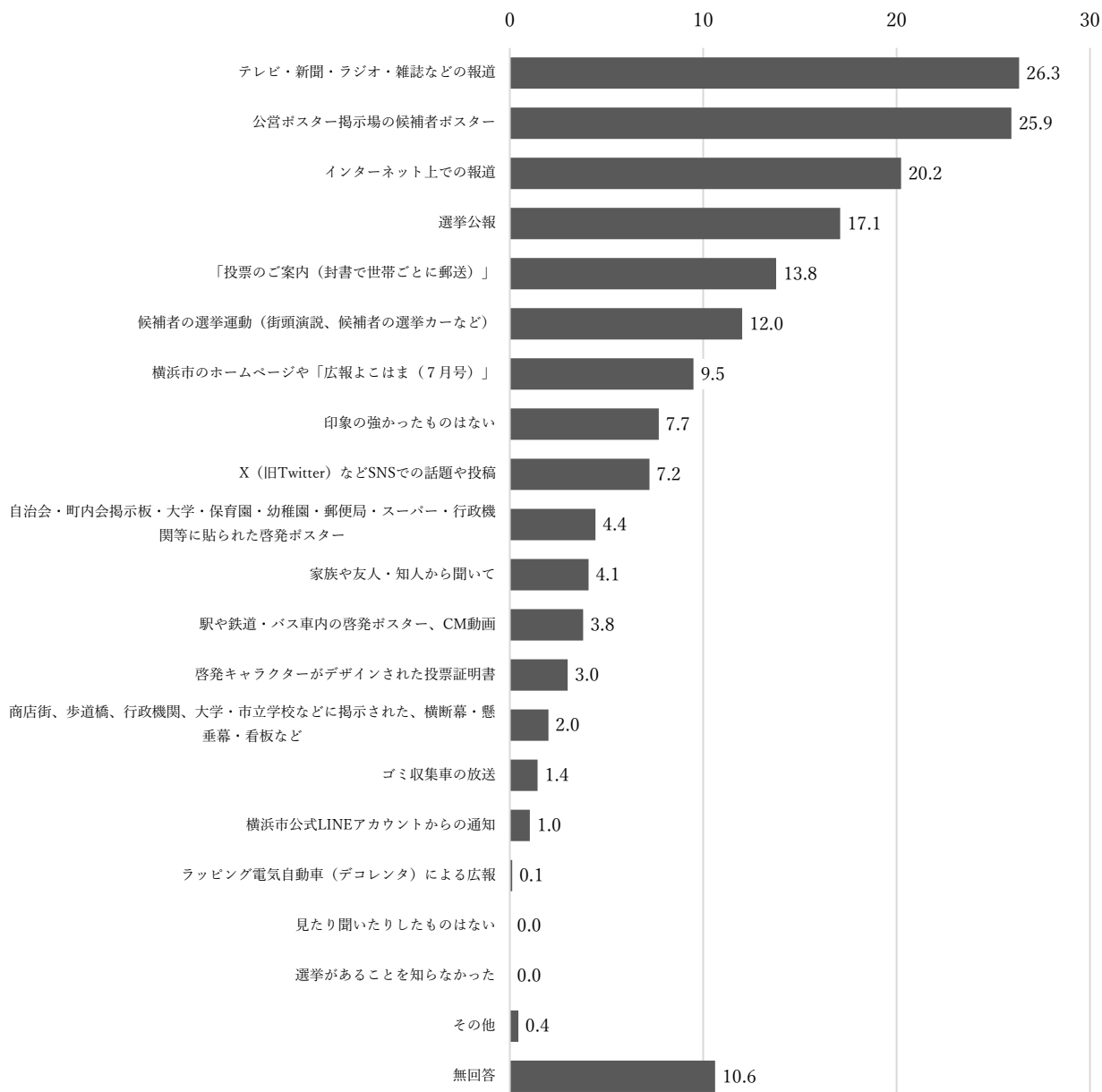
	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	2,506	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 59.8	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 54.5	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 45.7	インターネット上での報道 35.0	選挙公報 31.0
年齢別	18～24歳	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 56.5	インターネット上での報道 54.9	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 51.0	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 38.4	家族や友人・知人から聞いて 36.1
	25～29歳	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 52.9	インターネット上での報道 51.9	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 48.1	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 41.0	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 32.4
	30代	インターネット上での報道 57.5	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 51.5	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 50.6	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 41.0	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 31.7
	40代	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 58.8	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 50.3	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 46.9	インターネット上での報道 45.9	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 36.3
	50代	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 70.5	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 55.7	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 48.4	インターネット上での報道 36.3	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 33.2
	60代	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 66.1	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 58.5	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 50.0	選挙公報 37.9	横浜市のホームページや「広報よこはま（7月号）」 33.9
	70代	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 65.9	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 61.0	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 51.0	選挙公報 48.7	横浜市のホームページや「広報よこはま（7月号）」 35.4
	80歳以上	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 56.8	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 52.7	選挙公報 52.3	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 39.5	横浜市のホームページや「広報よこはま（7月号）」 35.8

(2) 印象の強かったもの

問6-1 その中で、もっとも印象の強かったものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

図表Ⅱ-6-3 印象の強かったもの

(%)



今回の市長選挙に関して、見たり聞いたりしたものうち印象の強かったものについて聞いたところ、「テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道」が26.3%で最も多く、次いで、「公営ポスター掲示場の候補者ポスター」(25.9%)、「インターネット上での報道」(20.2%)、「選挙公報」(17.1%)などの順となっている。(図表Ⅱ-6-3)

年齢別にみると、「18～24歳」、「80歳以上」では「テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道」の割合が最も高い。また、「25～29歳」、「30～39歳」では、「インターネット上での報道」の割合が最も高く、「40代」から「70代」までの各年代では、「公営ポスター掲示場の候補者ポスター」の割合が最も高い。（図表Ⅱ－6－4）

図表Ⅱ－6－4 印象の強かったもの（年齢別上位5位） (%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	2,506	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 26.3	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 25.9	インターネット上での報道 20.2	選挙公報 17.1	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 13.8
年齢別	18～24歳	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 34.9	インターネット上での報道 31.0	X（旧Twitter）などSNSでの話題や投稿 19.6	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 15.7	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 13.3
	25～29歳	インターネット上での報道 30.5	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 24.3	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 19.0	X（旧Twitter）などSNSでの話題や投稿 15.2	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 11.4
	30代	インターネット上での報道 35.6	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 21.6	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 20.1	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 13.5	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 12.3
	40代	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 33.1	インターネット上での報道 28.8	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 22.2	選挙公報 16.6	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 15.9
	50代	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 32.6	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 29.3	インターネット上での報道 20.2	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 15.3	選挙公報 14.5
	60代	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 29.4	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 26.0	選挙公報 22.9	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 15.8	候補者の選挙運動（街頭演説、候補者の選挙カーなど） 14.4
	70代	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 28.7	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 26.4	選挙公報 25.6	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 16.9	横浜市のホームページや「広報よこはま（7月号）」 16.2
	80歳以上	テレビ・新聞・ラジオ・雑誌などの報道 28.0	選挙公報 25.5	公営ポスター掲示場の候補者ポスター 21.8	横浜市のホームページや「広報よこはま（7月号）」 17.3	「投票のご案内（封書で世帯ごとに郵送）」 12.3

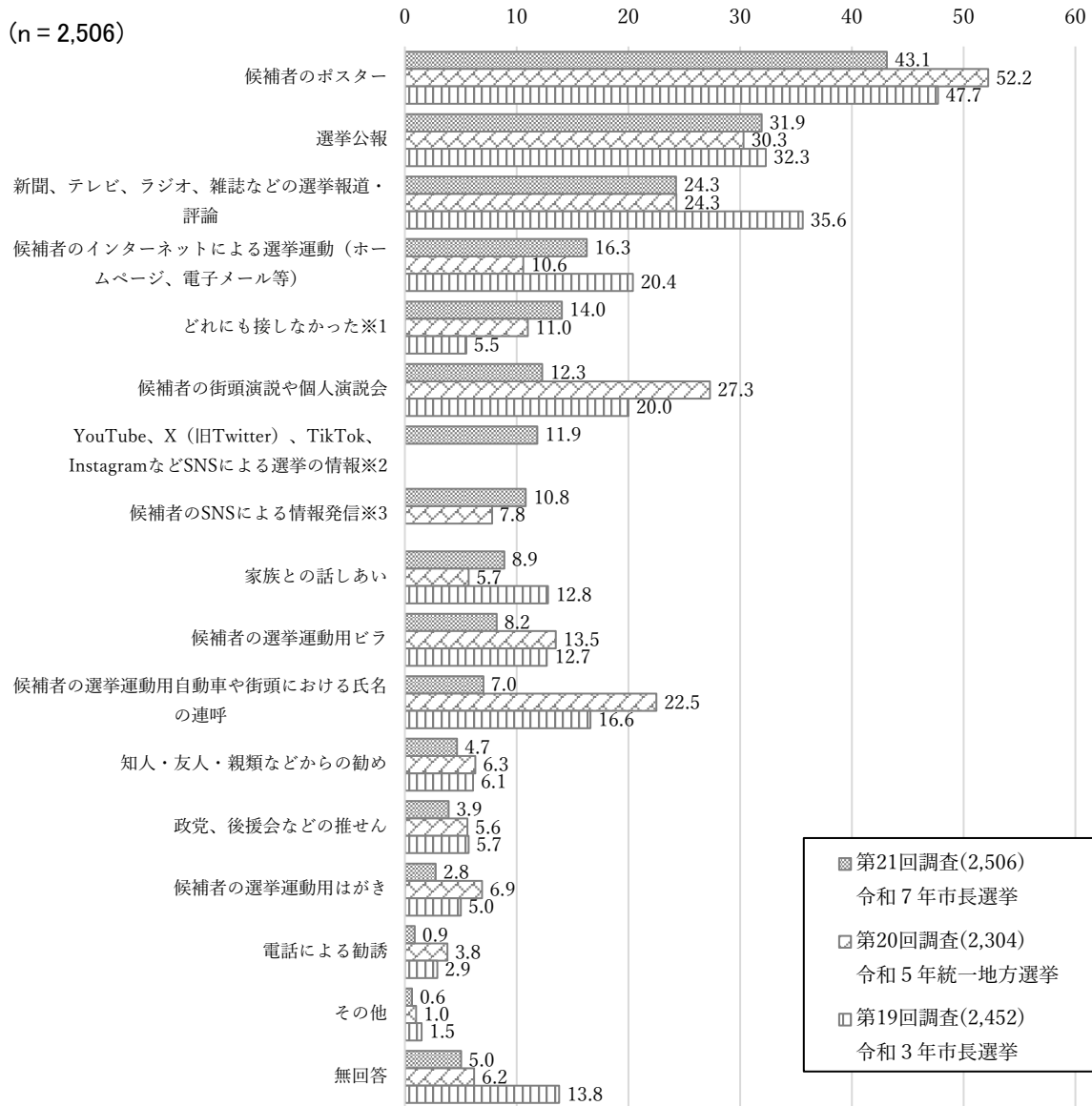
7 候補者の選定に役立ったもの

(1) 候補者に関して見聞きしたもの

問7-1 今回の横浜市長選挙で、候補者に関してあなたが見たり聞いたり、また、すすめられたものがありましたら、すべてあげてください。(〇はいくつでも)

図表Ⅱ-7-1 候補者に関して見聞きした、勧められたもの (%)

(n = 2,506)



※1 前回まで調査では、どれにも接しなかった 役に立ったものはない

※2 今回調査から新規に追加

※3 前回令和5年調査から追加

今回の市長選挙で候補者に関し見聞きしたものを聞いたところ、「候補者のポスター」が43.1%で最も多く、次いで「選挙公報」(31.9%)、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論」(24.3%)、「候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）」(16.3%)、「どれにも接しなかった」(14.0%)、「候補者の街頭演説や個人演説会」(12.3%)の順となっている。(図表Ⅱ-7-1)

年齢別に見聞きしたものの上位5位をみると、18歳から79歳までの各年代では、「候補者のポスター」がもっと多く、「80歳以上」では、「選挙公報」が最も多い。「選挙公報」は、30歳から79歳までの各年代で2番目に多い。(図表Ⅱ-7-2)

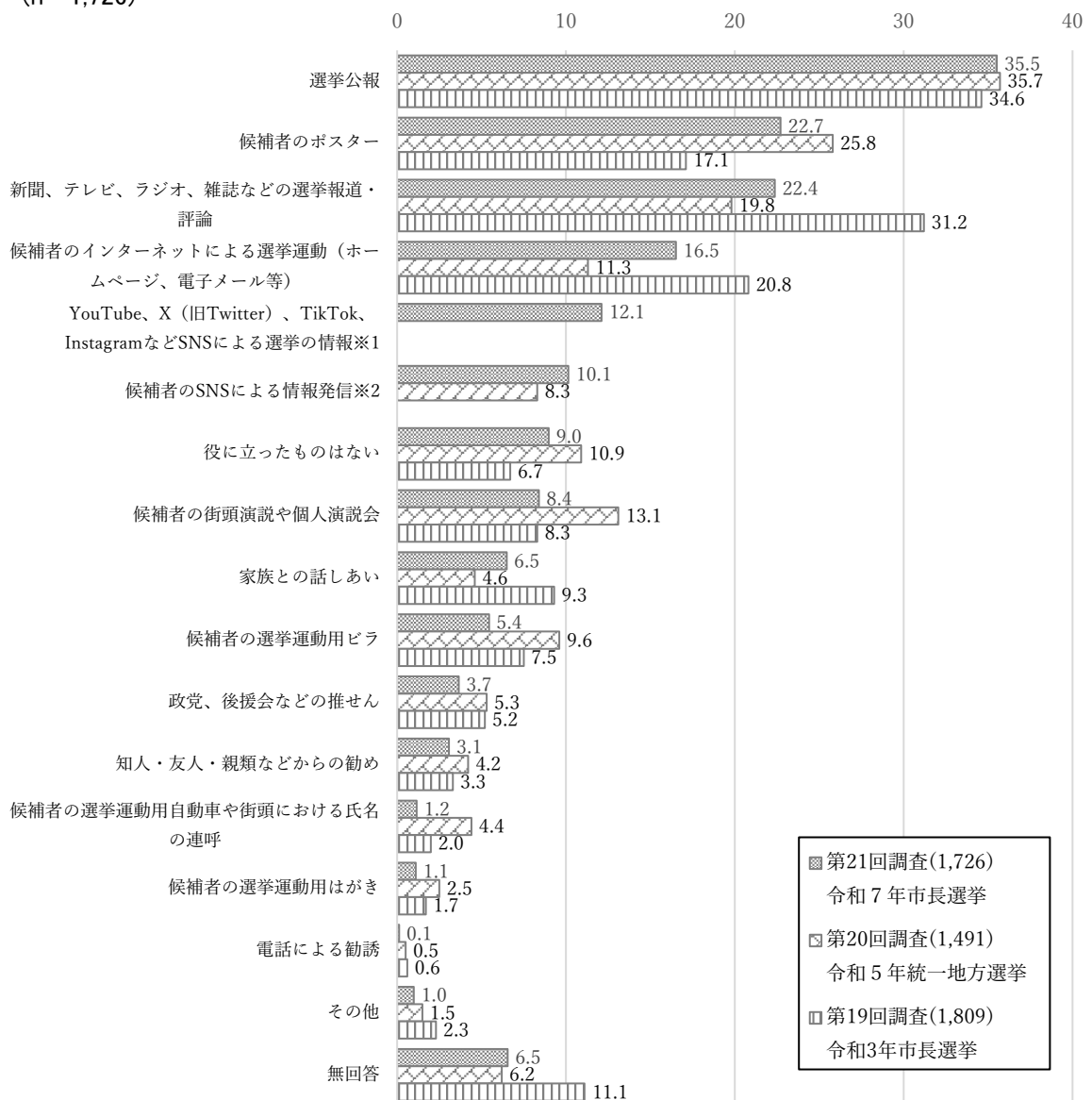
図表Ⅱ-7-2 候補者に関して見聞きしたもの（年齢別上位5位）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	2,506	候補者のポスター	選挙公報	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）	
		43.1	31.9	24.3	16.3	14.0	
年齢別	18～24歳	255	候補者のポスター	どれにも接しなかった	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）	YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報	家族との話しあい
			31.8	22.0	21.6	21.2	16.9
	25～29歳	210	候補者のポスター	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）	YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報	どれにも接しなかった	選挙公報
			31.9	23.3	21.4	21.4	19.0
	30代	334	候補者のポスター	選挙公報	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）	YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報	候補者のSNSによる情報発信
			35.3	26.6	25.1	21.6	19.8
	40代	320	候補者のポスター	選挙公報	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論	YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報
			45.3	27.8	25.3	20.0	16.9
50代	386	候補者のポスター	選挙公報	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）	候補者の街頭演説や個人演説会	
		50.5	26.4	25.4	17.6	14.5	
60代	354	候補者のポスター	選挙公報	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論	どれにも接しなかった	候補者の街頭演説や個人演説会	
		46.9	37.3	29.1	14.4	14.1	
70代	390	候補者のポスター	選挙公報	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論	候補者の選挙運動用ビラ	候補者の街頭演説や個人演説会	
		54.1	47.2	33.1	11.8	9.7	
80歳以上	243	選挙公報	候補者のポスター	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論	候補者の選挙運動用ビラ	家族との話しあい	
		53.5	39.1	37.4	8.6	7.4	

(2) 候補者を決めるのに役立ったもの

問7-2 問3で「1 投票した(投票日当日)」「2 投票した(期日前・不在者)」とお答えの方は、それらのうち、投票する候補者を決めるのに役に立ったものがありましたら、いくつでもあげてください。(〇はいくつでも)

図表Ⅱ-7-3 候補者の選定に役に立ったもの (%) (n = 1,726)



※1 今回調査から新規に追加
 ※2 前回令和5年調査から追加

「投票した」と答えた方(1,726人)に、候補者の選定に役に立ったものについて聞いたところ、「選挙公報」が35.5%で最も多く、次いで「候補者のポスター」(22.7%)、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論」(22.4%)、「候補者のインターネットによる選挙運動(ホームページ、電子メール等)」(16.5%)、「YouTube、X(旧Twitter)、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報」(12.1%)、「候補者のSNSによる情報発信」(10.1%)などの順となっている。

第19回調査（令和3年市長選挙）と比較すると、「選挙公報」（35.5%）は、第19回調査（34.6%）より0.9ポイント、「候補者のポスター」（22.7%）は、第19回調査（17.1%）より5.6ポイント増加している。一方、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論」（22.4%）は、第19回調査（31.2%）より8.8ポイント、「候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）」（16.5%）は、第19回調査（20.8%）より4.3ポイント減少している。（図表Ⅱ-7-4）

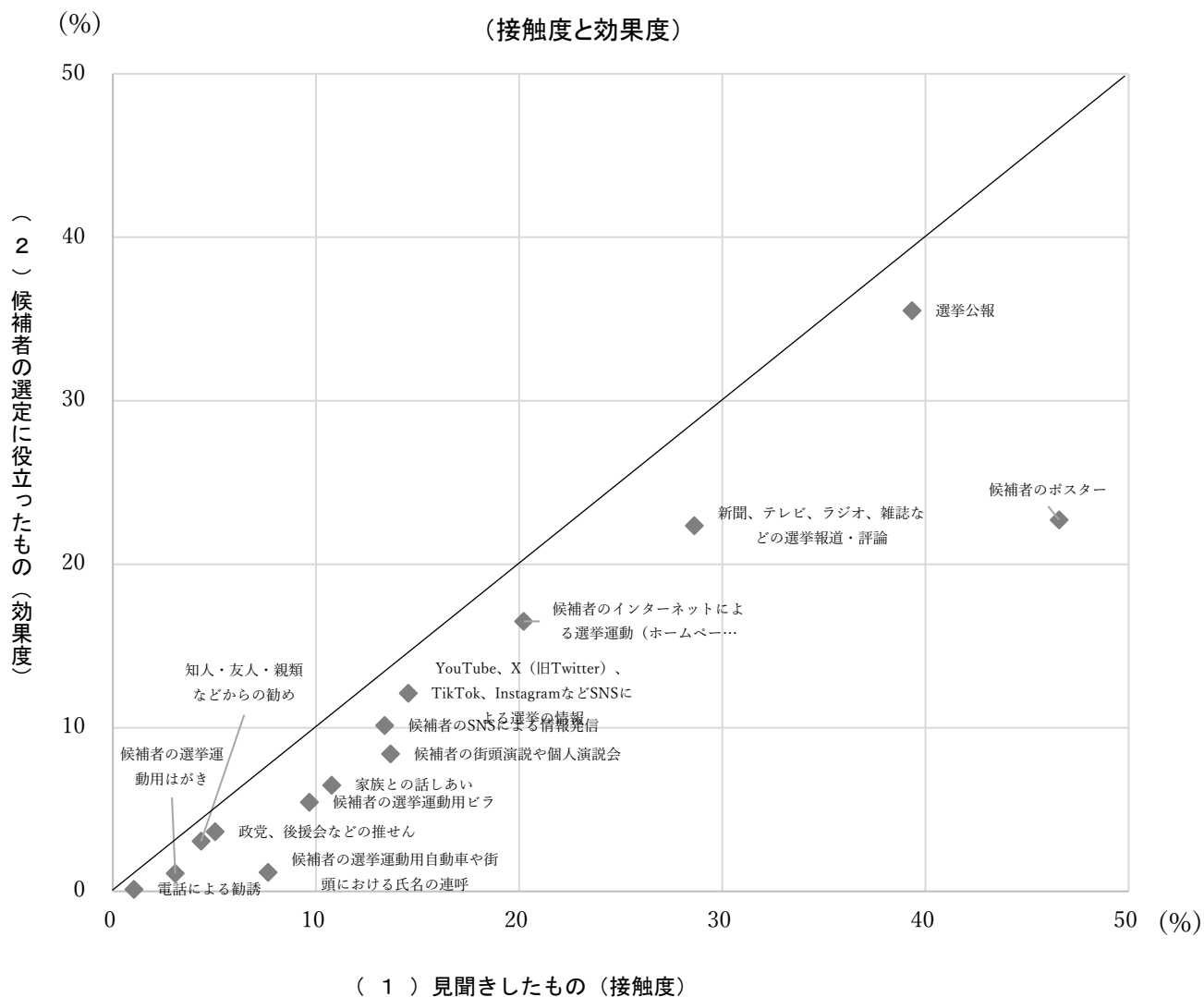
年齢別に候補者の選定に役立ったもの上位5位をみると「選挙公報」は、30歳以上の各年代では最も高くなっている。また、「18歳～24歳」では、「YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報」が最も多く、「25歳～29歳」では、「候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）」が最も多くなっている。（図表Ⅱ-7-4）

図表Ⅱ-7-4 候補者の選定に役に立ったもの（年齢別 上位5位）

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,726	選挙公報 35.5	候補者のポスター 22.7	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論 22.4	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等） 16.5	YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報 12.1
年齢別	18～24歳	161 YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報 18.6	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等） 17.4	候補者のポスター 16.8	役に立ったものはない 16.8	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論 15.5
	25～29歳	142 候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等） 28.2	選挙公報 22.5	YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報 21.1	候補者のSNSによる情報発信 19.0	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論 16.9
	30代	233 選挙公報 28.3	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等） 25.8	YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報 21.5	候補者のポスター 16.3	候補者のSNSによる情報発信 15.0
	40代	219 選挙公報 35.2	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等） 25.1	YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報 19.2	候補者のポスター 18.7	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論 17.4
	50代	265 選挙公報 32.1	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論 26.0	候補者のポスター 23.0	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等） 19.2	候補者の街頭演説や個人演説会 12.5
	60代	259 選挙公報 41.3	候補者のポスター 23.2	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論 20.5	候補者の街頭演説や個人演説会 12.0	候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等） 11.6
	70代	275 選挙公報 49.1	候補者のポスター 38.2	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論 29.8	候補者の街頭演説や個人演説会 8.7	候補者の選挙運動用ビラ 7.6
	80歳以上	165 選挙公報 51.5	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論 36.4	候補者のポスター 25.5	候補者の街頭演説や個人演説会 7.9	候補者の選挙運動用ビラ 7.3

また、「投票した」と答えた方(1,726人)が見聞きしたものと、候補者の選定に役立ったものを相関させた散布図(図表Ⅳ-6-6)を作成した。横軸が接触度、縦軸が効果度となっている。「選挙公報」が、接触度・効果度ともに最も高い。(図表Ⅱ-7-5)

図表Ⅱ-7-5 見聞きしたものと候補者の選定に役に立ったもの



(3) 有効率

「投票した」と答えた方（1,726人）が候補者に関し見聞きしたものと、候補者の選定に役立ったものを比較すると、見聞きしたものでは「候補者のポスター」が最も多いが、候補者選定に役立ったものでは、「選挙公報」が最も多い。

また、「投票した」と答えた方（1,726人）が見聞きしたもののうち、候補者の選定に役立ったと回答した割合を「有効率」として表した。有効率は、「選挙公報」が90.3%で最も多く、次いで「YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報」（83.3%）、「候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）」（81.7%）、「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論」（78.1%）、「候補者のSNSによる情報発信」（75.8%）などの順となっている。一方、有効率の低いものは、「電話による勧誘」（11.1%）、「候補者の選挙運動用自動車や街頭における氏名の連呼」（15.2%）などとなっている。（図表Ⅱ-7-6）

図表Ⅱ-7-6 選挙運動等の有効率

(%)

○数字は順位

回答選択肢	選挙運動等の有効性		(1)候補者に関し見聞きした		(2)候補者選定に役立った		有効率(2)/(1)	
候補者のポスター	46.6	①	22.7	②	48.8	⑪		
選挙公報	39.3	②	35.5	①	90.3	①		
新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などの選挙報道・評論	28.6	③	22.4	③	78.1	④		
候補者のインターネットによる選挙運動（ホームページ、電子メール等）	20.2	④	16.5	④	81.7	③		
YouTube、X（旧Twitter）、TikTok、InstagramなどSNSによる選挙の情報	14.5	⑤	12.1	⑤	83.3	②		
候補者の街頭演説や個人演説会	13.7	⑥	8.4	⑦	61.4	⑧		
候補者のSNSによる情報発信	13.4	⑦	10.1	⑥	75.8	⑤		
家族との話しあい	10.8	⑧	6.5	⑧	60.2	⑨		
候補者の選挙運動用ビラ	9.7	⑨	5.4	⑨	56.3	⑩		
候補者の選挙運動用自動車や街頭における氏名の連呼	7.6	⑩	1.2	⑫	15.2	⑬		
政党、後援会などの推せん	5.0	⑪	3.7	⑩	72.4	⑥		
知人・友人・親類などからの勧め	4.3	⑫	3.1	⑪	70.7	⑦		
候補者の選挙運動用はがき	3.1	⑬	1.1	⑬	35.8	⑫		
電話による勧誘	1.0	⑭	0.1	⑭	11.1	⑭		
その他	0.8		1.0					
どれにも接しなかった	7.5							
役に立ったものはない			9.0					
無回答	4.3		6.5					

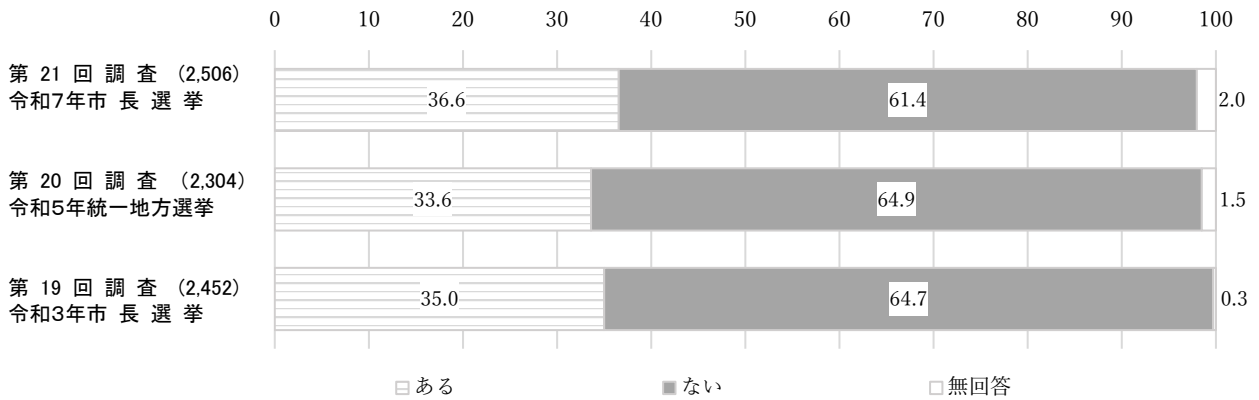
Ⅲ 政治意識

1 支持政党

問8 あなたは、現在支持する政党がありますか。(○は1つだけ)

図表Ⅲ－１－１ 支持政党の有無

(%)

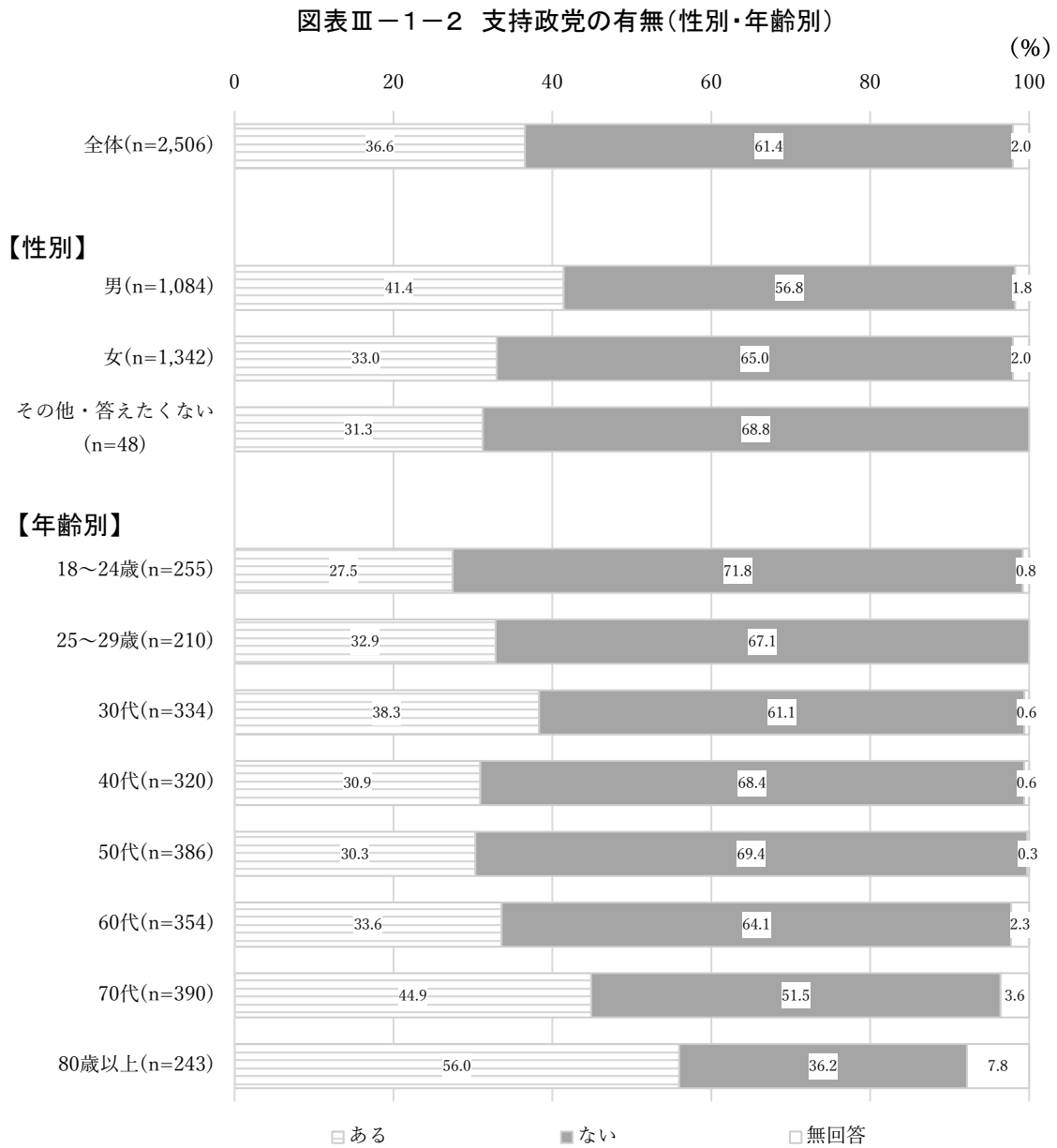


支持政党の有無を聞いたところ、「ある」が36.6%、「ない」が61.4%となっている。

第19回調査（令和3年市長選挙）と比較すると、「ある」（36.6%）は、第19回調査（35.0%）より1.6ポイント増加している。（図Ⅲ－１－１）

性別・年齢別にみると、「ある」は「男性（計）」（41.4%）の方が、「女性（計）」（33.0%）より8.4ポイント高い。

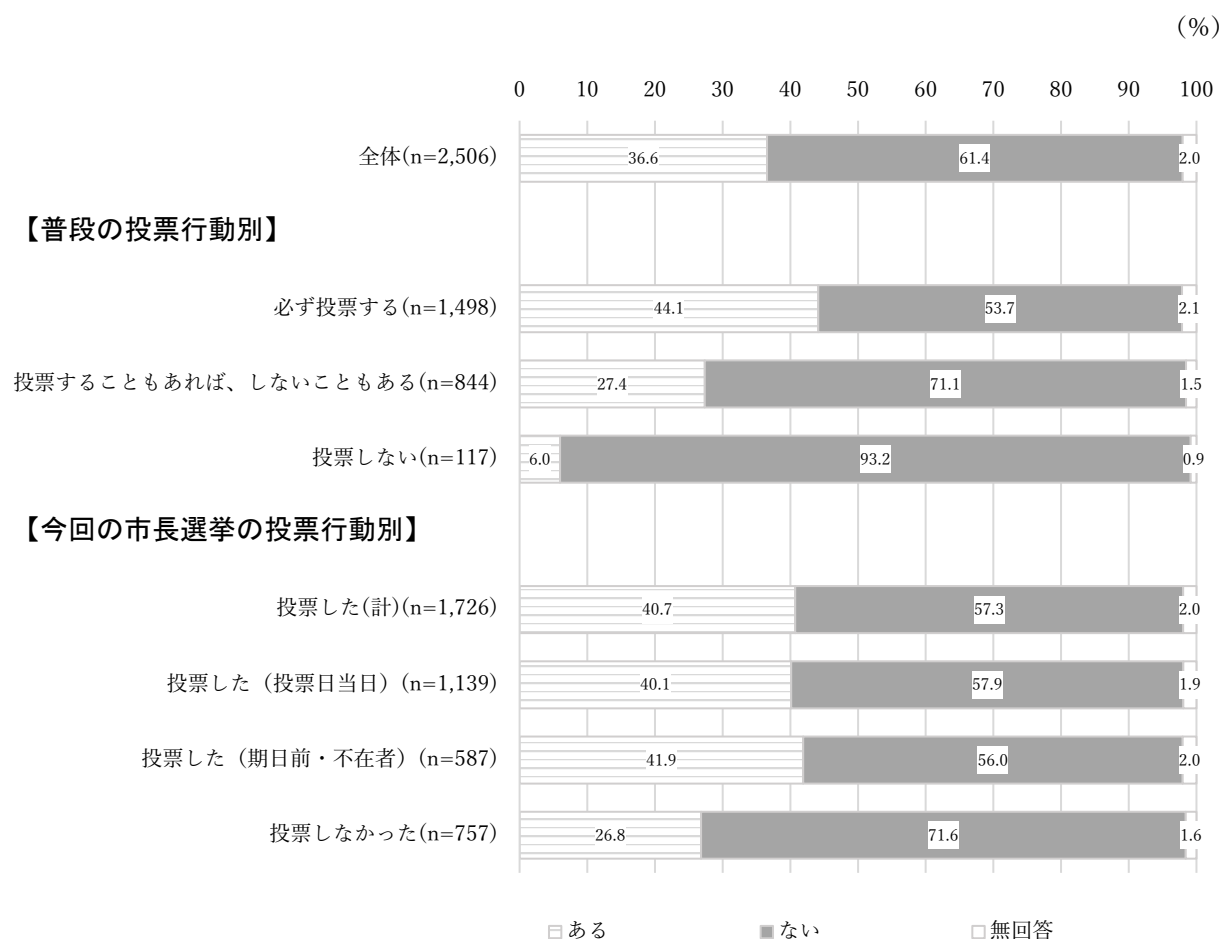
年齢別にみると、「ある」は80歳以上（56.0%）で最も高く、次いで70代（44.9%）、30代（38.3%）の順となった。「ない」は18～24歳（71.8%）で最も高く、次いで50代（69.4%）、40代（68.4%）の順となった。（図表Ⅲ－1－2）



普段の投票行動別に見ると、「ある」は「必ず投票する」(44.1%)で最も多く、次いで「投票することもある、しないこともある」(27.4%)となった。

今回の市長選挙の投票行動別でみると、「ある」は「投票した」と回答した人で40.7%、「投票しなかった」と回答した人で26.8%となった。

図表Ⅲ－１－３ 支持政党の有無（投票行動別）

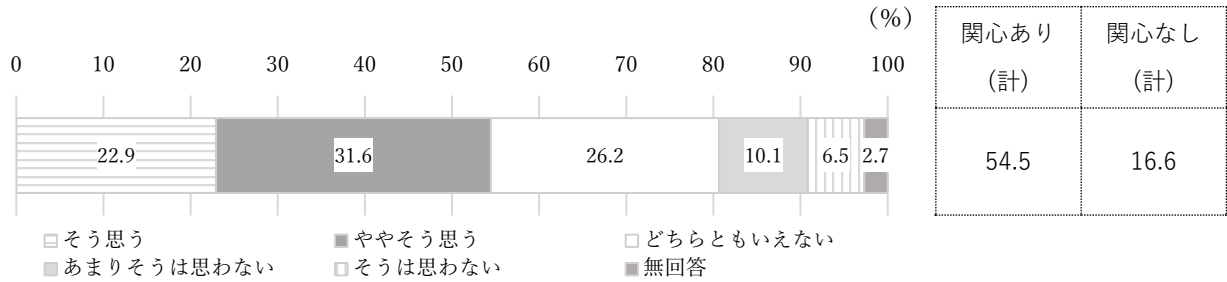


2 市政への関心

問9 横浜市政について、(1)から(3)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを1つずつ選んでください。(○は1つだけ)

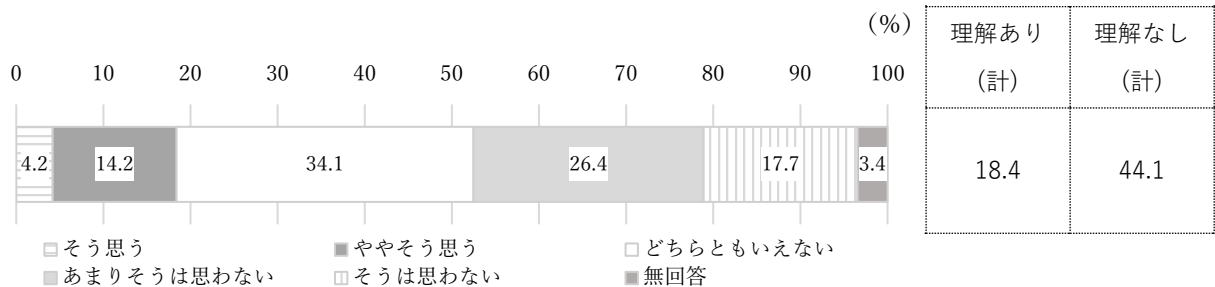
(1) 横浜市の財政状況や施策について関心を持っている

図表Ⅲ-2-1 横浜市の財政状況や施策への関心



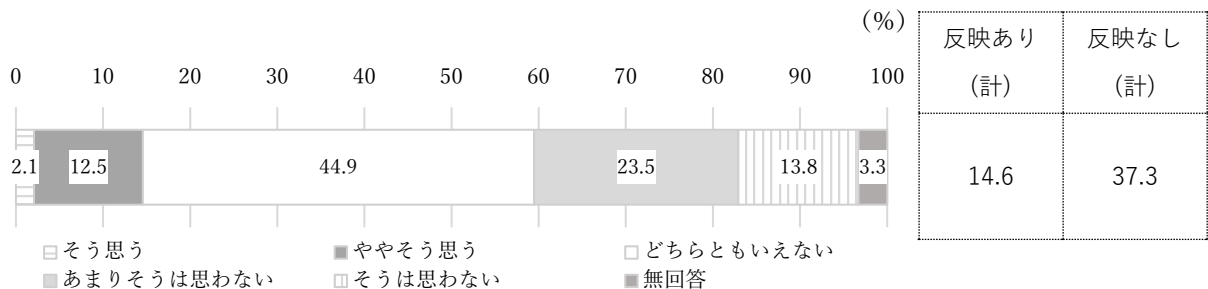
(2) 市長や市議会議員の活動や職務について理解している

図表Ⅲ-2-2 市長や市議会議員の活動や職務について理解しているか



(3) 横浜市政には有権者の声が反映されている

図表Ⅲ-2-3 横浜市政の有権者の声が反映されているか



横浜市政について、(1) 横浜市の財政状況や施策について聞いたところ、「そう思う」(22.9%)と「ややそう思う」(31.6%)を合わせた『思う(計)』は54.5%となっている。一方、「そうは思わない」(6.5%)と「あまりそうは思わない」(10.1%)を合わせた『思わない(計)』は16.6%となっている。

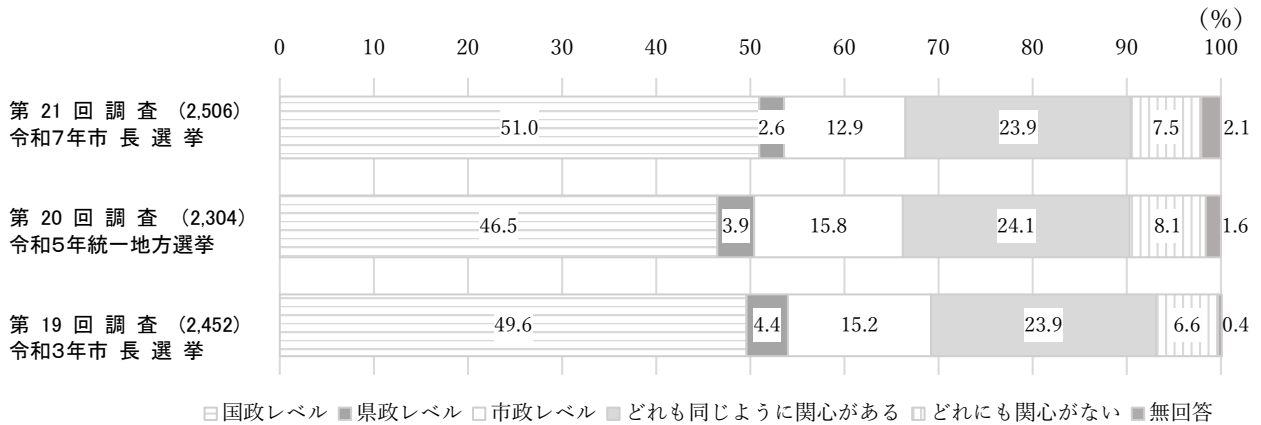
(2) 市長や市議会議員の活動や職務について理解しているか、聞いたところ、「そう思う」(4.2%)と「ややそう思う」(14.2%)を合わせた『思う(計)』は18.4%となっている。一方、「そうは思わない」(17.7%)と「あまりそうは思わない」(26.4%)を合わせた『思わない(計)』は44.1%となっている。

(3) 横浜市政の有権者の声が反映されているか、聞いたところ、「そう思う」(2.1%)と「ややそう思う」(12.5%)を合わせた『思う(計)』は14.6%となっている。一方、「そうは思わない」(13.8%)と「あまりそうは思わない」(23.5%)を合わせた『思わない(計)』は37.3%となっている。

3 政治関心レベル

問10 あなたは、政治上の問題、できごと、行政の動きなどについて、「国政レベル」「県政レベル」「市政レベル」の三段階に分けた場合、もっとも関心を持っているものはどれですか。(〇は1つだけ)

図表Ⅲ－3－1 政治関心レベル



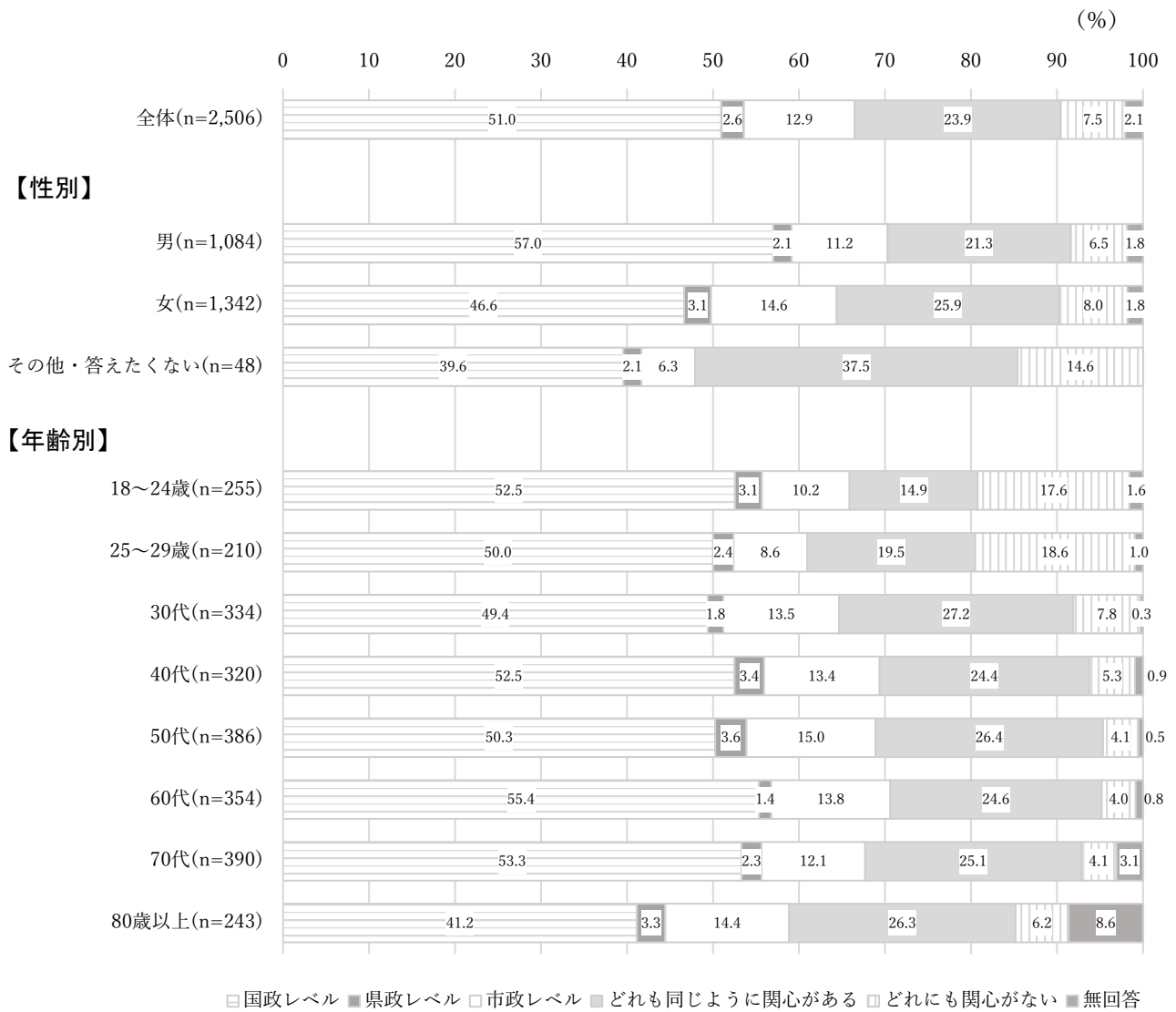
政治上の問題、できごと、行政の動きなど、どのレベルに最も関心を持っているかについて聞いたところ、「国政レベル」が51.0%で最も多く、次いで「市政レベル」(12.9%)、「県政レベル」(2.6%)の順となっている。また、「どれにも同じように関心がある」が23.9%となっている。

第19回調査(令和3年市長選挙)及び第20回調査(令和5年統一地方選挙)と比較すると、今回調査では「国政レベル」が増加し、「県政レベル」、「市政レベル」が減少した。(図表Ⅲ－3－1)

性別にみると、「国政レベル」は男性（57.0%）の方が女性（46.6%）より10.4ポイント高くなっている。「市政レベル」では、女性（14.6%）の方が男性（11.2%）より3.4ポイント高くなっている。（図表Ⅲ-3-2）

年齢別でみると、「どれにも関心がない」は25～29歳（18.6%）が最も高く、次いで18～24歳（17.6%）となっている。

図表Ⅲ-3-2 政治関心レベル(性別・年齢別)



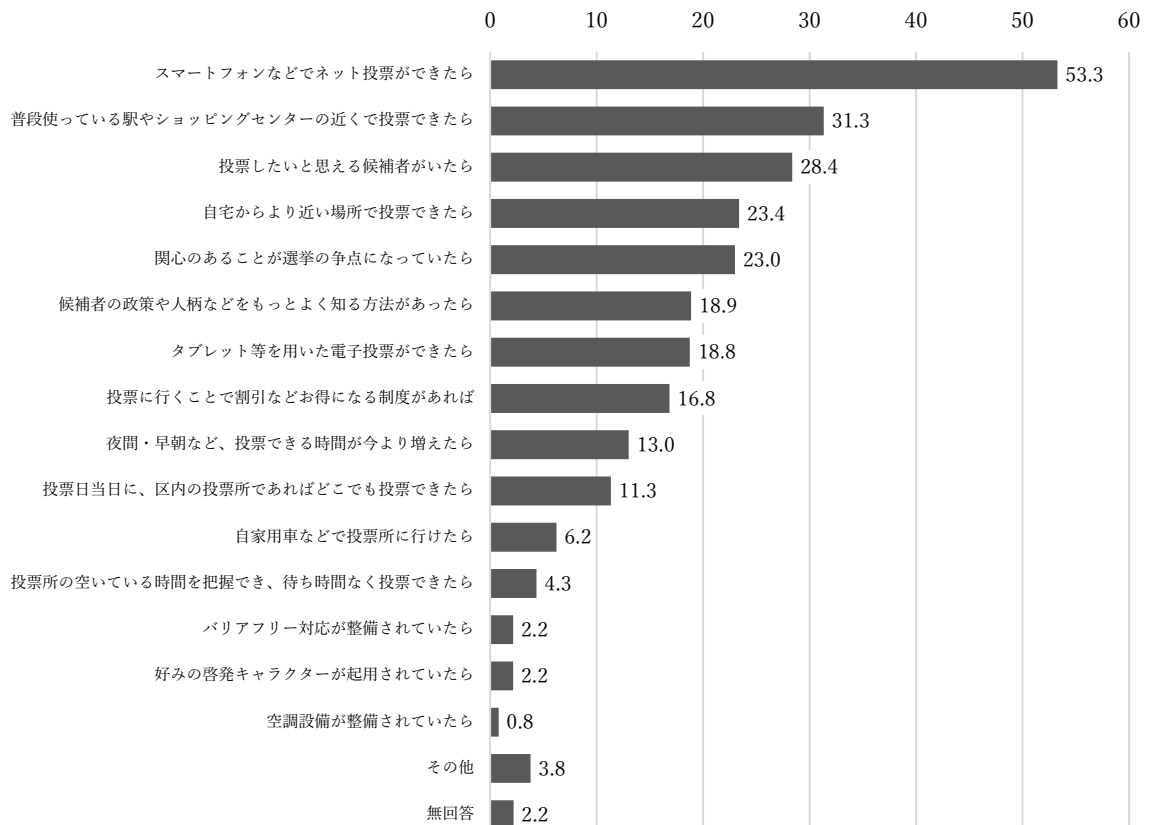
IV 投票率や制度の改善に関する意識

1 投票率が上がる条件

問11 選挙の投票率が低いことが課題としてあげられていますが、どのような条件が整えば投票に行く人が増える(投票率が上がる)と思いますか。(〇は3つまで)

図表Ⅳ－1－1 投票率が上がる条件

(%)



最近の選挙の投票率が低いことが課題としてあげられることについて、どのような条件が整えば投票に行く人が増える(投票率が上がる)と思うか聞いたところ、「スマートフォンなどでネット投票ができれば」が53.3%と最も多く、次いで「普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票ができれば」(31.3%)、「投票したいと思える候補者がいたら」(28.4%)、「自宅からより近い場所で投票ができれば」(23.4%)「関心のあることが選挙の争点になっていたら」(23.0%)の順になっている。(図表Ⅳ－1－1)

年齢別に、投票率が上がる条件の上位5位みると、18歳から69歳までの各年代では、「スマートフォンなどでネット投票ができたなら」がもっと多く、「70歳～79歳」では、「普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら」、「80歳以上」では、「自宅からより近い場所で投票できたなら」が最も多い。

「普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら」は、30歳～69歳の各年代で2番目に多く、「投票したいと思える候補者がいたら」は、18歳～29歳、70歳以上の各年代で2番目に多い。

(図表IV-1-2)

図表IV-1-2 投票率が上がる条件について（年齢別上位5位）

	n	1位	2位	3位	4位	5位	
全体	2,506	スマートフォンなどでネット投票ができたなら	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら	投票したいと思える候補者がいたら	自宅からより近い場所で投票できたなら	関心のあることが選挙の争点になっていたなら	
		53.3	31.3	28.4	23.4	23.0	
年齢別	18～24歳	255	スマートフォンなどでネット投票ができたなら	投票したいと思える候補者がいたら	タブレット等を用いた電子投票ができたなら	自宅からより近い場所で投票できたなら	関心のあることが選挙の争点になっていたなら
			61.2	25.5	23.9	23.5	22.7
	25～29歳	210	スマートフォンなどでネット投票ができたなら	投票したいと思える候補者がいたら	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら	投票に行くことで割引などお得になる制度があれば	候補者の政策や人柄などをもっとよく知る方法があったら
			67.6	30.5	29.0	27.1	22.9
	30代	334	スマートフォンなどでネット投票ができたなら	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら	投票したいと思える候補者がいたら	タブレット等を用いた電子投票ができたなら	自宅からより近い場所で投票できたなら
			72.5	32.6	31.1	25.7	22.2
	40代	320	スマートフォンなどでネット投票ができたなら	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら	タブレット等を用いた電子投票ができたなら	投票したいと思える候補者がいたら	関心のあることが選挙の争点になっていたなら
			69.1	32.5	27.8	25.6	21.3
50代	386	スマートフォンなどでネット投票ができたなら	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら	投票したいと思える候補者がいたら	関心のあることが選挙の争点になっていたなら	タブレット等を用いた電子投票ができたなら	
		61.4	37.0	28.5	24.1	20.2	
60代	354	スマートフォンなどでネット投票ができたなら	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら	投票したいと思える候補者がいたら	関心のあることが選挙の争点になっていたなら	自宅からより近い場所で投票できたなら	
		55.1	31.1	27.1	24.9	20.6	
70代	390	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら	投票したいと思える候補者がいたら	関心のあることが選挙の争点になっていたなら	自宅からより近い場所で投票できたなら	スマートフォンなどでネット投票ができたなら	
		34.1	30.5	28.5	28.2	26.9	
80歳以上	243	自宅からより近い場所で投票できたなら	候補者の政策や人柄などをもっとよく知る方法があったら	投票したいと思える候補者がいたら	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できたなら	関心のあることが選挙の争点になっていたなら	
		39.5	27.2	27.2	25.5	23.0	

当日投票所までの徒歩での所要時間別にみると、どの時間帯でも「スマートフォンなどでネット投票ができた」が最も多い。次に多いのは5分以内では「投票したいと思える候補者がいたら」、10分以上では「普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できた」となっている。

20分以上では、「自宅からより近い場所で投票できた」と回答した方が第3位となっている。(図表IV-1-3)

図表IV-1-3 投票率が上がる条件（当日投票所までの徒歩での所要時間別）上位5位

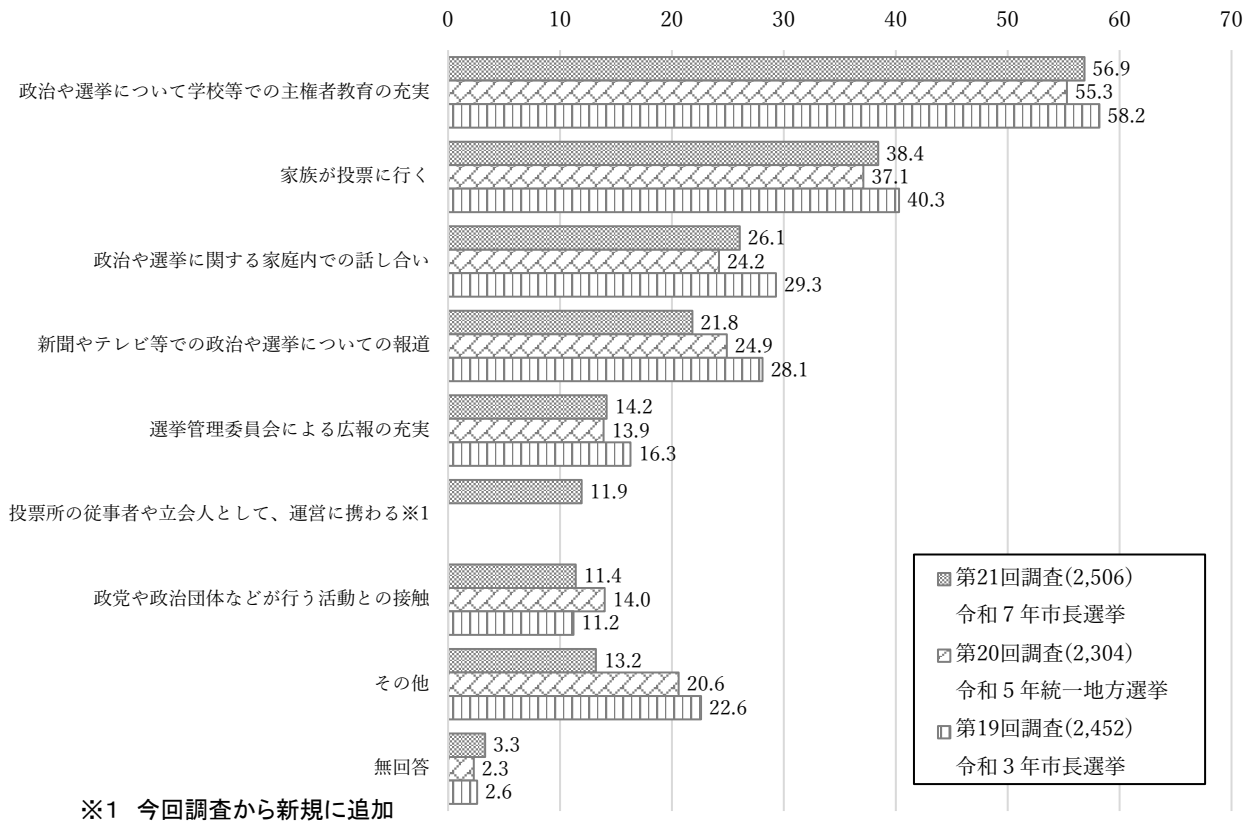
	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	2,506	スマートフォンなどでネット投票ができた	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できた	投票したいと思える候補者がいたら	自宅からより近い場所で投票できた	関心のあることが選挙の争点になっていた
		53.3	31.3	28.4	23.4	23.0
投票所までの時間	5分以内	スマートフォンなどでネット投票ができた	投票したいと思える候補者がいたら	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できた	関心のあることが選挙の争点になっていた	自宅からより近い場所で投票できた
		58.2	28.2	26.8	25.8	21.7
	10分以内	スマートフォンなどでネット投票ができた	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できた	投票したいと思える候補者がいたら	関心のあることが選挙の争点になっていた	タブレット等を用いた電子投票ができた
		55.2	30.5	28.8	25.1	20.9
	15分以内	スマートフォンなどでネット投票ができた	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できた	投票したいと思える候補者がいたら	自宅からより近い場所で投票できた	関心のあることが選挙の争点になっていた
		48.6	36.0	31.5	24.0	21.0
	20分以内	スマートフォンなどでネット投票ができた	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できた	自宅からより近い場所で投票できた	投票したいと思える候補者がいたら	関心のあることが選挙の争点になっていた
		55.6	30.9	28.7	24.2	17.5
	30分以内	スマートフォンなどでネット投票ができた	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できた	投票したいと思える候補者がいたら	自宅からより近い場所で投票できた	関心のあることが選挙の争点になっていた
		48.3	35.7		29.4	23.1
	30分超	スマートフォンなどでネット投票ができた	普段使っている駅やショッピングセンターの近くで投票できた	自宅からより近い場所で投票できた	投票したいと思える候補者がいたら	候補者の政策や人柄などをもっとよく知る方法があった
		44.4	43.1	37.5	19.4	18.1

2 若年層における投票意識の向上

問12 全体の投票率から見ると、若年層の投票率は平均より10ポイント以上低い状況が続いています
が、若年層の投票への意識を高めるためには、どのようにしたらよいと思いますか。
(〇は3つまで)

図表Ⅳ-2-1 若年層における投票意識の向上

(%)

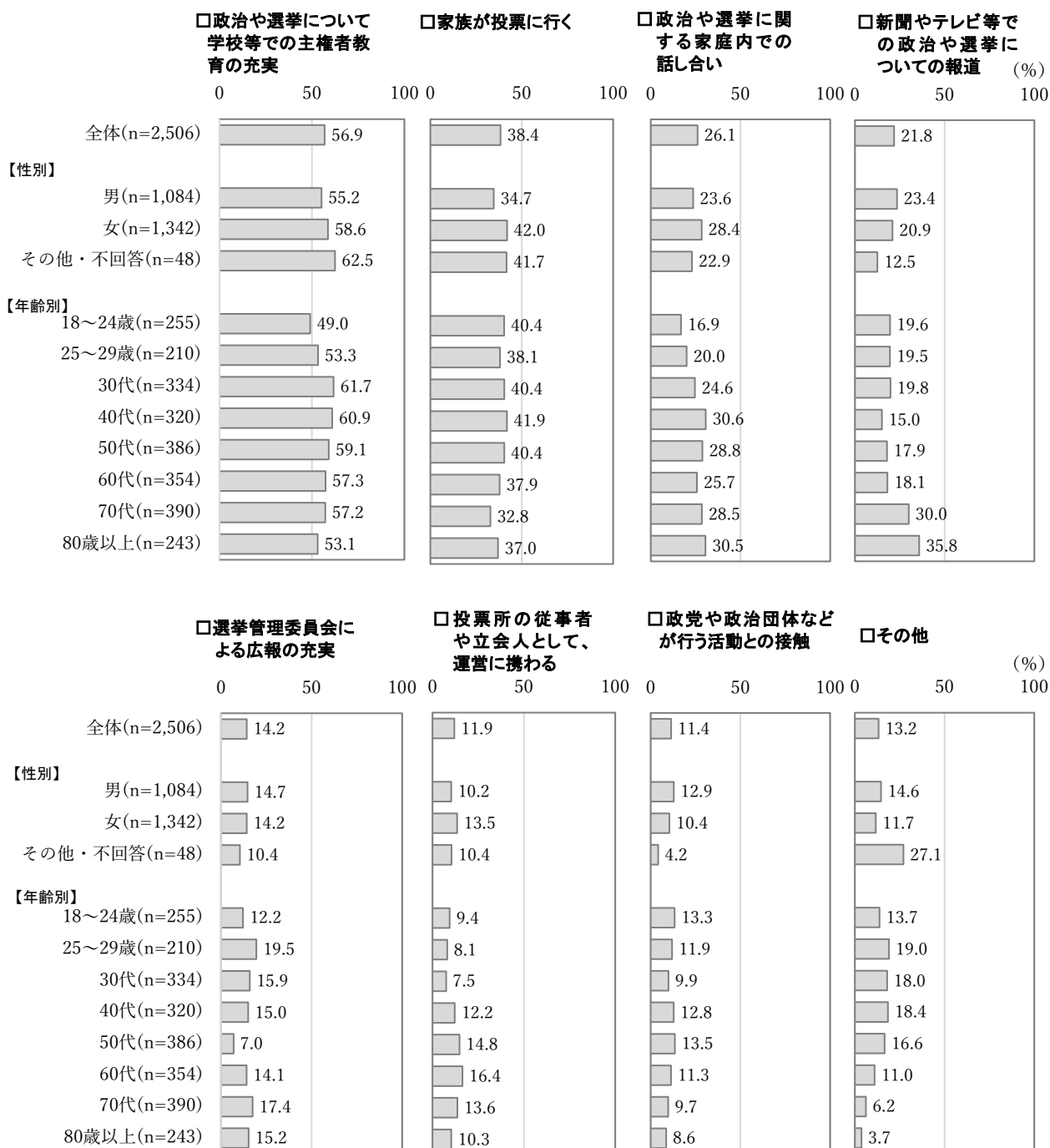


若年層の投票への意識を高めるためにはどのようにしたらよいか、聞いたところ、「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」が56.9%で最も多く、次いで「家族が投票に行く」(38.4%)、「政治や選挙に関する家庭内での話し合い」(26.1%)の順となっている。

第19回調査(令和3年市長選挙)と比較すると、上位5項目の順位に変動は見られない。(図表Ⅳ-2-1)

年齢別にみると、「政治や選挙について学校等での主権者教育の充実」は「30代」が最も多く、「政治や選挙に関する家庭内での話し合い」は「40代」が最も多くなっている。「新聞やテレビ等での政治や選挙についての報道」は、「80歳以上」で最も多い。(図表Ⅳ-2-2)

図表Ⅳ-2-2 若年層における投票意識の向上(性別・年齢別)



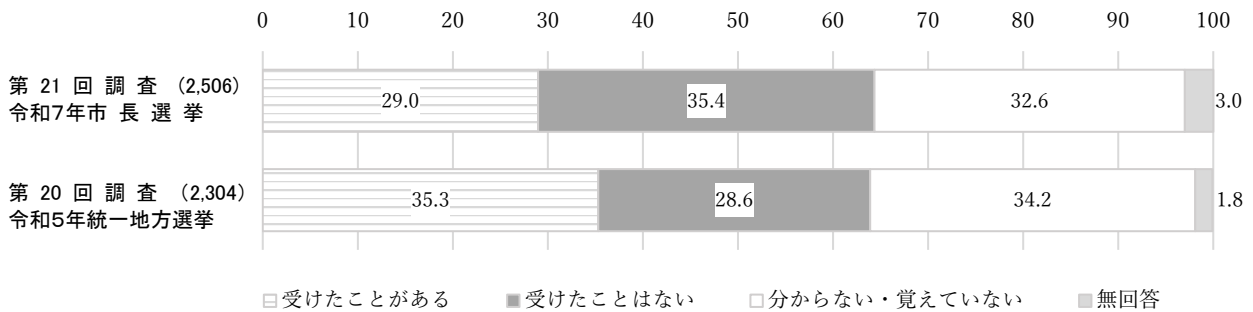
3 政治や選挙に関する学校教育と投票行動の関連性

(1) 政治や選挙に関する学校教育

問13 あなたは学校教育で、以下に示すような、政治や選挙に関する授業などを受けたことがありますか。(〇は1つだけ)

図表Ⅳ-3-1 政治や選挙に関する学校教育

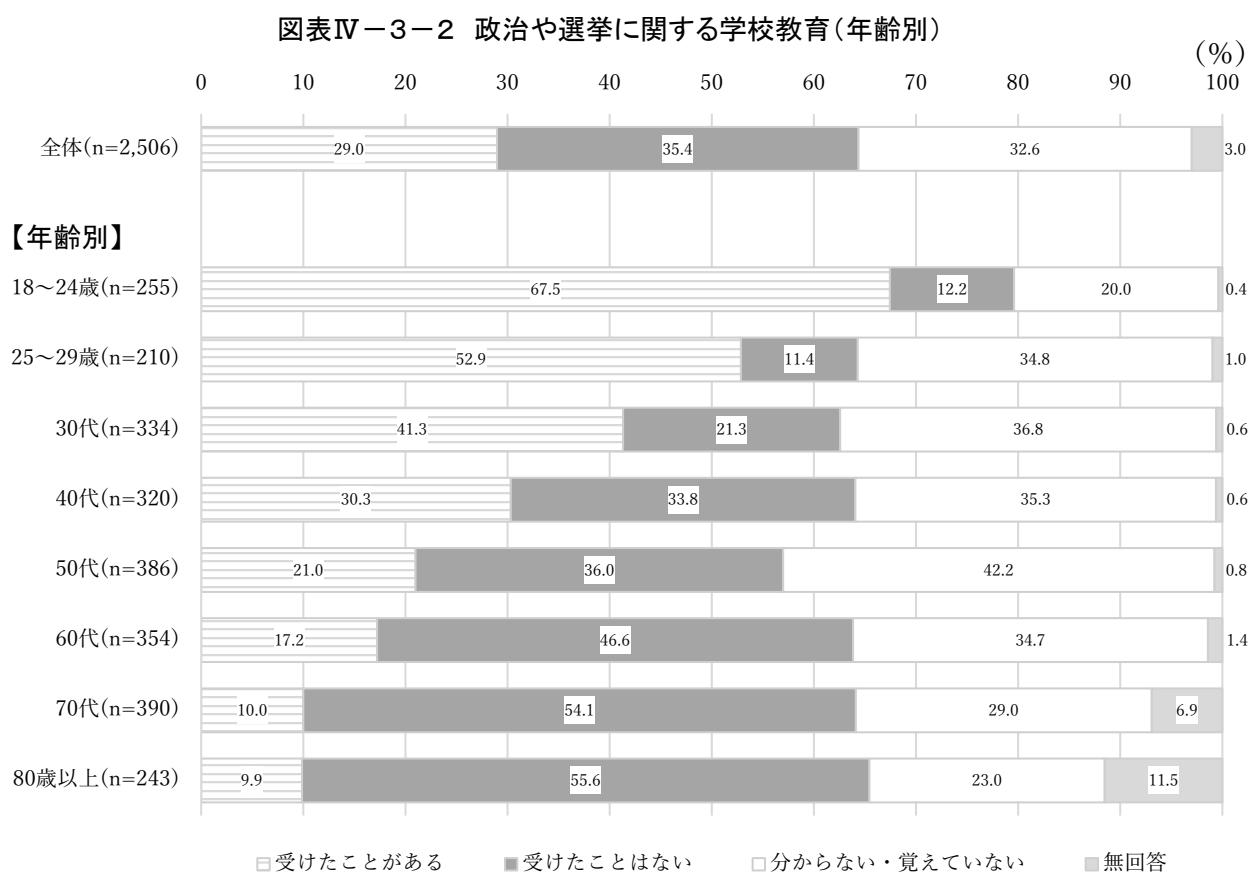
(%)



政治や選挙に関する学校教育について聞いたところ、「受けたことはない」が35.4%で最も多く、次いで「分からない・覚えていない」(32.6%)、「受けたことがある」(29.0%)の順となっている。

時系列で比較すると、「受けたことがある」は、前回(35.3%)から6.3ポイント減少し、「受けたことはない」は、前回(28.6%)から6.8ポイント増加し逆転している。本項目は第20回調査(令和5年統一地方選挙)から新設のため第20回調査と比較している。(図表Ⅳ-3-1)

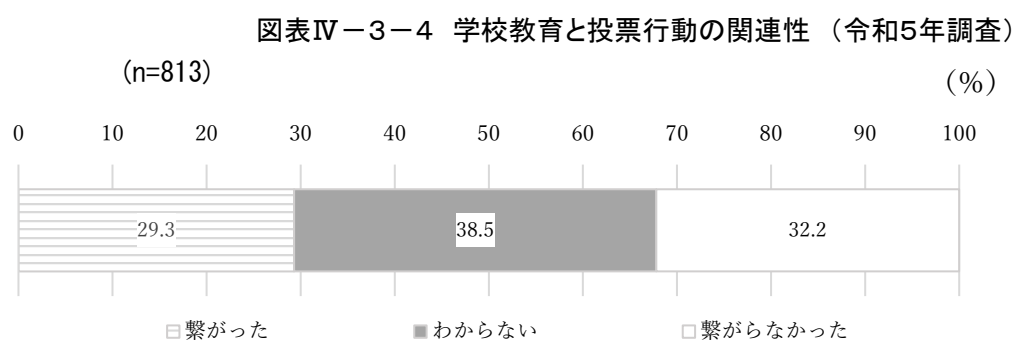
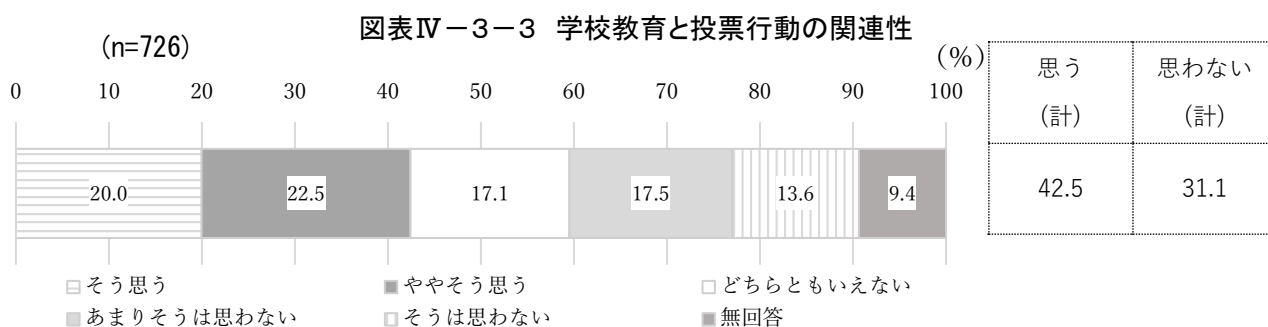
年齢別にみると、「受けたことがある」は若年代になるにつれ増加し、「18～24歳」（67.5%）が最も割合が高い。（図表Ⅳ－3－2）



(2) 学校教育と投票行動の関連性

(問13で「1 受けたことがある」とお答えの方に)

問13-1 政治や選挙に関する授業などを受けたことは、有権者となったおきに投票に行くことに繋がったと思いますか。(○は1つだけ)

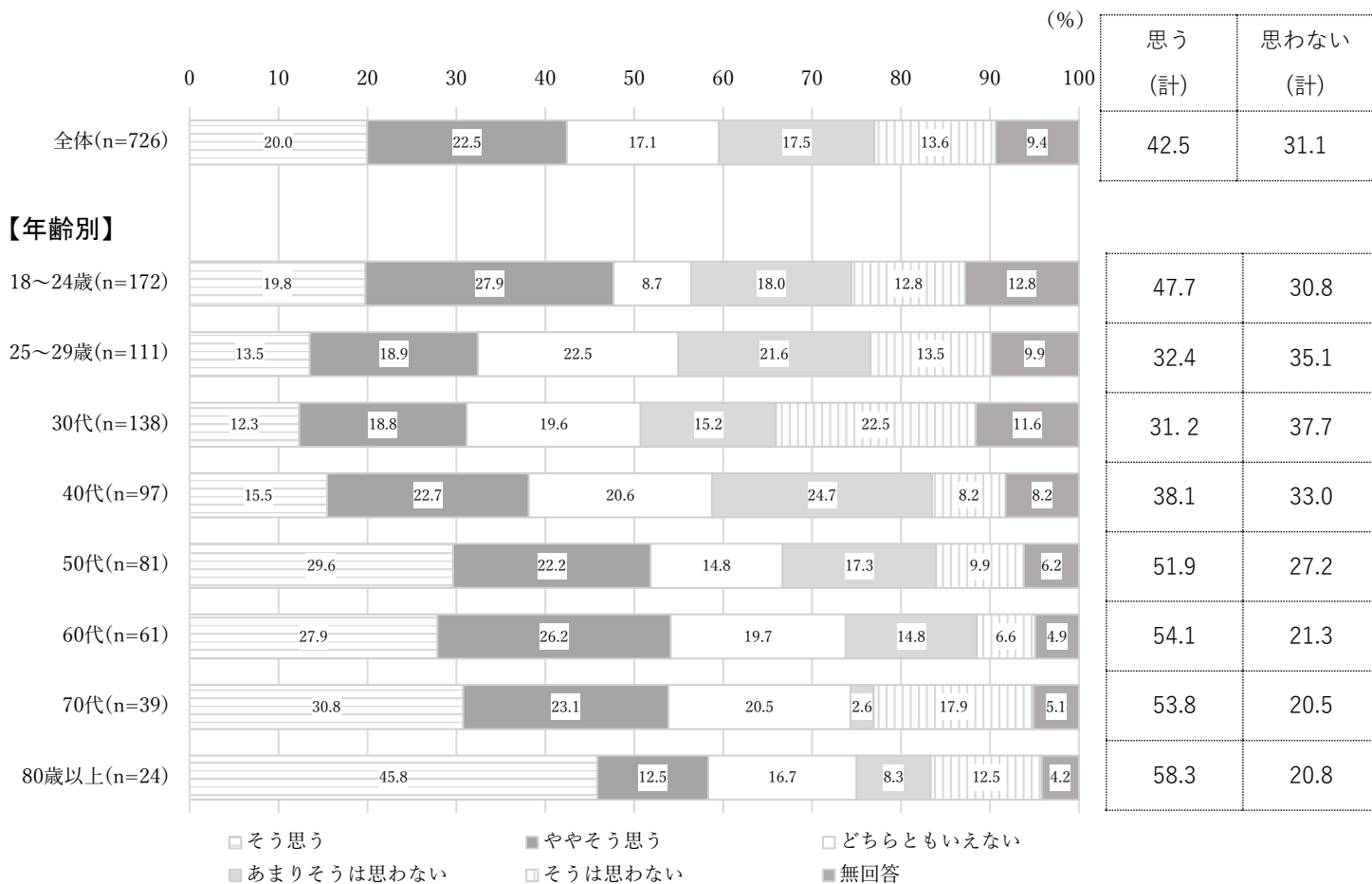


政治や選挙に関する学校教育について「受けたことがある」と答えた方(726人)に、学校教育と投票行動の関連性について聞いたところ、「そう思う」(20.0%)と「ややそう思う」(22.5%)の合計の『思う(計)』は、42.5%で、「そう思わない」(13.6%)と「あまりそう思わない」(17.5%)の合計の『思わない(計)』は、31.1%となっている。『思う(計)』が『思わない(計)』より、11.4ポイント高い。(図表IV-3-3)

第20回調査(令和5年統一地方選挙)では、同じ質問で、回答選択肢が、「繋がらなかった」(32.2%)で「分からない」(38.5%)、「繋がった」(29.3%)であり、比較すると『思う(計)』は、前回の「繋がった」から13.1ポイント増加し、『思わない(計)』は、前回の「繋がらなかった」から1.1ポイント減少している。(図表IV-3-4)

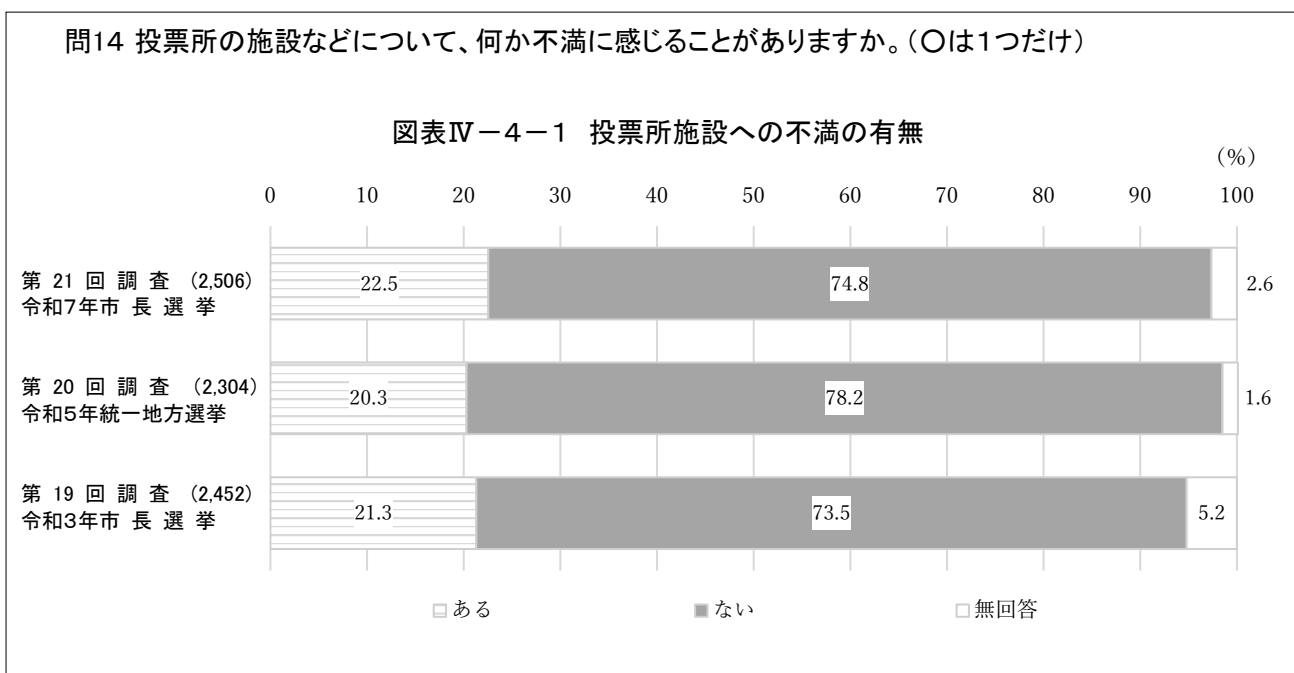
年齢別にみると、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計の『思わない(計)』は、若年代がやや多い傾向があり、「30～39歳」(37.7%)で最も割合が高い。一方、「そう思う」と「ややそう思う」の合計の『思う(計)』は、年齢が高くなるにつれ、増加する傾向にあり、「80歳以上」(58.3%)で最も割合が高くなっている。(図表Ⅳ-3-5)

図表Ⅳ-3-5 学校教育と投票行動の関連性(年齢別)



4 投票所の環境

(1) 投票所への不満の有無



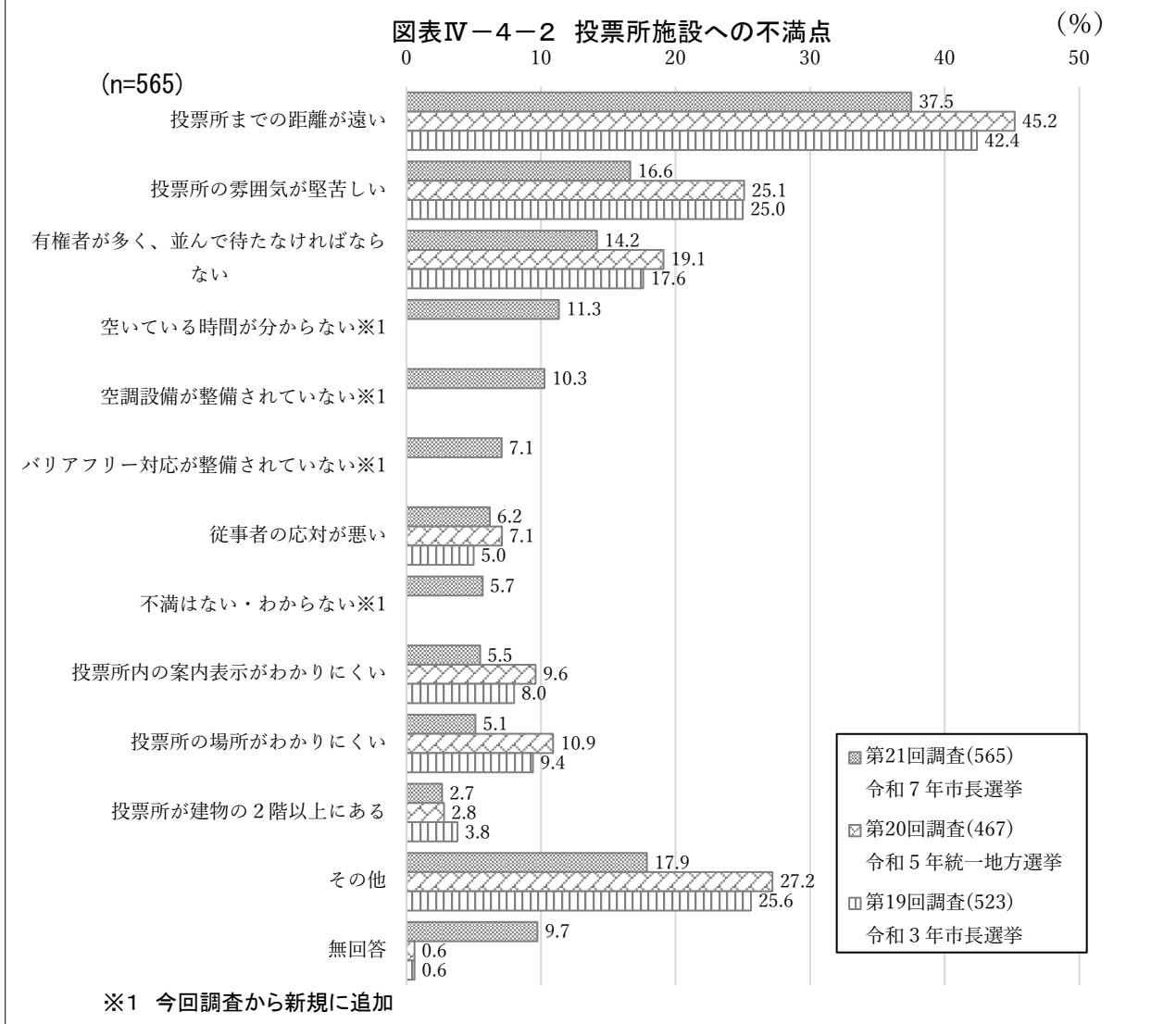
投票所についての不満を聞いたところ、不満が「ある」が22.5%、「ない」が74.8%となっている。

第19回調査(令和3年市長選挙)と比較すると「ある」(22.5%)は前回(21.3%)より1.2ポイント増加し、「ない」(74.8%)は前回(73.5%)より1.3ポイント増加している。(図表Ⅳ-4-1)

(2) 当日投票所への不満点

(問14で「1 ある」とお答えの方に)

問14-1 あなたが当日投票所に対して不満に思うことを、次の中から3つまで選んでください。

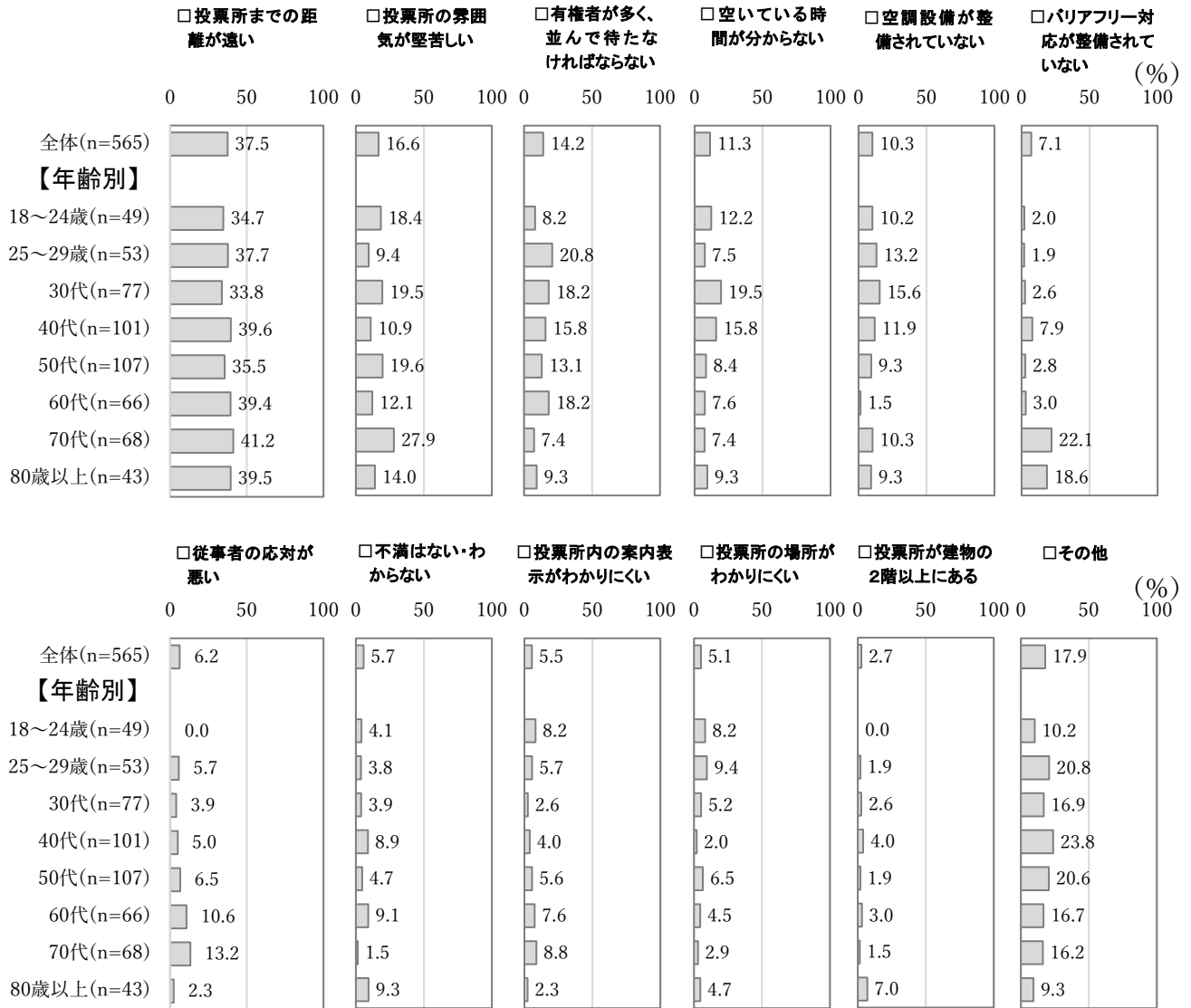


投票所について不満が「ある」と答えた方(565人)に、不満に思うことは何か聞いたところ、「投票所までの距離が遠い」が37.5%で最も多く、次いで、「投票所の雰囲気が堅苦しい」(16.6%)「有権者が多く、並んで待たなければならない」(14.2%)の順となっている。(図表IV-4-2)

年齢別にみると、「投票所までの距離が遠い」は、「70歳～79歳」（41.2%）が最も高い。

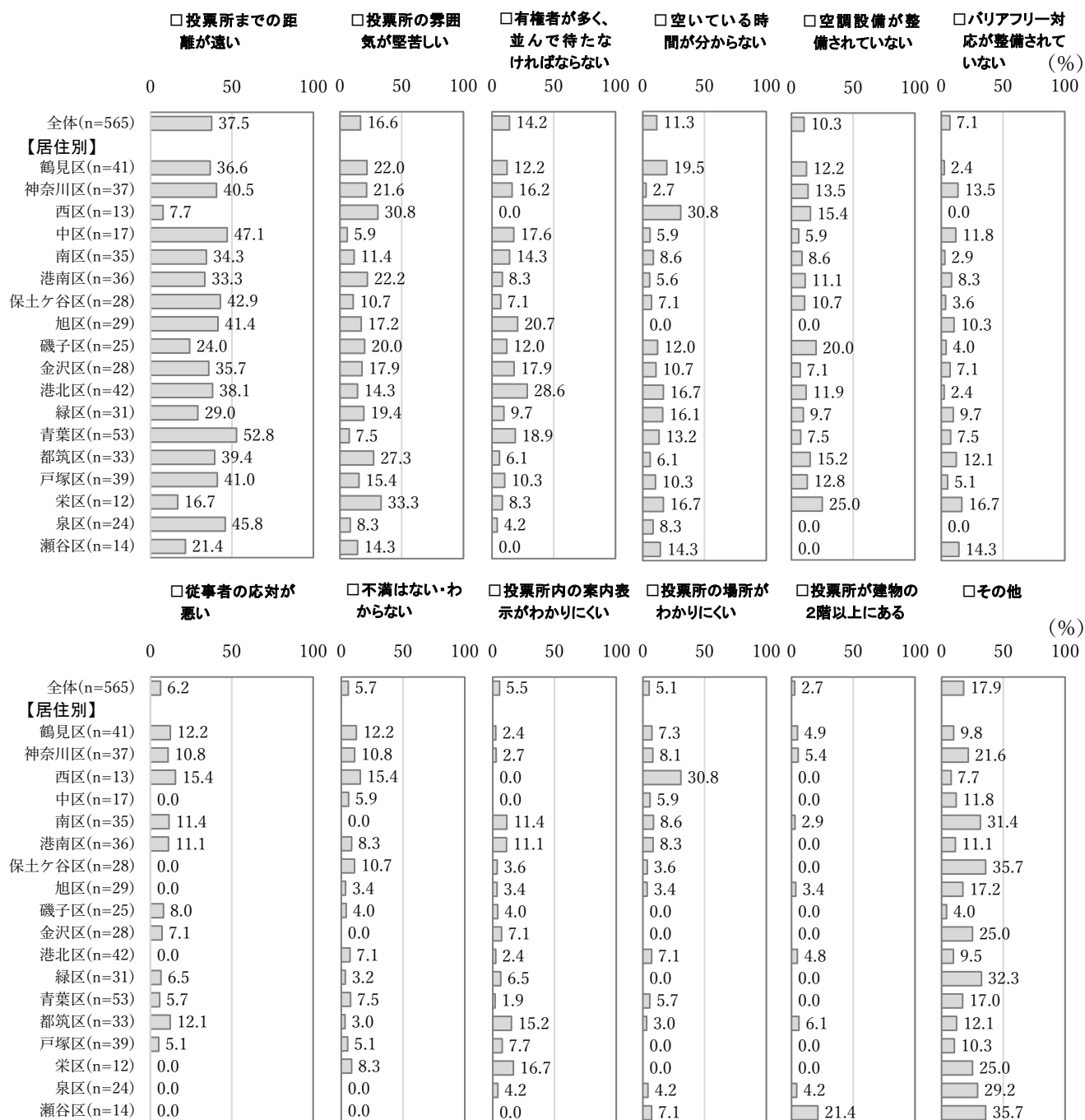
「有権者が多く、並んで待たなければならない」は、「25歳～29歳」（20.8%）が最も高く、「空いている時間が分からない」は「30代」（19.5%）が最も高い。（図表Ⅳ-4-3）

図表Ⅳ-4-3 当日投票所への不満点（年齢別）



居住区別にみると、「投票所までの距離が遠い」は、「青葉区」(52.8%)が最も高い。「有権者が多く、並んで待たなければならない」は、「港北区」(28.6%)が最も高い。(図表IV-4-4)

図表IV-4-4 当日投票所への不満点 (居住区別)



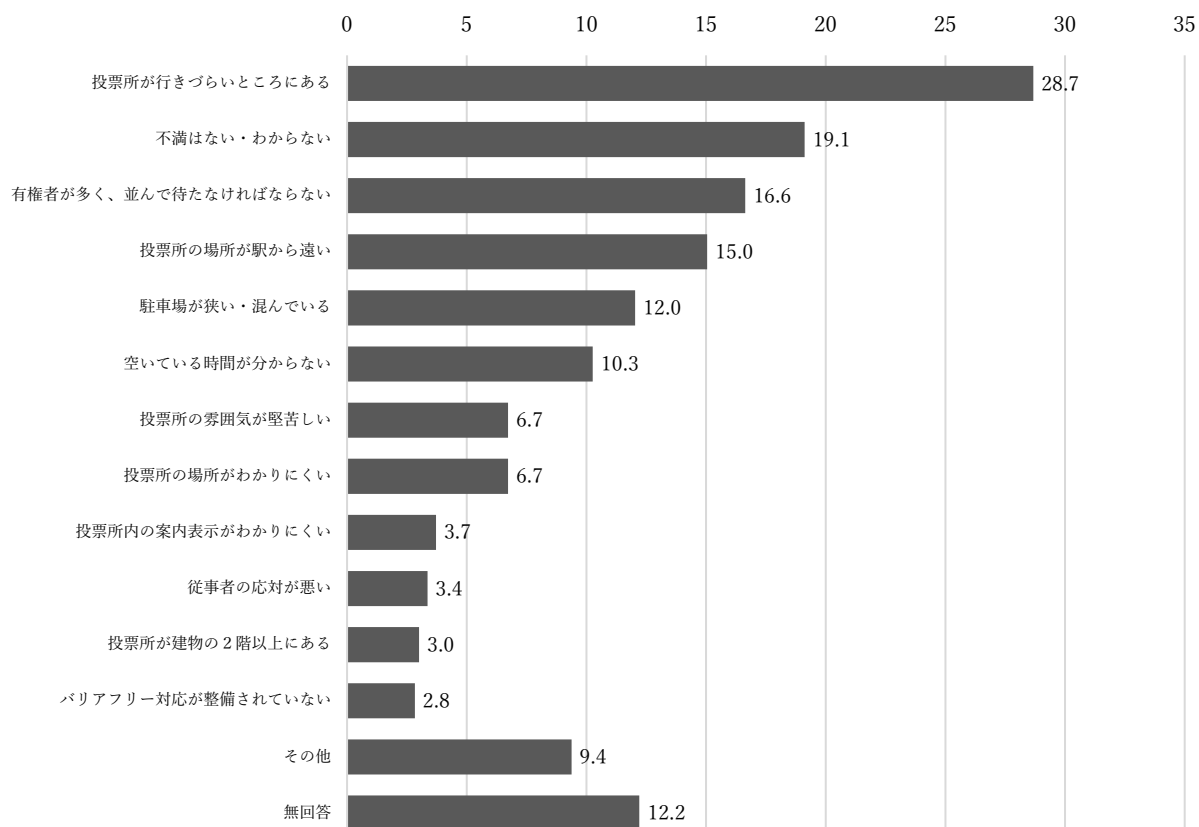
(3) 期日前投票所への不満点

問 14-2 あなたが期日前投票所に対して不満に思うことを、次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

(n=565)

図表IV-4-5 期日前投票所への不満点

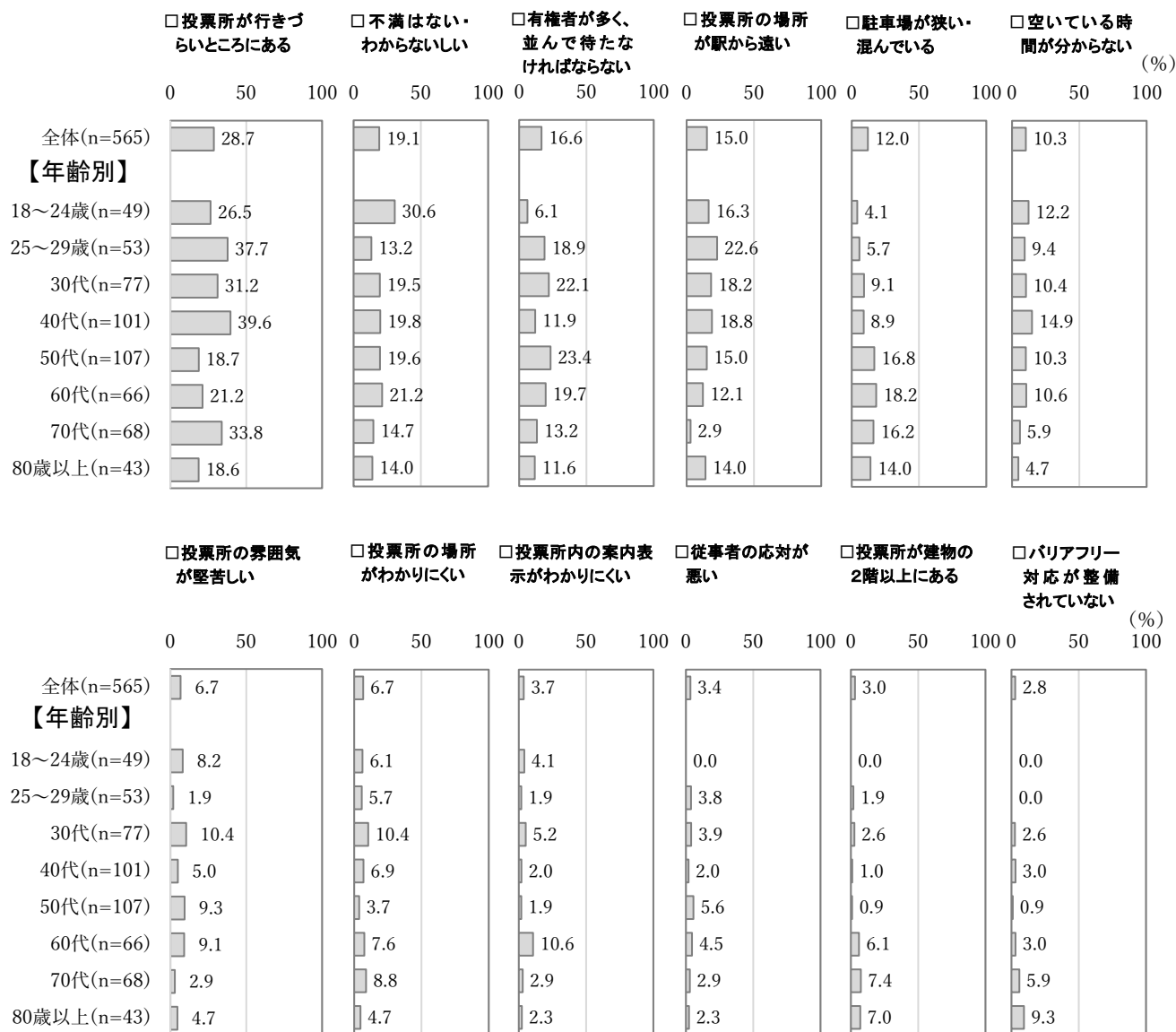
(%)



投票所について不満が「ある」と答えた方(565人)に、不満に思うことは何か聞いたところ、「投票所が行きづらいところにある」が28.7%で最も多く、次いで、「不満はない・わからない」(19.1%)「有権者が多く、並んで待たなければならない」(16.6%)の順となっている。(図表IV-4-5)

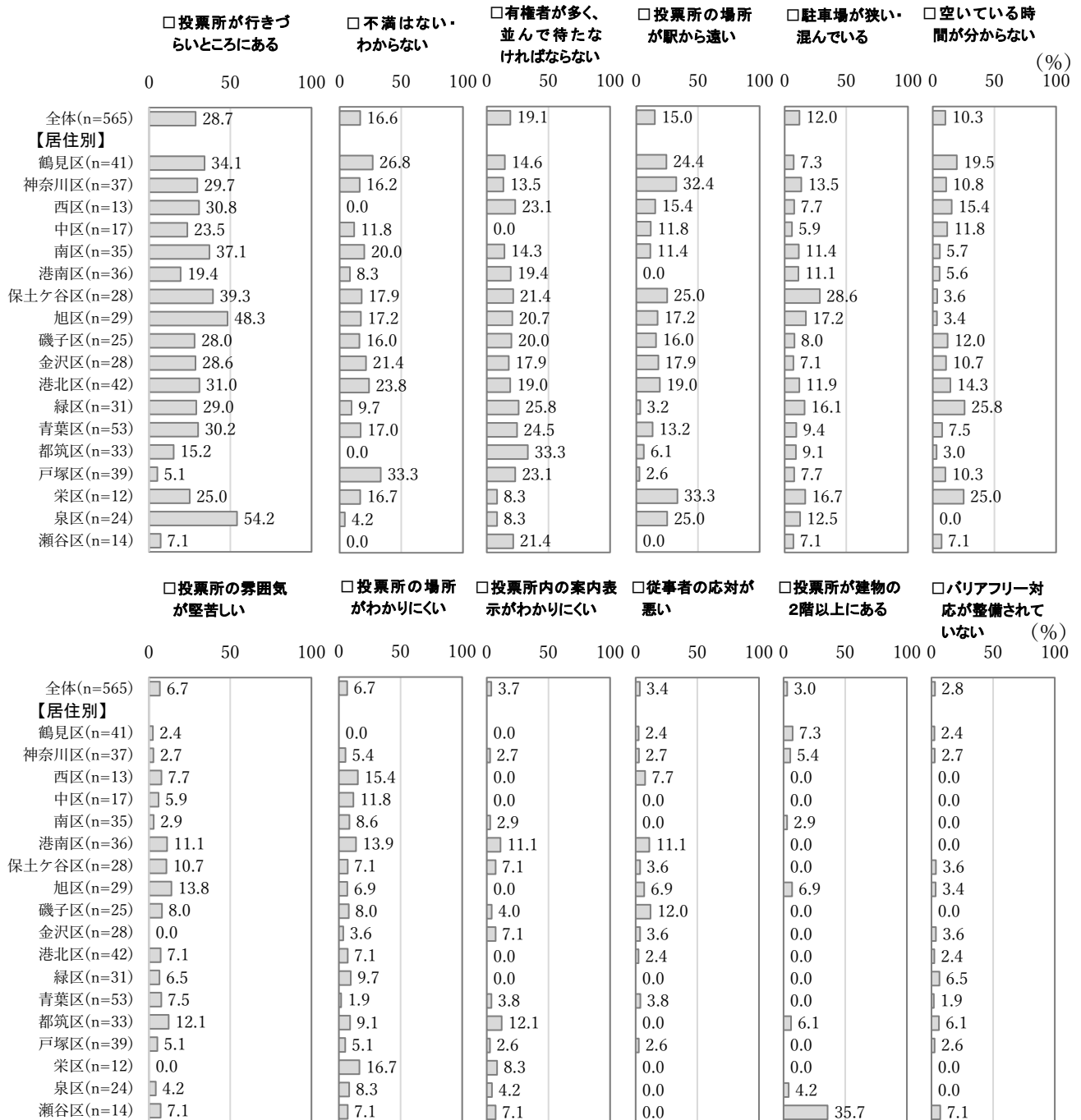
年齢別にみると、「投票所が行きづらいところにある」は「40代」(39.6%)、「投票所の場所が駅から遠い」は「25～29歳」(22.6%)が最も高い。「有権者が多く、並んで待たなければならない」は、「50代」(23.4%)、「駐車場が狭い・混んでいる」は「60代」が最も高い。(図表Ⅳ-4-6)

図表Ⅳ-4-6 期日前投票所への不満点(年齢別)



居住区別にみると、「投票所が行きづらいところにある」は、「泉区」(54.2%)、「有権者が多く、並んで待たなければならない」は、「都筑区」(33.3%)、「投票所の場所が駅から遠い」は、「栄区」(33.3%)、「駐車場が狭い・混んでいる」は、「保土ヶ谷区」(28.6%)、「空いている時間が分からない」は、「緑区」(25.8%) がそれぞれ最も高くなっている。(図表Ⅳ-4-7)

図表Ⅳ-4-7 期日前投票所への不満点 (居住区別)



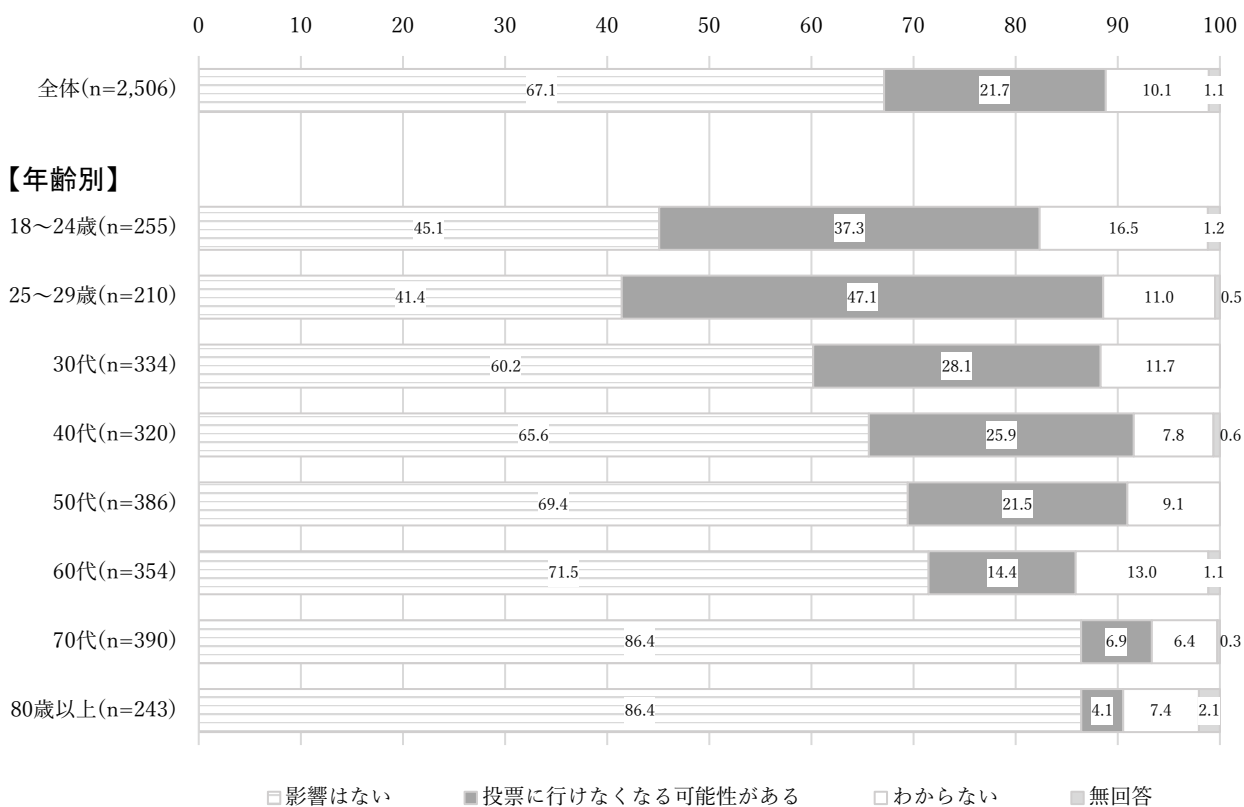
(4) 投票時間と投票行動

問 15 現在、選挙当日の投票時間は「午前7時から午後8時」ですが、終了時刻が1～2時間早まった場合、あなたの投票行動に影響はありますか。(※期日前投票の投票終了時刻は午後8時のままで変更しない場合。)

図表Ⅳ-4-8 投票時間短縮の影響

(n=2,506)

(%)



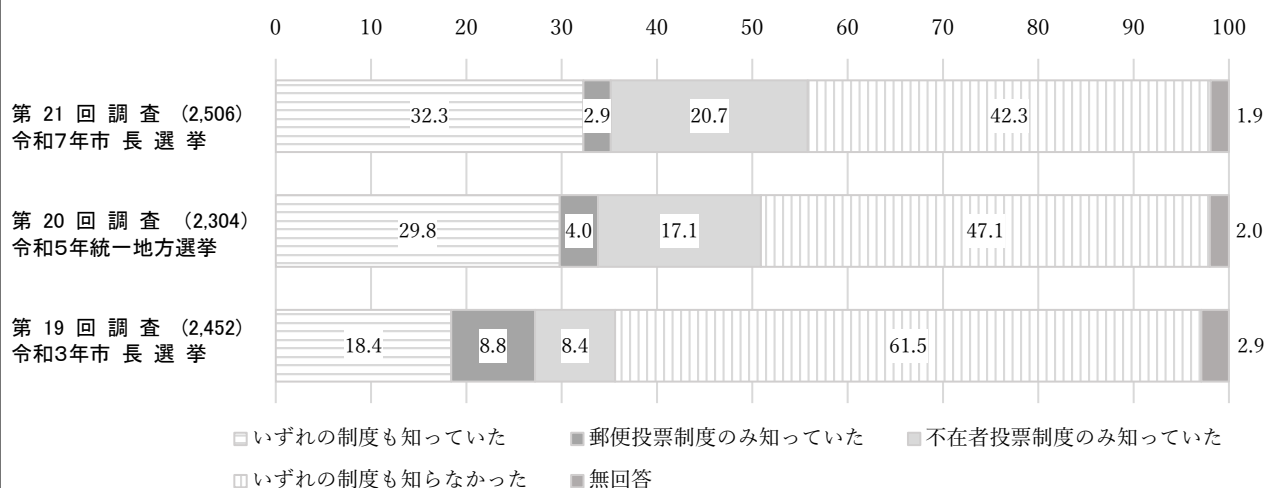
期日前投票は午後8時までで変更はなく、選挙当日の投票時間「午前7時から午後8時」の終了時刻が1～2時間早まった場合、投票行動に影響があるかを聞いたところ、「影響がない」が67.1%、「投票に行けなくなる可能性がある」が21.7%となっている。

年齢別にみると、「投票に行けなくなる可能性がある」が「影響はない」を上回ったのは「25～29歳」のみであった。(図表Ⅳ-4-8)

5 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度と病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度(不在者投票制度)の認知

問16 あなたは、身体に重度の障害のある方や要介護5の方が自宅等で郵便により投票ができること(郵便投票制度)や、都道府県選挙管理委員会が指定した病院や老人ホーム等に入院、入所している方がその施設で投票ができること(不在者投票制度)をご存じでしたか。(〇は1つだけ)^{※1}

図表Ⅳ-5-1 身体に重度の障害のある方等の郵便投票制度と病院・高齢者施設等に入院・入所している方の施設内投票制度(不在者投票制度)の認知 (%)



※1 以前は「郵便投票制度」と「不在者投票制度」別々に認知を聞いている

郵便投票制度や不在者投票制度を知っているか聞いたところ、「いずれの制度も知っていた」は32.3%、「郵便投票制度のみ知っていた」は2.9%、「不在者投票制度のみ知っていた」は20.7%、「いずれの制度も知らなかった」は42.3%となっている。

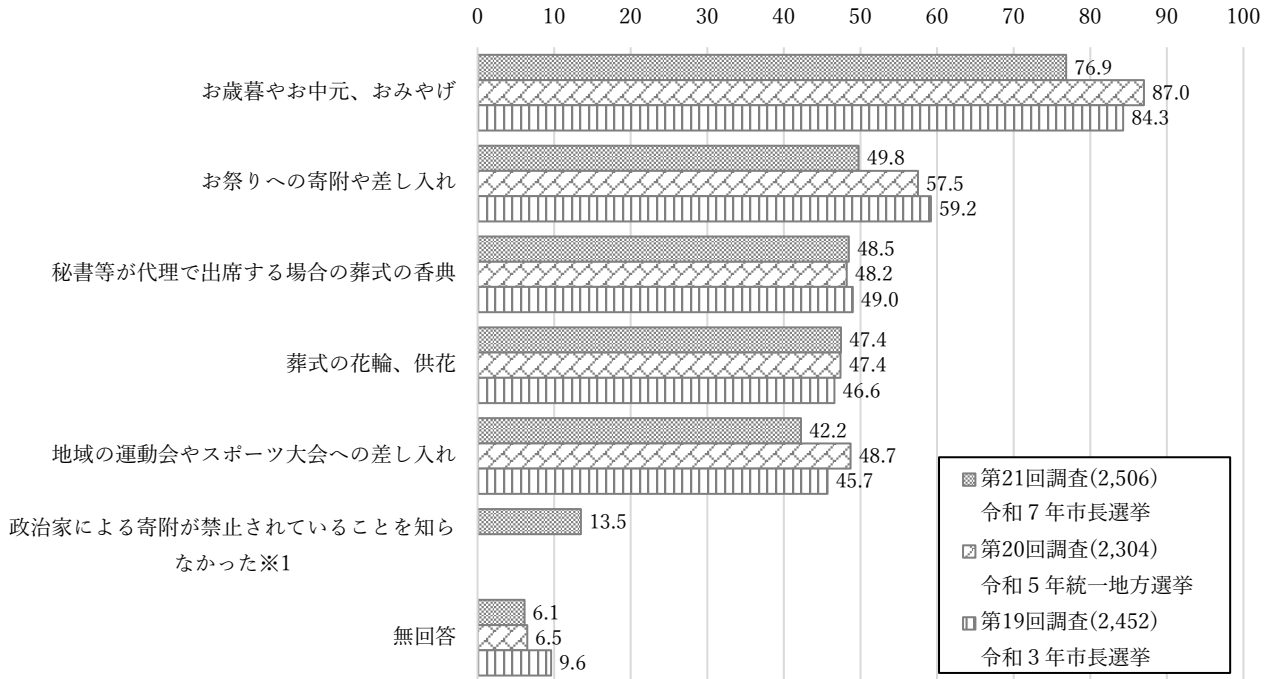
第19回調査(令和3年市長選挙)と比較すると、「いずれの制度も知っていた」(32.3%)が第19回調査(18.4%)より13.9ポイント増加しており、「いずれの制度も知らなかった」(42.3%)は、第19回調査(61.5%)より19.2ポイント減少している。(図表Ⅳ-5-1)

6 政治家の寄附が罰則の対象となることの認知

問17 政治家が、選挙区内の人に金品を贈ることは、禁止されています。次の1～5は、罰則をもって禁止されている寄附にあたるものですが、あなたの知っているものをすべてあげてください。(〇はいくつでも)

図表IV-6-1 罰則をもって禁止されている寄附にあたるもの

(%)



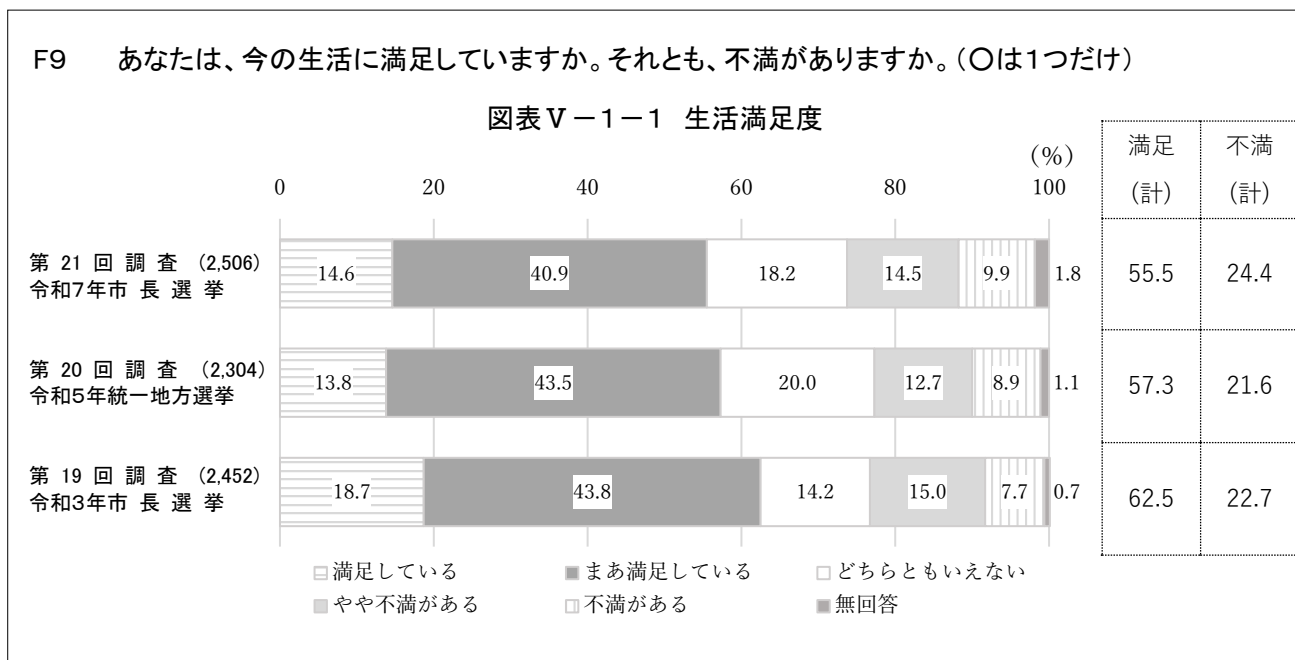
※1 今回の調査から回答選択肢として追加

罰則をもって禁止されている寄附にあたるものを知っているか聞いたところ、「お歳暮やお中元、おみやげ」が76.9%で最も多く、次いで「お祭りへの寄附や差し入れ」(49.8%)、「秘書等が代理で出席する場合の葬式の香典」(48.5%)、「葬式の花輪、供花」(47.4%)、「地域の運動会やスポーツ大会への差し入れ」(42.2%)の順となっている。

また、「政治家による寄附が禁止されていることを知らなかった」と回答した人は13.5%となった。

V 市民生活

1 生活満足度



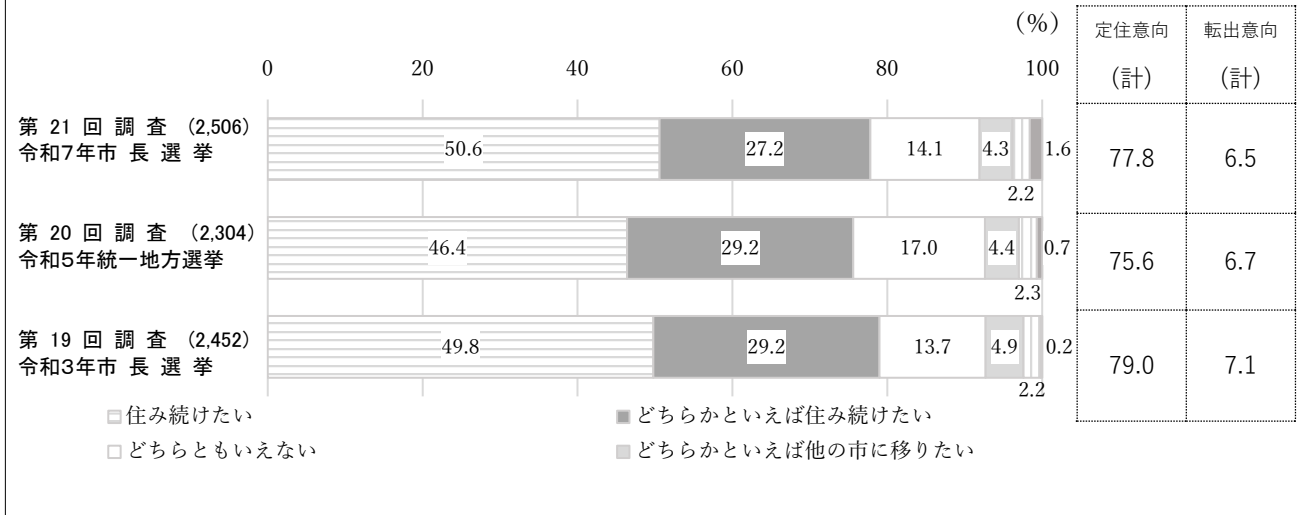
今の生活の満足度について聞いたところ、「満足している」(14.6%)と「まあ満足している」(40.9%)を合わせた『満足(計)』は55.5%となっている。一方、「やや不満がある」(14.5%)と「不満がある」(9.9%)を合わせた『不満(計)』は24.4%となっている。

『満足(計)』(55.5%)は、第19回調査(62.5%)と比較すると、7.0ポイント減少している。(図表V-1-1)

2 居住意向

F10 あなたは、今後も横浜市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

図表V-2-1 居住意向



今後も横浜市に住み続けたいかについて聞いたところ、「住み続けたい」(50.6%)と「どちらかといえば住み続けたい」(27.2%)を合わせた『定住意向(計)』は77.8%となっている。一方、「どちらかといえば他の市に移りたい」(4.3%)と「他の市に移りたい」(2.2%)を合わせた『転出意向(計)』は6.5%となっている。

『定住意向(計)』(77.8%)は第19回調査(79.0%)と比較すると、1.2ポイント減少している。(図表V-2-1)